

志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書

県営特殊農地保全整備事業に伴う  
埋蔵文化財確認調査報告書

# 弓場ヶ尾地区

蓑輪遺跡  
柳遺跡

1980・3

鹿児島県曾於郡志布志町教育委員会

至松山

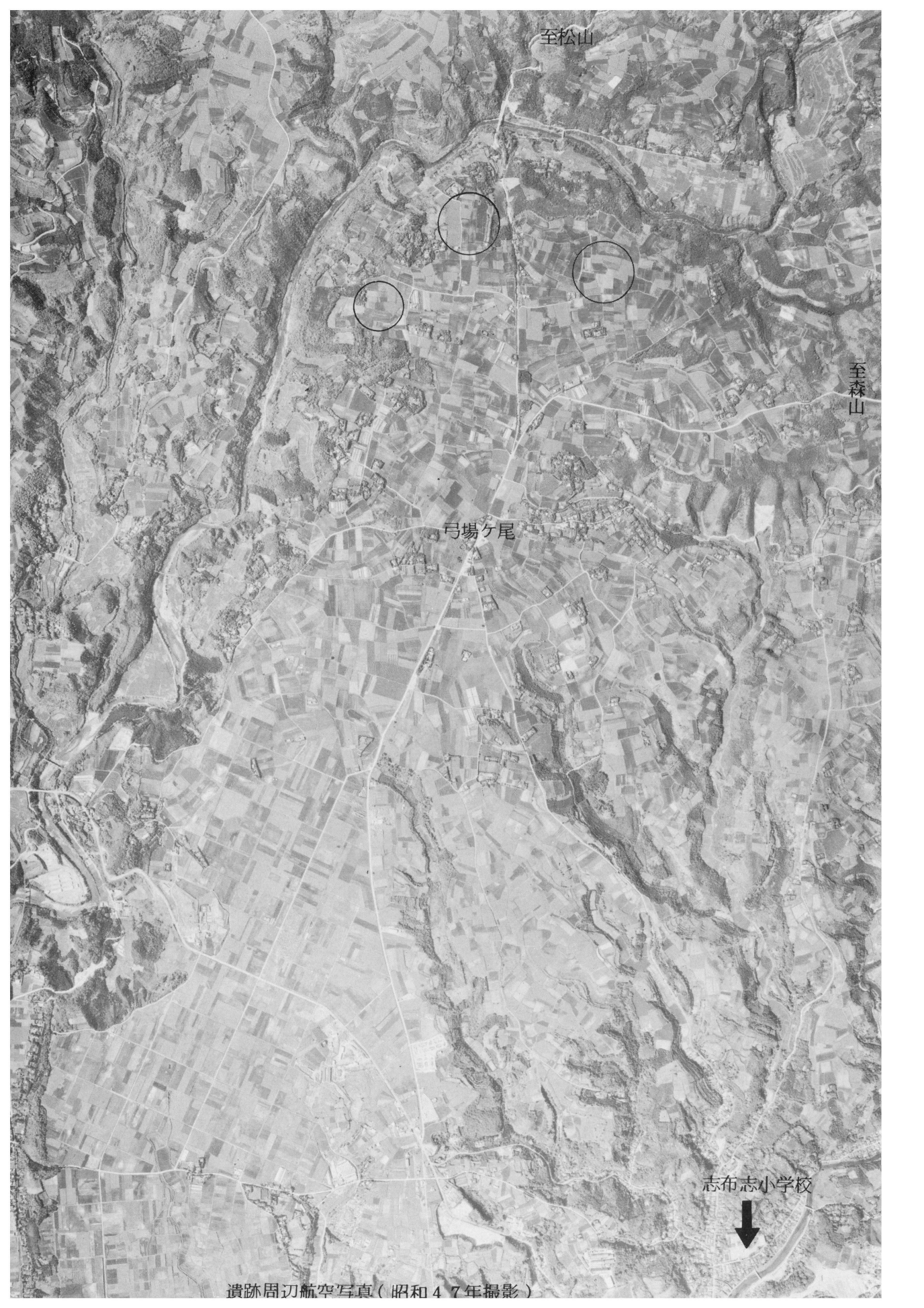
至森山

弓場ヶ尾

志布志小学校



遺跡周辺航空写真(昭和47年撮影)





## 序 文

志布志を含む大隅地域は、ダグリ古墳や塚崎、唐仁、横瀬などの古墳群をはじめとする埋蔵文化財の包蔵地であり、地理的にも古代文化解明の重要な豊庫とされているところであります。

これらの文化財は、私たちの祖先が永い歴史の中で培い、保存してきた国民的財産であるとともに、私たちの生活の進歩と伝統の新しい展開であり、これらの文化財をながく後世に継承し、未来文化の創造発展に役立てることは、現代に生きる私たちにあたえられた責務だと考えられます。

本町では、これらの文化財の保獲保存の重要性に鑑み、遺跡の保存整備や民俗文化財の資料調査、並びに埋蔵文化財の調査等を行っているものであります。特に、町内埋蔵文化財の調査については、一部の研究者や町誌上巻編纂の際にも数多くの遺跡を確認しており、更に今後の調査に委ねているものが大部分であります。

本町では、現在、農業振興に伴う特殊農地保全整備事などの土地開発事業が実施されていますが、これらの地域は埋蔵文化財遺跡包蔵地であるため、各種開発計画との調整を図りながら保存の適切、保獲の徹底と同滑化を期する必要があります。こうした現状を踏まえて、これらの事業主体者や関係機関などと連携を密にして、県教育庁文化課の御協力で、昭和54年度弓場ヶ尾遺跡周辺の埋蔵文化財確認調査を実施し、できるだけ現状保存に努めるとともに、記録保存としてこのほど報告書にまとめたものであります。

おわりに、確認調査から報告書の刊行にいたるまで、御協力、御指導をいただいた、県教育庁文化課の先生方、並びに御協力、御支援をいただいた関係者方々に、深甚の謝意を表し、この報告書を少しでも活用いただければ幸甚に存じます。

昭和55年3月

志布志町教育委員会

## 例 言

- 1, この報告書は, 県営特殊農地保全整備事業に伴って鹿兒島県志布志町教育委員会が事業主体者となり, 弓場ヶ尾地区の遺跡確認調査の報告書である。
- 2, 調査の組織は, 調査経過の中で記した。
- 3, 本書に用いたレベル数値は, 海拔絶対高である。
- 4, 航空写真及び地形図は, 志布志町所有を使用した。
- 5, 本書の遺物の実測図・写真等は, 立神・中村が分担して行った。
- 6, 本書の執筆及び編集は, 立神・中村が担当した。
- 7, 遺物番号は, 周辺遺跡( S - 1・2 ), 養輪遺跡( A - 1・2 ), 柳遺跡( B - 1・2 )とした。又柳遺跡の住居址出土の遺物については( H - 1・2 )とした。
- 8, 拓本は, 完形土器においては中心より左側に配し, 破片においては, 断面の右側に配した。
- 9, 挿図 2・3 に掲載した遺物の採集地は, 志布志町教育委員会の教示による。

# 本文目次

序文

例言

第1章	調査の経過	6
1.	調査に至るまでの経過	6
2.	発掘調査の組織	6
3.	発掘調査の経過	7
第II章	遺跡の位置及び周辺遺跡	12
第III章	標準層位について	21
第IV章	各遺跡の調査	23
第1節	A地区(菱輪遺跡)	23
1.	調査の概要及び層序	23
2.	弥生時代の遺構・遺物	27
3.	縄文時代の遺構・遺物	31
4.	小結	32
第2節	B-1地区(柳遺跡)	34
1.	調査の概要及び層序	34
2.	弥生時代の遺構・遺物	39
3.	縄文時代の遺構・遺物	42
4.	小結	54
第3節	B-2地区	56
1.	調査の概要及び層序	56
2.	小結	56

あとがき

## 挿 図 目 次

第 1 図	調査地区および周辺遺跡	1 3
第 2 図	周辺遺跡の出土遺物, ①	1 8
第 3 図	周辺遺跡の出土遺物, ②	1 9
第 4 図	弓場ヶ尾地区地形図および調査区	2 0
第 5 図	基本層序	2 1
第 6 図	A 地区(菱輪遺跡)地形図およびトレンチ配置図	2 2
第 7 図	A 地区(菱輪遺跡)土層図, ①	2 4
第 8 図	A 地区(菱輪遺跡)土層図, ②	2 5
第 9 図	A 地区(菱輪遺跡)土層図, ③	2 6
第 1 0 図	菱輪遺跡出土弥生式土器実測図, ①	2 8
第 1 1 図	菱輪遺跡出土弥生式土器実測図, ②	2 9
第 1 2 図	菱輪遺跡出土弥生式土器実測図, ③	3 0
第 1 3 図	菱輪遺跡出土縄文式土器実測図および拓影, 石鏃実測図	3 1
第 1 4 図	B-1 地区(柳遺跡)地形図およびトレンチ配置図	3 3
第 1 5 図	B-1 地区(柳遺跡)土層図, ①	3 5
第 1 6 図	B-1 地区(柳遺跡)土層図, ②	3 6
第 1 7 図	8, 9, 12, 13, トレンチおよび周辺地形	3 7
第 1 8 図	1 号住居址平面および断面図	3 8
第 1 9 図	1 号住居址出土土器実測図	4 0
第 2 0 図	1 号住居址出土軽石製品および土製品実測図	4 1
第 2 1 図	柳遺跡 7 トレンチ検出集石遺構	4 2
第 2 2 図	柳遺跡 8 トレンチ検出集石遺構	4 3
第 2 3 図	柳遺跡 16 トレンチ検出集石遺構	4 4
第 2 4 図	柳遺跡縄文式土器実測図および拓影, ①	4 7
第 2 5 図	柳遺跡縄文式土器実測図および拓影, ②	4 8
第 2 6 図	柳遺跡縄文式土器実測図および拓影, ③	4 9
第 2 7 図	柳遺跡縄文式土器実測図および拓影, ④	5 0
第 2 8 図	柳遺跡縄文式土器実測図および拓影, ⑤	5 1
第 2 9 図	柳遺跡縄文式土器実測図および拓影, ⑥	5 2
第 3 0 図	柳遺跡縄文式土器実測図および拓影, ⑦	5 3
第 3 1 図	柳遺跡石器実測図	5 4
第 3 2 図	B-2 地区地形図およびトレンチ配置図	5 5
第 3 3 図	B-2 地区土層図	5 6

## 版 図 目 次

図版 1-①	毛穴野遺跡出土櫛目文土器	59
②	外ノ牧出土石器	59
図版 2-①, ②	志布志町内出土石器	60
図版 3-①	葦輪遺跡第 1, 2 地点近景	61
②	葦輪遺跡第 7, 8, 9 地点遠景	61
図版 4-①, ②	葦輪遺跡第 2 地点弥生式土器出土状態	62
図版 5-①	葦輪遺跡 8-4 トレンチ縄文式土器出土状態	63
②	葦輪遺跡 8-5 トレンチ縄文式土器出土状態	63
図版 6-①, ②	葦輪遺跡 2 トレンチ出土弥生式土器	64
図版 7-①	葦輪遺跡 2 トレンチ出土弥生式土器	65
②	葦輪遺跡出土石鏃	65
③	葦輪遺跡出土縄文式土器	65
図版 8-①	柳遺跡遠景(松山町尾野見台地より)	66
②	柳遺跡 12 トレンチ検出住居址	66
図版 9-①	柳遺跡 12 トレンチ住居址(炭化物, 遺物出土状態)	67
②	柳遺跡 12 トレンチ住居址柱穴検出状態	67
図版 10-①	柳遺跡 12 トレンチ住居址炭化物出土状態	68
②	柳遺跡 12 トレンチ住居址軽石製品出土状態	68
図版 11-①	柳遺跡 12 トレンチ住居址内出土土器	69
②	柳遺跡 12 トレンチ住居址内出土軽石製品	69
③	柳遺跡 12 トレンチ住居址内出土土製品	69
図版 12-①	柳遺跡 7 トレンチ検出集石	70
②	柳遺跡 10 トレンチ縄文式土器出土状態	70
図版 13-①, ②	柳遺跡出土縄文式土器(吉田式)	71
図版 14-①	柳遺跡出土縄文式土器(吉田式)	72
②	柳遺跡出土縄文式土器(石坂式)	72
図版 15-①, ②	柳遺跡出土縄文式土器(石坂式)	73
図版 16-①, ②	柳遺跡出土縄文式土器(石坂式)	74
図版 17-①	柳遺跡出土縄文式土器(押型文, 押圧縄文)	75
②, ③	山形押型文土器	75
④	楕円押型文土器	75
⑤	押圧縄文土器	75



# 第 I 章 調査の経過

## 1 調査に至るまでの経過

県営特殊農地保全整備事業（弓場ヶ尾地区）に伴う埋蔵文化財分布調査は、昭和52年5月と昭和54年4月において鹿児島県教育委員会文化課が実施し遺跡の確認をした。

昭和54年度事業区は昭和52年5月、昭和55年度事業予定区は昭和54年4月の分布調査において藁輪3、柳2の5ヶ所が散布地として確認したものが対象となった。

そこで、これらの埋蔵文化財の取り扱いについては、鹿児島県農政部農地防災課、大隅耕地事務所と協議を重ねた結果、確認調査を実施することとなった。

確認調査は、国・県の補助事業として志布志町教育委員会が事業主体となり、昭和54年4月16日から5月19日までと昭和55年1月16日から2月6日まで実施した。その後の整理作業と報告書の作成は県教育委員会文化課調査員に依頼した。

## 2 発掘調査の組織

発掘調査主体者	志布志町教育委員会	
発掘調査責任者	志布志町 教育長	川之上俊一
発掘調査事務局	志布志町教育委員会	
	社会教育課長	山畑 敏寛
	社会教育係長	那加野久廣
	社会教育主事	諏訪田和久
	社会教育主事	山裾 幸良
	主 事	酒匂 正和
発掘調査担当者	鹿児島県教育委員会	
	文化課 主 事	立神 次郎
	主 事	中村 耕治

### 発掘作業員

町田六男・実吉安尚・曾原光男・松山禎蔵・稲葉南二・中村宏・堂園政則・永田熊夫・渡辺勇・大保昭雄・藤井ノブ・藤井鈴子・川間ミヤ子・酒匂トシ子・大峯ハル子・藤井セツエ・大峯和子・酒匂サチ子・平原カズ子・谷元ヒモ・川野スズエ・小園房江・加藤ヨネ・下山シズエ・田中ユリ子・曾原ツキ・大峯ヨシエ・井上洋子・加藤美代子・中村フカエ・松山ササエ・平山アヤ子・山重ミドリ・春木フクヨ・毛野鈴枝・平原タテ・川村カスミ・太崎チエ・永田和子・太崎成子・太崎カオヨ・池尻幸子・窪田光子・山元トシ子・原田カズ・検崎アヤ子・毛野ツルエ・大峯タツネ・秋丸ワカ・小久保るい子・松田貞子・毛野シズノ・毛野銚子・柿元信子・伊

東正子・西之園みゆき

このほか県教育委員会文化課長・山下典夫，同専門員・本蔵久三氏をはじめ県文化課職員，県文化課重富収蔵庫作業員，大隅耕地事務所・中原俊隆氏，志布志町農政課・尾川深・中川洋一氏，毛野製茶代表・毛野司氏の方々の協力を得た。記して謝意を表します。

### 3 発掘調査の経過

県営特殊農地保全整備事業に伴う弓場ヶ尾地区（A地区，B-1地区，B-2地区）の埋蔵文化財確認調査は，同事業区の作づけの関係で昭和54年4月16日より5月19日までと昭和55年1月16日より2月6日までの二次に分けて調査を行った。なお確認調査の整理作業及び報告書の作成は，調査終了後，県教育委員会文化課重富収蔵庫において実施された。その間の経過は，以下調査日誌抄をもつてかえたい。

#### 調査日誌抄

昭和54年

- 4月16日（月） 発掘器材運搬作業。町教委，町農政課，県耕地事務所打ち合せ（作業員や確認調査対象地選定作業などについて）。調査対象地選定作業。
- 4月17日（火） ベース設営作業。作業員に対して調査の主旨と作業上留意すべきことについて説明を実施。確認調査開始。A地区第1地点1トレンチ，2トレンチ，3トレンチ，4トレンチ，設定後掘り下げ作業実施。耕作土層中より成川式土器，弥生式土器破片の出土が見られる。
- 4月18日（水） 第1地点-1トレンチ，2トレンチ，3トレンチ，4トレンチ掘り下げ作業。4トレンチ第Ⅱa層より弥生式土器破片の出土が認められる。各トレンチともに土層実測実施。第1地点-1トレンチ，2トレンチ，3トレンチともに埋めもどし作業。
- 4月19日（木） 整理作業。
- 4月20日（金） 第1地点-5トレンチ，第2地点-1トレンチ，第3地点-1トレンチ，2トレンチ掘り下げ作業。第2地点-1トレンチ第Ⅱa層より弥生式土器破片の出土が認められる。第1地点-5トレンチ，第3地点-1トレンチ埋めもどし作業。
- 4月21日（土） 第3地点-2トレンチ，第4地点，1トレンチ，第5地点-1トレンチ，第6地点-1トレンチ掘り下げ作業。第3地点-2トレンチ土層実測実施後埋めもどし作業。
- 4月23日（月） 第2地点-1トレンチを拡張し掘り下げ作業実施。第4地点-1トレンチ，第5地点-1トレンチ，第6地点-1トレンチともに掘り下げ作業後土層実測実施。第7地点-1トレンチ，2トレンチ，3トレンチ埋めもどし作

- 業。第4地点、第5地点、第6地点について埋めもどし作業。第2地点-1拡張トレンチより弥生時代中期土器破片の出土。
- 4月24日(火) 第7地点-1トレンチ、2トレンチ、3トレンチ、第8地点-1トレンチ掘り下げ作業。第7地点-1トレンチの第Ⅳ層より縄文時代早期吉田式土器破片の出土が認められる。第2地点-1トレンチ拡張トレンチの遺物出土状態写真撮影、平面実測、土器取り上げ作業実施。
- 4月25日(水) 第2地点-1トレンチ、第7地点-3トレンチ、第8地点-2トレンチ、3トレンチ、4トレンチ掘り下げ作業。第8地点-3トレンチ第Ⅳ層より縄文時代早期吉田式土器破片の出土が認められる。
- 4月26日(木) 整理作業。
- 4月27日(金) 第7地点-1トレンチ、第8地点-1トレンチともに土層実測実施後埋めもどし作業。第8地点-2トレンチ、3トレンチ、4トレンチ、5トレンチ掘り下げ作業。第8地点-3トレンチ、4トレンチ、5トレンチ第Ⅳ層より縄文時代早期土器破片の出土が認められる。第9地点-1トレンチ、2トレンチ掘り下げ作業。第8地点-3トレンチ掘り下げ作業後土層実測実施。
- 4月28日(土) 第8地点-2トレンチ掘り下げ作業後土層実測実施。第8地点-3トレンチ埋めもどし作業。第8地点-4トレンチの第Ⅳ層最下部より貝殻文系統土器破片の出土が認められる。第9地点-1トレンチ、2トレンチ掘り下げ作業後土層実測実施。第9地点-1トレンチの第Ⅳ層より石鏃の出土が認められる。第9地点-1トレンチ、2トレンチ埋めもどし作業。第8地点-6トレンチ掘り下げ作業。
- 5月1日(火) 第8地点-6トレンチの第Ⅳ層より縄文時代早期の土器破片の出土が認められる。第10地点-1トレンチ、2トレンチ、第11地点-1トレンチ掘り下げ作業。雨のため作業を中止し、整理作業。
- 5月2日(水) 第8地点-6トレンチ掘り下げ作業後土層実測実施。同トレンチの第Ⅳ層縄文時代早期の土器破片の出土が認められる。第8地点-5トレンチ、6トレンチの埋めもどし作業。第10地点-1トレンチ、2トレンチ、3トレンチ掘り下げ作業。第11地点-2トレンチの掘り下げ作業。
- 5月3日(木) 第10地点-2トレンチ、3トレンチ掘り下げ作業。第11地点-2トレンチ掘り下げ作業後土層実測実施、埋めもどし作業。第12地点-1トレンチ、2トレンチ、3トレンチ掘り下げ作業。第2地点拡張トレンチの掘り下げ作業。弥生時代中期の甕・壺の破片の出土が認められる。
- 5月7日(月) 第13地点-1トレンチ、2トレンチ、第14地点-1トレンチ、2トレンチの掘り下げ作業。

- 5月8日(火) 第13地点-1トレンチ, 2トレンチ掘り下げ作業後土層実測実施, 埋めもどし作業。第14地点-1トレンチ, 2トレンチ掘り下げ作業。第14地点-2トレンチ土層実測実施後埋めもどし作業。第15地点-1トレンチ, 2トレンチ掘り下げ作業。
- 5月9日(水) 第10地点-1トレンチ, 2トレンチ, 3トレンチ土層実測実施後埋めもどし作業。第14地点-1トレンチ掘り下げ作業後土層実測実施, 埋めもどし作業。第12地点-1トレンチ, 2トレンチ, 3トレンチ, 4トレンチ掘り下げ作業。
- 5月10日(木) 第12地点-1トレンチ, 2トレンチ, 3トレンチ, 4トレンチ土層実測実施。第15地点-1トレンチ, 2トレンチ, 第16地点-1トレンチ掘り下げ作業。
- 5月11日(金) 第15地点-1トレンチ, 2トレンチ, 第16地点-1トレンチ, 2トレンチ, 3トレンチ, 第17地点-1トレンチ, 2トレンチ, 第18地点-1トレンチ掘り下げ作業。第16地点-1トレンチ掘り下げ作業終了。第18地点-1トレンチの第Ⅱ a層より弥生時代中期の土器破片の出土が認められるが, 大部分において遺物包含層は削平が見られる。
- 5月12日(土) 第15地点-1トレンチ, 第16地点-2トレンチ, 3トレンチ掘り下げ作業。第15地点-1トレンチ, 2トレンチ, 第16地点-1トレンチ土層実測実施後埋めもどし作業。第18地点-1トレンチ, 2トレンチ掘り下げ作業後土層実測実施。第18地点-1トレンチの第Ⅱ a層より弥生式土器破片の出土が認められる。
- 5月14日(月) 第13地点-1トレンチ, 2トレンチ, 3トレンチ, 4トレンチ, 第16地点-1トレンチ埋めもどし作業。第16地点-2トレンチ土層実測実施後埋めもどし作業。第16地点-3トレンチ掘り下げ作業, 同トレンチの第Ⅳ層より縄文時代早期の土器破片が見られ, 角礫多数も認められる。第17地点-1トレンチ土層実測実施後埋めもどし作業。
- 5月15日(火) 第16地点-3トレンチ土層実測実施後埋めもどし作業。第19地点-1トレンチ, 2トレンチ, 3トレンチ, 第20地点-1トレンチ掘り下げ作業。
- 5月16日(水) 第19地点-1トレンチ, 2トレンチ, 3トレンチ掘り下げ作業後土層実測実施, 埋めもどし作業。第20地点-1トレンチ, 2トレンチ, 3トレンチ, 4トレンチ掘り下げ作業。
- 5月17日(木) 第20地点-2トレンチ掘り下げ作業。第20地点-1トレンチ, 2トレンチ, 3トレンチ, 4トレンチ土層実測実施後埋めもどし作業。第21地点-1トレンチ, 2トレンチ, 第22地点-1トレンチ, 2トレンチ, 第23地点-1トレンチ, 2トレンチ掘り下げ作業。第21地点-2トレンチの第Ⅳ層より

黒曜石製石鏃の出土が認められる。

- 5月18日（金） 第21地点-1トレンチ，2トレンチ，第22地点-1トレンチ，2トレンチ掘り下げ作業後土層実測実施。第21地点については埋めもどし作業をも実施。第23地点-1トレンチ，2トレンチ，第24地点-1トレンチ，2トレンチ，第25地点-1トレンチ，2トレンチ掘り下げ作業。
- 5月19日（土） 第22地点-1トレンチ，2トレンチ埋めもどし作業。第23地点-1トレンチ，2トレンチ，第24地点-1トレンチ，2トレンチ，第25地点-1トレンチ，2トレンチ掘り下げ作業後土層実測実施，埋めもどし作業。第25地点2トレンチの第Ⅳ層最下部より集石遺構が認められるが，トレンチ外へ広がりが予想される。一次調査終了。

昭和55年

- 1月16日（水） 本日より二次調査開始。B地区（柳遺跡）の確認調査実施。ベース設定作業。第1地点-1トレンチ，2トレンチ，3トレンチ，4トレンチ掘り下げ作業。第1地点-2トレンチの第Ⅳ層より縄文時代早期の遺物の出土が認められる。
- 1月17日（木） 第1地点-1トレンチ，2トレンチ，3トレンチ，4トレンチ掘り下げ作業，各トレンチともに第Ⅳ層より縄文時代早期の遺物の出土が認められ，第1地点-4トレンチより集石遺構の検出がなされる。
- 1月18日（金） 第1地点-1トレンチ，2トレンチ，3トレンチ掘り下げ作業終了。第1地点-5トレンチ，6トレンチ，7トレンチ掘り下げ作業，5トレンチの第Ⅳ層より縄文時代早期の遺物の出土が認められる。
- 1月19日（土） 第1地点-5トレンチ，6トレンチ，7トレンチ，8トレンチ掘り下げ作業。5トレンチ，6トレンチ，7トレンチの第Ⅳ層より縄文時代早期の遺物の出土が認められ，7トレンチよりは集石遺構が検出される。
- 1月21日（月） 第1地点-5トレンチ，6トレンチ，7トレンチ掘り下げ作業。8トレンチ，9トレンチ，10トレンチ，11トレンチ掘り下げ作業。8トレンチの第Ⅳ層より縄文式土器破片の出土及び集石遺構の検出がなされる。
- 1月22日（火） 第1地点-8トレンチ掘り下げ終了。第1地点-9トレンチ，10トレンチ，12トレンチ掘り下げ作業。9トレンチの第Ⅳ層より縄文時代早期の土器破片の出土が認められる。12トレンチの第Ⅱ a層より弥生時代中期の住居址遺構が検出される。
- 1月23日（水） 第1地点-10トレンチ，12トレンチ，13トレンチ，14トレンチ，15トレンチ，16トレンチ掘り下げ作業。12トレンチの住居址遺構の掘り下げ作業，写真撮影及び平面プラン実測実施。13トレンチの第Ⅱ b層上面において，住居址遺構らしいプランが確認される。

- 1月24日(木) 第1地点-11トレンチ, 12トレンチ, 14トレンチ, 15トレンチ, 17トレンチ掘り下げ作業。12トレンチの住居址内遺構より柱穴9, 焼土, 土器破片, 軽石製製品, 棒状炭火物などが認められる。
- 1月25日(金) 第1地点-11トレンチ, 12トレンチ, 13トレンチ, 14トレンチ, 15トレンチ掘り下げ作業。11トレンチの第Ⅳ層より縄文時代早期の遺物の出土が認められる。12トレンチ, 住居址内平面実測, 住居址断面実測, 遺物取り上げ作業。13トレンチ拡張を実施し, 掘り下げ作業実施。14トレンチの第Ⅳ層より縄文時代早期の土器破片の出土が認められる。
- 1月26日(土) 第1地点-13トレンチ, 14トレンチ, 15トレンチ, 16トレンチ, 17トレンチ, 18トレンチ掘り下げ作業。13トレンチ, 住居址遺構と想定される落ち込みが認められ, 上面プランでとどめる。14トレンチの第Ⅳ層より西之表市下剥峯遺跡Ⅱb類土器と類似の土器破片の出土が認められる。16トレンチの第Ⅳ層より縄文時代早期の土器破片及び集石遺構が認められる。17トレンチの第Ⅳ層より縄文時代早期の遺物の出土が認められる。
- 1月30日(水) 第1地点-16トレンチ, 17トレンチ, 18トレンチ, 19トレンチ掘り下げ作業。各トレンチ(1トレンチより16トレンチ)の霜除去作業。第1地点-7トレンチ, 8トレンチ, 9トレンチ, 11トレンチについては, さらに下部層掘り下げ作業実施。
- 1月31日(木) 第1地点-16トレンチ, 17トレンチ掘り下げ終了。第1地点-18トレンチ19トレンチ, 第2地点-1トレンチ掘り下げ作業。第1地点-19トレンチの第Ⅳ層より縄文時代早期の土器破片の出土が認められる。第1地点-1トレンチより7トレンチと10トレンチ, 11トレンチ土層実測実施。第1地点-12トレンチ周辺地形の平板実測実施。
- 2月1日(金) 整理作業。
- 2月2日(土) 第1地点-18トレンチ, 19トレンチ, 第2地点-2トレンチ, 3トレンチ, 4トレンチ掘り下げ作業。
- 2月4日(月) 第2地点-2トレンチ, 3トレンチ, 4トレンチ掘り下げ作業終了。第1地点-1トレンチ, 2トレンチ, 3トレンチ, 13トレンチの埋めもどし作業。第1地点-8トレンチ, 9トレンチ, 13トレンチ, 14トレンチ土層実測実施。第1地点-7トレンチ, 8トレンチ, 9トレンチ, 16トレンチの集石遺構実測実施。
- 2月5日(火) 第1地点-12トレンチ, 15トレンチ, 16トレンチ, 17トレンチ, 18トレンチ, 19トレンチ, 第2地点-1トレンチ, 2トレンチ, 3トレンチ, 4トレンチ土層実測実施。
- 2月6日(水) 埋めもどし作業。発掘器材運搬作業。

## 第Ⅱ章 遺跡の位置及び周辺遺跡

蓑輪・柳の両遺跡は、鹿児島県曾於郡志布志町内ノ倉蓑輪、安楽柳にそれぞれ位置している。これらの遺跡の位置する弓場ヶ尾地区は、志布志町役場から、さらに奥北に約4.5kmの地点にあり、通称弓場ヶ尾台地北端部の畑地に所在する。

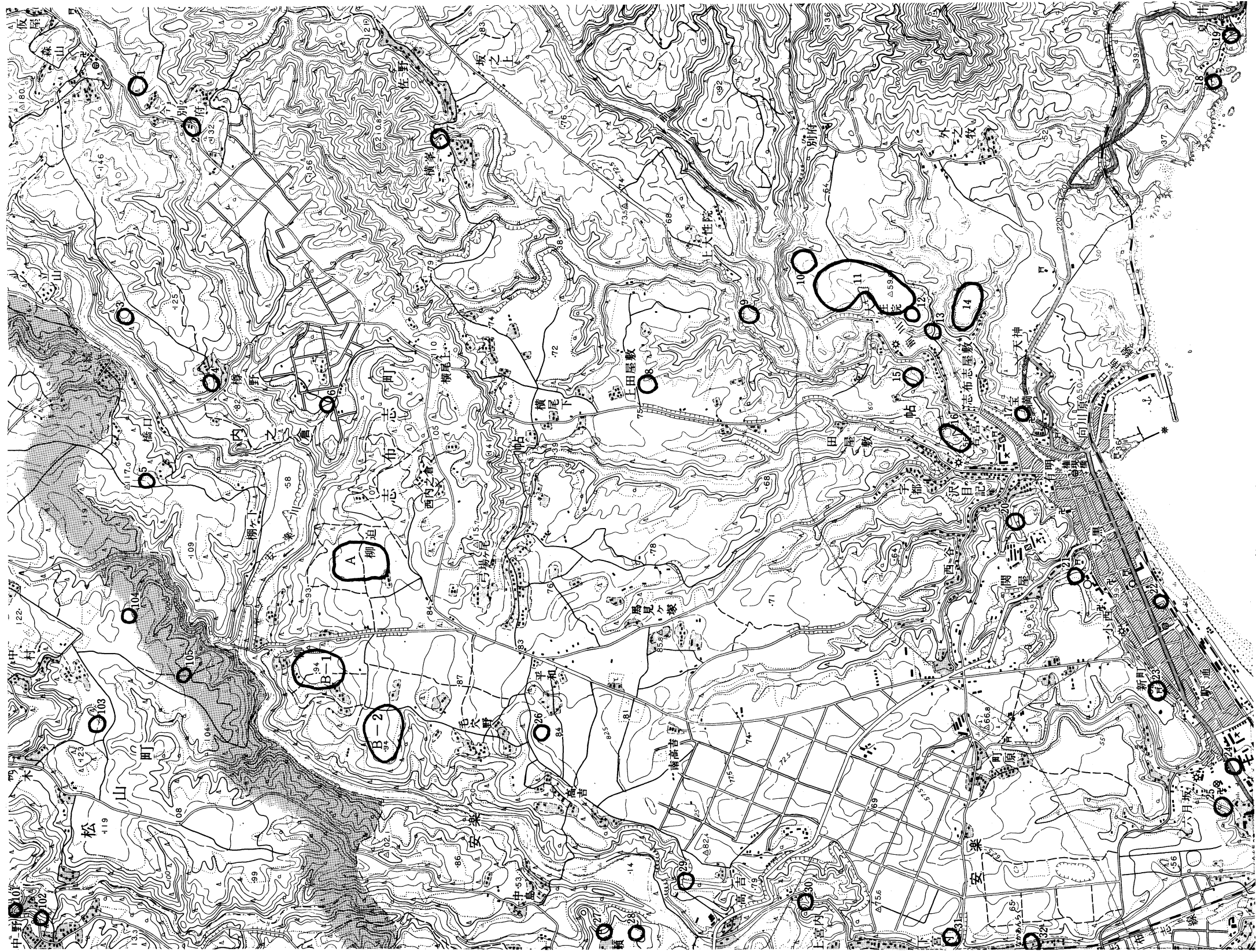
蓑輪・柳遺跡の位置する志布志町は鹿児島県の最東部で、大隅半島の東海岸で志布志湾の湾奥部、曾於郡の最南部に位置し、北東部から東部は宮崎県都城市及び串間市と相接して県境をなし、北西部から西部は曾於郡末吉町・松山町・有明町とに接しており、南部は志布志湾を臨み、砂丘と日南層群から成る岩石海岸とで構成されている。

志布志町の地形は、東西に最大幅約10.2km、南北に最大幅約23.9kmで総面積138.9km<sup>2</sup>で、志布志湾最奥部に位置する縦長の地形で山地・台地・低地とに大別され、さらに安楽川・大矢取川・前川を中心とした大小河川の活発な浸食活動により、急斜面や崖により分断された地勢となっている。

宮崎県との県境をなす東部の山地は、南邦珂山地の南端部となり、御在所岳(530.4m)、笠祇岳(444.2m)、陣岳(349.3m)などの山岳とで構成されており、宮崎県都城市・曾於郡末吉町との行政区画区域で、本町の極北に位置する大八重の三角点(691.6m)付近の山岳から標高を低くしながら東部の山岳地帯へと続き、さらに志布志湾の海岸沿線へと流れ込んでいる。これらの山地に続く丘陵地は、数多くの浸食谷が発達し、山麓及び山陵地の大部分は造成により段々畑と化している。山陵地に続く台地は、南九州に厚く堆積するシラス土壌で、シラス堆積層の上に砂礫または砂層、さらにローム層、新期火山灰層などが載りかかった状態の火山灰台地で占められている。この台地上は広大な畑作地帯となり、土地利用の占める割合が大きい。これらのシラス台地は安楽川・前川などの大小河川の浸食活動により深い浸食谷が樹枝状に走り、大小いくつもの台地とに分断されている。安楽川・前川を中心とする大小河川は、広大なシラス台地を貫流し、浸食谷を作り沖積低地を形成し、これらの低地は各所の河岸段丘上に発達している。さらに海岸段丘上に位置する低地は、水田及び市街地となり、海岸砂丘へと続き志布志海岸となる。

蓑輪・柳遺跡の周辺を概観すると北部及び東部にかけては、松山町との行政区画区域となり大野原台地が広がり、浸食活動により僅少の比高をもつ、いくつかの台地面とに分断されている。北東部は安楽川が蛇行しながら流れ、その沿岸は浸食谷が発達し、県道南之郷-志布志線沿いに樽野の集落地が所在する。南側は市街地背後の志布志台地へと続き、かなり広く平坦面をもつ台地で土地利用も高い所である。

蓑輪・柳遺跡の立地する台地は、内ノ倉下原の三角点(117.0m)と安楽毛穴野の三角点(115.7m)、安楽稻荷上にある三角点(102.1m)との三角点を結んだ範囲内に位置している。同台地の西側から北側にかけては、台地縁辺部を安楽川が流れ、その比高差は約50m~70mである。また同台地の中央部をほぼ南北に県道柿木-志布志線が縦断し、県道により台地を二分



第1図 調査地区および周辺遺跡



しており、そのほとんどが畑作地帯である。養輪遺跡は県道東側の台地、柳遺跡は西側台地上の畑地に、それぞれ位置している。

養輪遺跡は、松山禎蔵氏・大峯光秀氏宅周辺の一帯で、標高約98m～104mの緩傾斜を呈する台地上の畑地に位置する。同遺跡地の北側眼下は安楽川が流れ、活発な安楽川の浸食活動により浸食谷となり、同台地寄りには急激な傾斜面を呈し、その比高差は約65mである。南側は町道西弓場ケ尾線がほぼ東西に走り、西内ノ倉や弓場ケ尾の民家が点在し、西側は、県道柿木一志布志線が南北に走り、柳遺跡の所在する舌状台地となっている。

柳遺跡は、毛野製茶工場周辺一帯で、標高約94mのほぼ平坦な舌状台地上の畑地に位置している。同遺跡地の西側から北側にかけては、浸食谷を安楽川が流れ、松山町との行政区画区域となり大野原台地へと連っている。南側沿いは、畑地中央部を町道下柳線がほぼ東西に走り、東側は県道を隔てて養輪遺跡の所在する台地となる、同台地縁辺部には下柳部落の民家が点在している。

#### 周辺遺跡

志布志町管内には、縄文時代から古墳時代にかけて数多くの遺跡地が周知されている。遺跡地は安楽川や前川などの大小河川を中心とした流域に、その分布が見られ、126遺跡が周知されており、縄文時代70、弥生時代38、古墳時代18の内訳となっている。特に縄文時代の遺跡は、大隅半島の地域でも濃密な分布を示している。これらの遺跡のうち、片野洞穴遺跡(注1)、山ノ上遺跡(注2)、小淵遺跡(注3)、野久尾遺跡(注4)、別府(石鞠)遺跡(注5)、宮ノ前遺跡(注6)において全面もしくは一部において発掘調査が実施されている。

弓場ケ尾地区周辺の遺跡については、第1図と地名表に示すとおりであり、これまでの志布志町管内で採集された遺物の一部を紹介すると下記のようなものである。

#### 土器(第2図、図版1の1)

S-1は毛穴野遺跡発見の壺形土器で、口縁径23.3cmを測り、外開きの口縁部で口縁内面は、わずかな突起が見られる。口唇部は外方に開いて居り、その部分に7条の櫛描波状文が施される。頸部には三角突帯をめぐらしている。器面調整はヘラみがきが認められ、頸部内面には指による押圧調整痕が残される。この土器は弥生時代中期に位置するものと思われる。

#### 石器(第2図、第3図、図版1・図版2)

S-2は下牧遺跡発見の磨製石斧で、全長12.0cm、最大幅4.3cm、最大厚2.3cm、重さ160gを測る。両面とも入念な研磨が行なわれ、刃部は丸味をもち、鋭さがあり小さい刃こぼれが認められる。断面は胴部がわずかにふくらんでいる。S-3・4は下牧遺跡発見の石器である。S-3は全長24.7cm、最大幅14.7cm、最大厚1.6cm、重さ740gの磨製で扁平な有肩石器である。刃部と側縁の一部には製作する時のものか使用のためのか判断されがたいが大小の剥離が認められる。器面は研磨が入念に行なわれ、擦痕が表裏に残っている。S-4は全長24.1cm、最大幅16.3cm、最大厚2.4cm、重さ1025gの打製で扁平な有肩石器である。器面は両面周より

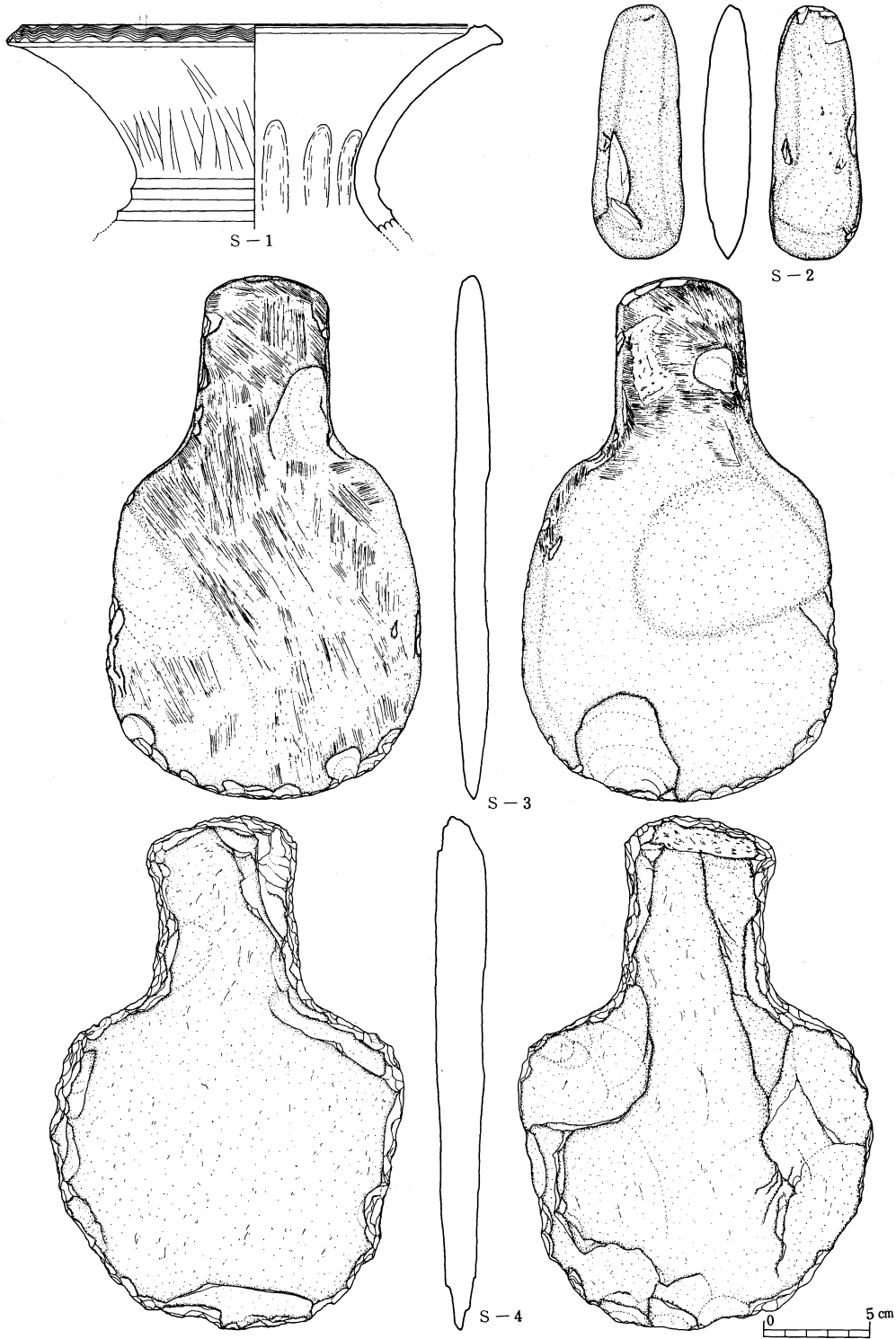
大小の剥離により調整され、刃部と思われる部分は摩滅が認められる。これらS-3・4の石器は、土掘り具としての要素をそなえていると思われる。

S-5・6は下牧遺跡の磨製石斧である。S-5は現存全長14.0cm、現存最大幅7.1cm、現存最大厚4.5cm、重さ700gで蛤刃の均整のとれた石斧で器面全体は啄敵技法により整形され、基部は欠損している。S-6は現存全長8.8cm、現存最大幅6.9cm、重さ300gで、全面が啄敵技法により整形され、その後刃部付近のみ研磨され半磨半敵製の石斧で、刃部は蛤刃状を呈し、小さい刃こぼれが見られる。S-7は上門遺跡発見の磨製石斧である。現存全長12.0cm、現存最大幅4.6cm、現存最大厚3.3cm、重さ305gで、全面が啄敵技法により整形され、その後、刃部付近と表裏の一部については入念な研磨がほどこされている。刃部は蛤刃状を呈し、鋭さは欠いている。S-8は野首橋遺跡発見の磨製石斧である。全長17.2cm、最大幅6.3cm、最大厚2.6cm、重さ470gで、器面は啄敵により整形され、その後、入念な研磨により調整され、断面はほぼ平行になり、基部付近には磨滅により少し窪みが認められ装着部分と考えられる。刃部は一ヶ所に刃こぼれが認められ、使用による痕跡と思われる。S-9は石山から発見された局部磨製の石器である。全長15.3cm、最大幅7.1cm、最大厚1.6cm、重さ215gで、器面は大小剥離により整形され、刃部付近は入念な研磨が認められる。S-10は曲瀬遺跡発見の打製石器である。全長12.7cm、最大幅5.4cm、最大厚1.6cm、重さ150gで、器面は大小の剥離により整形され、刃部の形状は丸くなり、使用のためか摩滅が認められ、擦痕が部分的に認められる。S-11は宮馬場遺跡発見の打製石器である。全長19.0cm、最大幅5.3cm、最大厚2.5cm、重さ310gで、扁平な石片の両面に大小の剥離を加え整形し、さらに両側縁に交互剥離を加えて調整している。

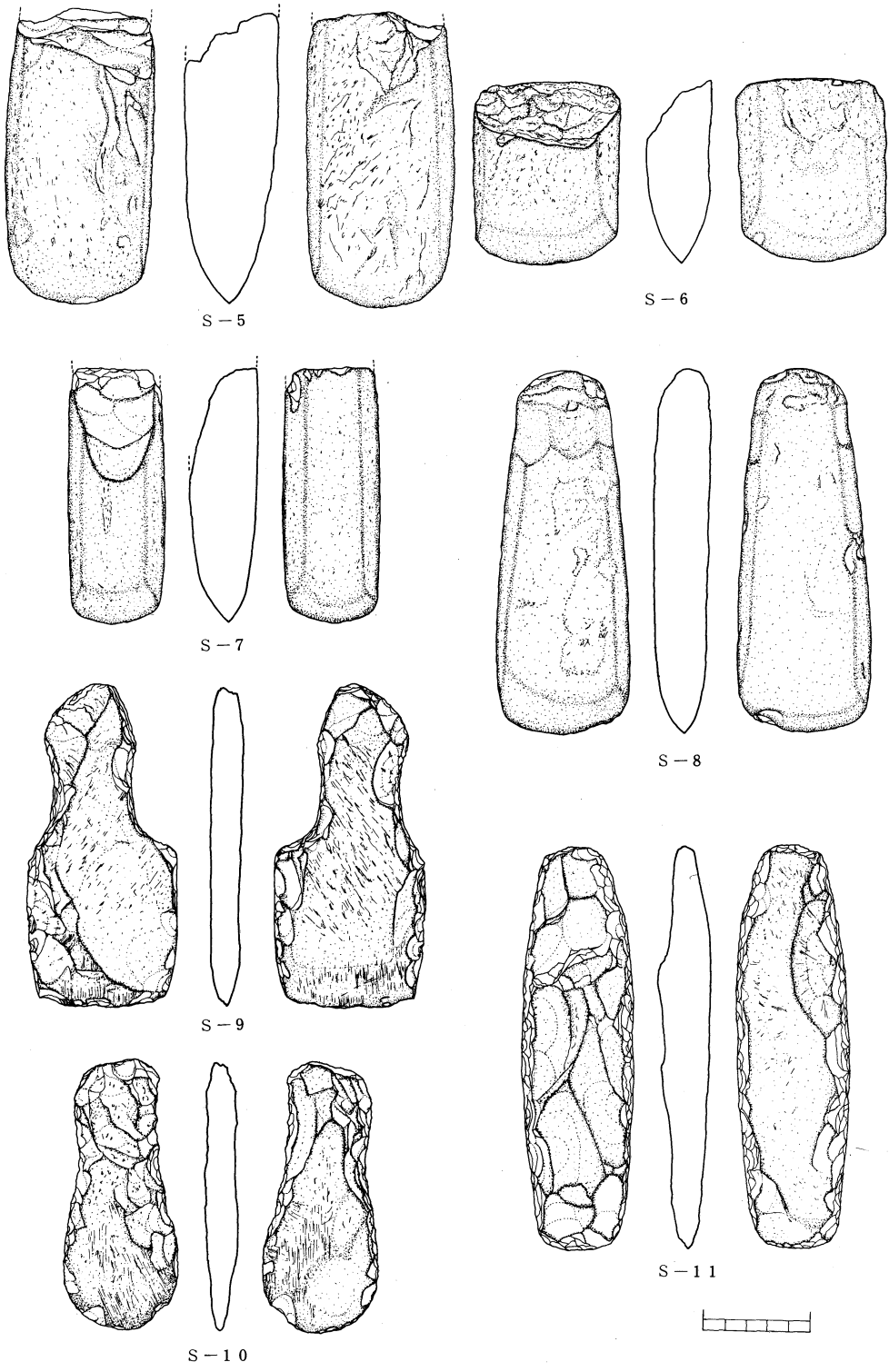
周辺遺跡の地名表

番号	遺 跡	所 在 地	時 期	遺 物	備 考
1	山 裾	志布志町内之倉山裾	縄文晩期	蒔目庄痕文土器	
2	今 別 府	" 内之倉今別府	縄文晩期	大石式、黒川式、蒔目庄痕文、大型打製石斧	
3	上 樽 野	" 内之倉樽野	縄文後期	指宿式	
4	樽 野	" " 樽野 555	縄文後期	市来式、敲石、砥石	
5	橋 ノ 口	" 内之倉橋之口	弥生中期	入来式	
6	樽 ノ 口	" 内之倉樽野	縄文前・後期	吉田式、指宿式、打製、磨製石斧	
7	横 峯	" 内之倉横峯	縄文中期	打製石斧、敲石、砥石	
8	上 田 屋 敷	" 帖上田屋敷	弥生中期	土器、木炭、有肩石斧	
9	坂 之 上	" 帖坂之上	縄文前期	前平式、石鋏	消滅

番号	遺 跡	所 在 地	時 期	遺 物	備 考
10	山 之 上	志布志町内之倉別府	縄文前期	塞ノ神式土器	S42年 河口氏等調査
11	石 踊	" 内之倉石踊	縄文前・中・後・ 晩期	罌式, 岩崎式, 曾畑式, 壺式, 塞ノ神式, 平椀式, 吉田式, 石坂式	
12	別府(石踊)	" 内之倉石踊	縄文前・中・晩期	塞ノ神式, 曾畑式, 岩崎式, 晩期	S53年 県文化課調査
13	野 久 尾	" 内之倉大性院	縄文前・後・晩期	壺式, 曾畑式, 指宿式, 黒川式	S53年 酒匂氏調査
14	下 牧	" 内之倉下牧	縄文中・後期	阿高式, 石斧, 石皿, 凹石	
15	小 淵	" 内之倉小淵	縄文中・後期 弥生後期, 古墳時代	岩崎式, 下弓田式, 指宿式, 土師式	S42年 河口氏調査
16	松 遅 城	" 内之倉			
17	宝満寺址	" 内之倉向川原		如意輪観音石像	県指定
18	ミゾレ谷	" 夏井ミゾレ谷	縄文中期	巻上法による完形土器	
19	打出ヶ浜	" 夏井打出ヶ浜	弥生後期		
20	ウドン上	" 帖ウドン上	縄文中期	阿高式	
21	大茲寺墓地	" 大黒町			
22	大茲寺址	" 大黒町			
23	水ヶ迫	" 安楽水ヶ迫	弥生後期, 古墳時代	須恵器(マリ, 拵)	
24	六月坂	" 安楽六月坂		須恵器, 土師器	
25	六月坂横穴	" 安楽六月坂		須恵器, 土師器	
26	毛 穴 野	" 安楽毛穴野	弥生中期	櫛目文土器	
27	小 瀬 A	" 安楽小瀬	縄文後期	市来式, 黒曜石	
28	小 瀬 B	" 安楽小瀬	縄文後期	指宿式, 市来式	
29	大 迫	" 安楽大迫	縄文前・中・後期 弥生中期	塞ノ神式, 出水式, 阿高式, 石斧, 凹石, 石鏃	
30	百 堂 穴	" 安楽岩戸	縄文前期 弥生	壺式, 磨製石鏃	
31	宮 脇	" 安楽宮脇	縄文後期	市来式, 鐘ヶ崎式, 石鏃, 石皿	
32	宮 馬 場	" 安楽宮馬場	弥生後期	弥生式土器, 土師器	
A	蓑 輪	" 内之倉蓑輪	縄文早期, 弥生中期	吉田式, 石鏃	
B-1	柳	" 安楽柳	縄文早期, 弥生中期	押型文, 石坂式, 吉田式	弥生中期, 住居址
101	中 尾	松 山 町尾野見中尾	弥生中期	弥生式土器, 石器	
102	黒 石 崎	" 尾野見黒石崎	弥 生	打製石斧	
103	鳩 窪	" 尾野見鳩窪	弥生中期	山ノ口式	
104	桐ノ木	" 尾野見桐ノ木	弥 生	弥生式土器	
105	中 村	" 尾野見中村	縄文前期	前平式	



第2図 周辺遺跡の出土遺物①



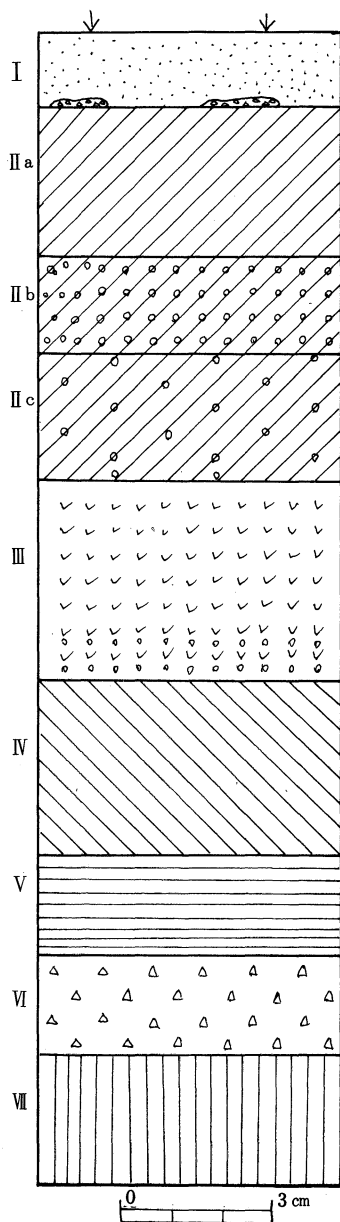
第3図 周辺遺跡の出土遺跡②



第4図 弓場ヶ尾地区地形図および調査区

### 第三章 標準層位について

弓場ヶ尾地区の基本的な層位について観察してみると、第5図に示すようにシラス及び、シラス質土層の上位において、7層に区分された。



第5図 基本層序

第I層・灰黒色耕作上で、15~20cmを測る。所により下部に灰白色の火山灰をブロック状に含む。この火山灰の起源は桜島と思われ、安永の噴火の時の火山灰と想定される。

第II層・黒褐色火山灰土で、50~60cmを測る、パミスの含有量で3層に細分できる。II a層はパミスを含まない。II b層は白斑パミスを多量に含む。II c層は白斑パミスを含むが量は少ない。II a層中位より下位にかけては弥生時代中期の遺物包含層である。又B-1地区12・13トレンチにおいてはII b層上面において住居址のプランが確認された。

第III層・黄橙色火山灰土で、40~50cmを測る。主成分は火山ガラスで下部は微粒の軽石状になる。いわゆる「アカホヤ」と思われる。無遺物層である。

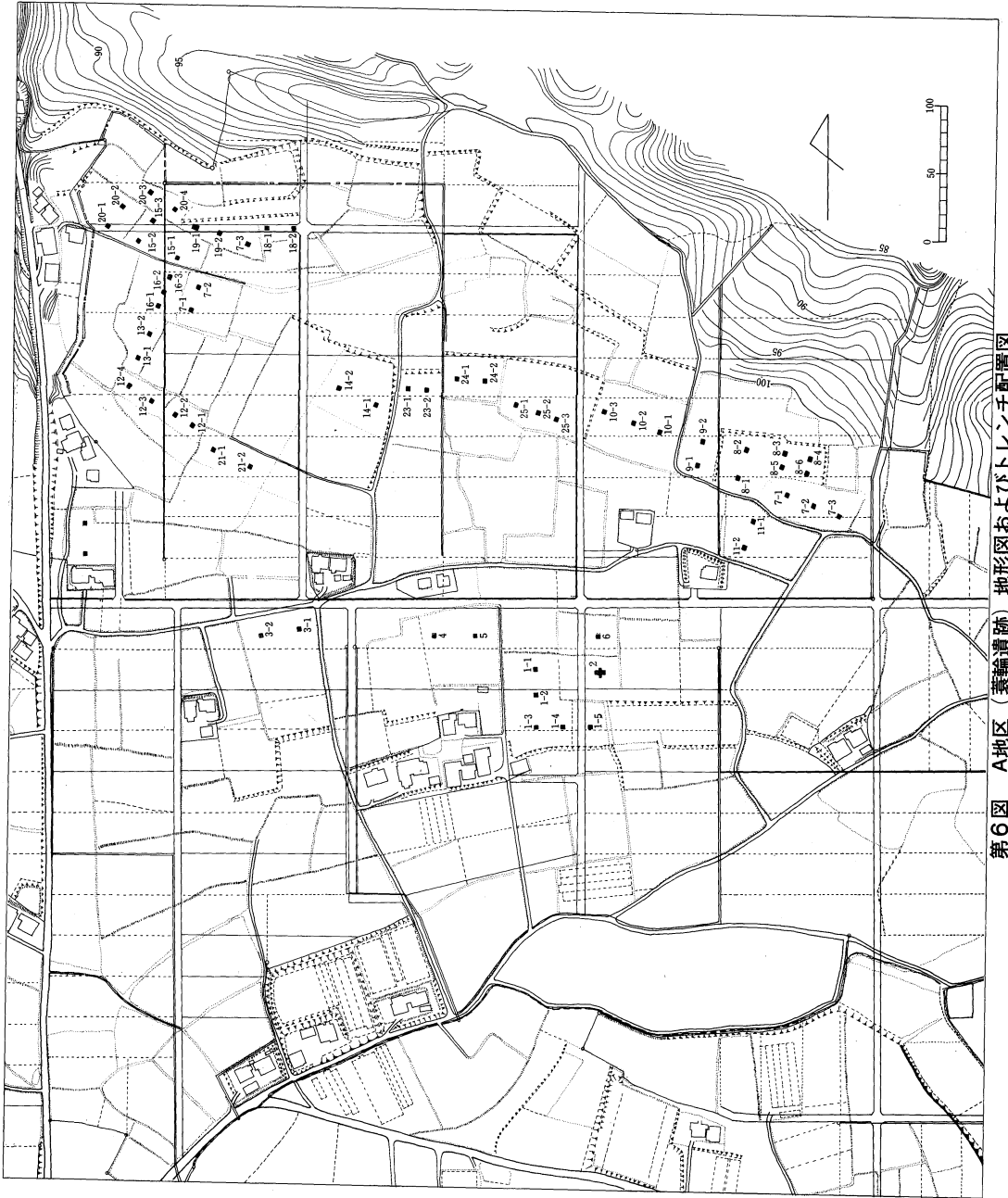
第IV層 黒褐色火山灰土で40~50cmを測る。やや硬質で、パミスを含む。中位より下位にかけて縄文時代早期の遺物包含層で、貝殻文系の前平式土器・吉田式土器・石坂式土器が見られる。又押型文土器（山形押型・楕円押型）、縄文土器も見られる。7・8・16トレンチにおいては集石遺構も見られる。

第V層・黒茶褐色火山灰土で、20~30cmを測る。やや粘質でパミスを含む。最上部に縄文早期の土器が含まれる。

第VI層・黄白色火山灰土で約20cmを測る。硬質のパミスでブロック状を呈する。

第VII層・暗茶褐色火山灰土で40~50cmを測る。粘質土が高く無遺物層である。

第VIII層 以下はシラス質で上部は礫混りの黄茶褐色土で、だんだんとシラスへと移行するものと思われる。



第6図 A地区(糞輪遺跡)地形図およびレンヂ配置図



## 第Ⅳ章 各遺跡の調査

### 第一節 A地区（蓑輪遺跡）の調査

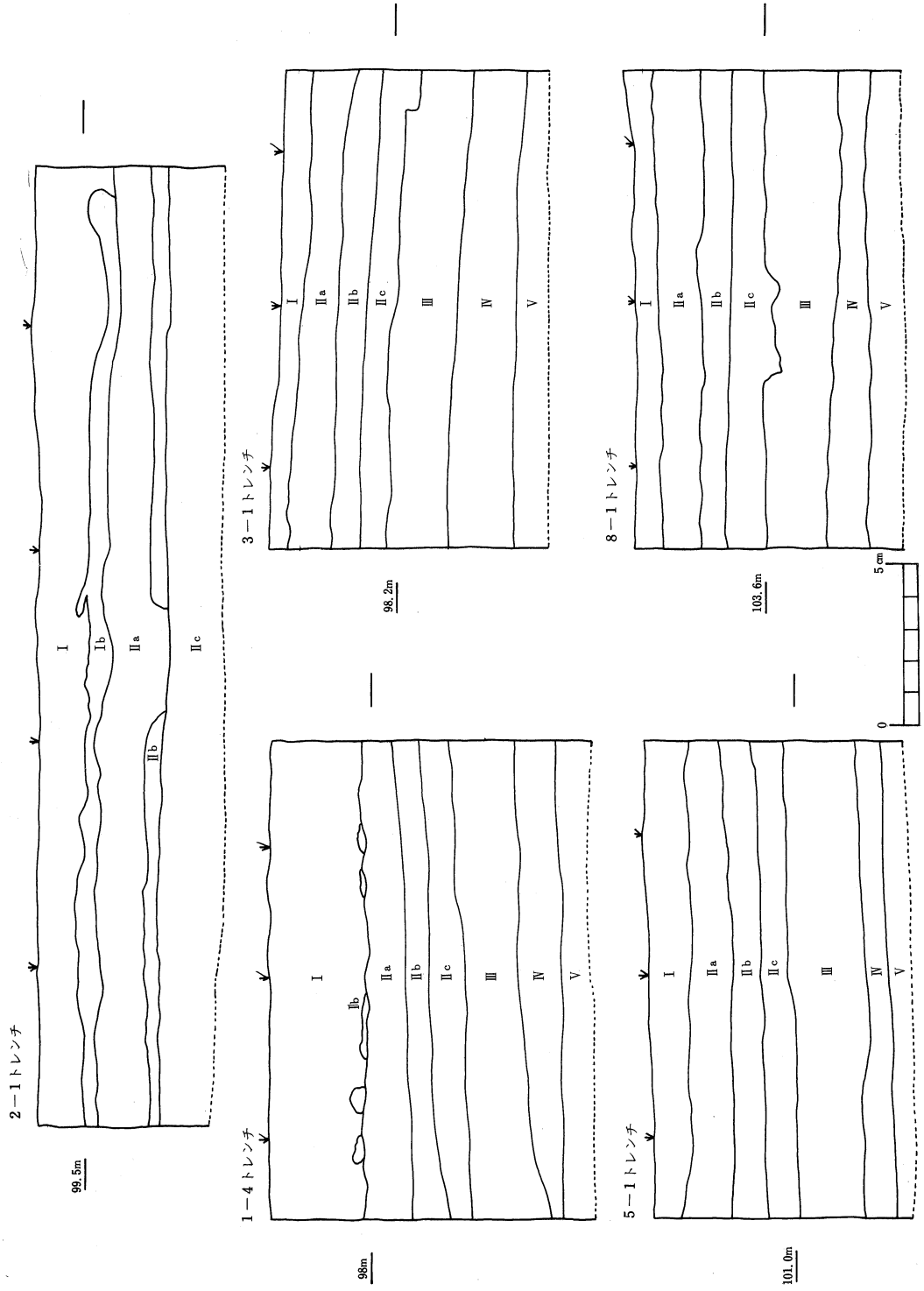
#### 1 調査の概要及び層序

A地区（蓑輪遺跡）は、安楽川の南側沿いに隣接する台地上の畑地に位置している。地表面は台地で標高の高い所を東西に走る農道を頂点に南傾斜（1地点－6地点）と北傾斜（7地点－25地点）とに大別できる。

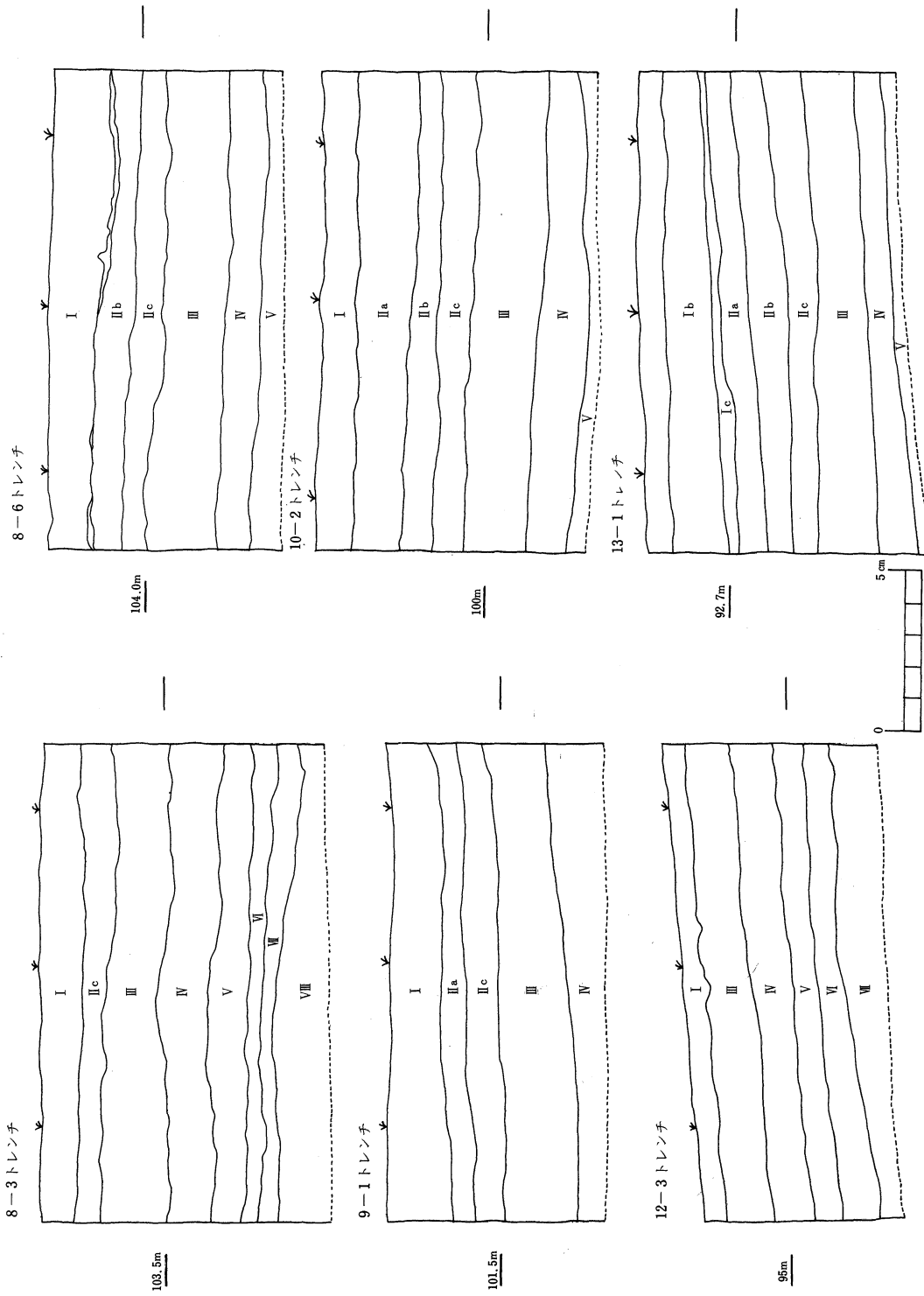
確認調査は、昭和54年4月16日から5月19日までの間に行なわれた。調査は分布調査において遺物散布の見られた畑地を中心に遺物包含層や遺跡の範囲の確認を目的として、3×3mのトレンチを基準に25地点を任意に設定した。また同地域は、芝や茶などの永年作物や甘藷植えつけのため土壤腺虫駆除の対象の畑地が随所に見られたため、調査地点を作づけの影響のない畑地へ移動しトレンチ設定を行った。トレンチは1地点に1ヶ所から6ヶ所までの範囲で設定したが、2地点においては5×2mのトレンチ中央部に北側及び南側へ、それぞれ2×2m拡張し掘り下げ作業を実施した。調査は、掘り下げ作業の終り次第に土層実測実施後、作づけのために埋めもどし作業を併行しながら行った。トレンチの名称は、調査を実施した順に1地点－1トレンチから25地点－3トレンチとした。

A地区（蓑輪遺跡）においては、弥生時代と縄文時代の遺物を包含する2文化層が認められ、層位区分は次のとおりである。Ⅰ層は灰黒色耕作土、Ⅱa層・黒褐色火山灰土。Ⅱb層・黒褐色火山灰土（白斑パミスを多量に含む）、Ⅱc層・黒褐色火山灰土（白斑パミスを含む）、Ⅲ層黄橙色火山灰土（アカホヤ）、Ⅳ層・黒色火山灰土、Ⅴ層・黒茶褐色火山灰土とに区別される。遺物包含層はⅡa層とⅣ層で、Ⅱa層より弥生時代中期、Ⅳ層より縄文時代早期の遺物がそれぞれ見られた。特に、弥生時代中期の遺物包含層であるⅡa層は、調査地点により上部もしくはすべて削平の認められるトレンチも多く確認される。

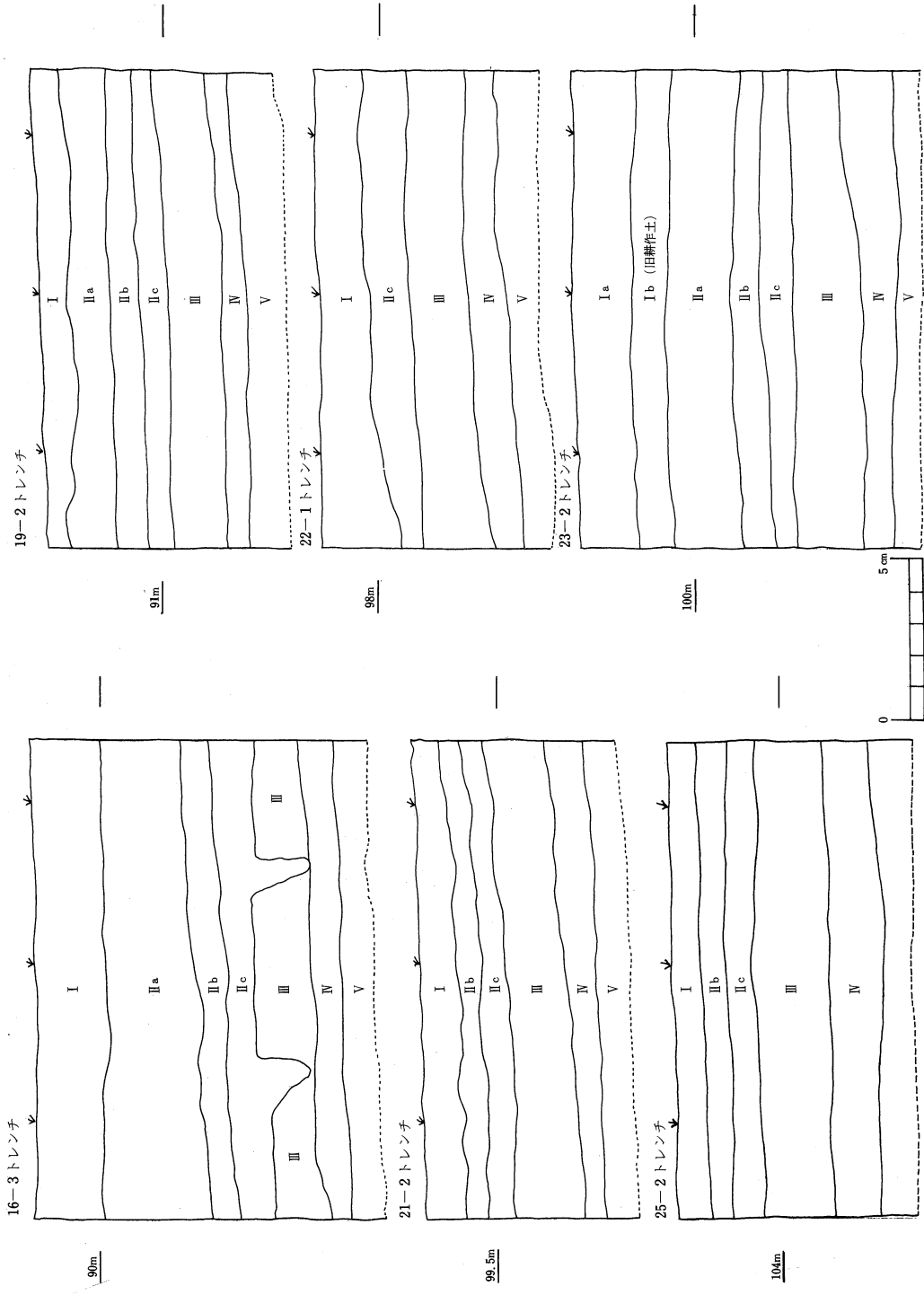
調査結果の概要についてみれば、2地点及び8地点を中心に弥生時代中期、縄文時代早期の遺物包含層が確認された。1地点は5ヶ所のトレンチを設定したが、すべて耕作土より土器破片の出土が見られた。しかし、4トレンチのⅡa層残部より弥生時代中期の土器破片の出土が認められる。2地点はⅡa層より弥生時代中期の甕や壺の土器破片が認められる。7・8地点は表土層より弥生時代中期の土器破片は認められたが、すでにⅡa層は削平されている。Ⅳ層より縄文時代早期の遺物包含層より吉田式土器破片の出土が見られ、小破片が多く図化は困難なものもある。9地点はⅣ層よりチャート製の石鏃が見られたのみである。16地点－3トレンチのⅣ層より縄文時代早期の遺物包含層より吉田式土器の小破片と角礫が多く見られたが集石としてのまとまりは認められない。21地点－2トレンチの第Ⅳ層より黒曜石製の石鏃の出土が見られ、土器の出土は確認されない。18地点－1トレンチのⅡa層より弥生時代中期の土器破片が認められたが、そのほとんどは削平されている。3地点から6地点、10地点から15地点、17地点、19地点、20地点、22地点から25地点においては、遺物の出土は認められなかった。



第7図 A地区(糞輪遺跡)土層図①



第8図 A地区(養輪遺跡)土層図②



第9図 A地区(箕輪遺跡)土層図③

## 2 弥生時代の遺構、遺物

弥生時代の遺物包含層はⅡ a層黒褐色火山灰土である。A地区（蓑輪遺跡）のⅡ a層は、開墾や長年の耕作のために、その大部分の畑地において削平が見られる。2地点においては、土器破片が集中的に見られ、遺物包含層が完全に残存している。

### 遺構

A地区（蓑輪遺跡）は、弥生時代の遺構は検出されない。

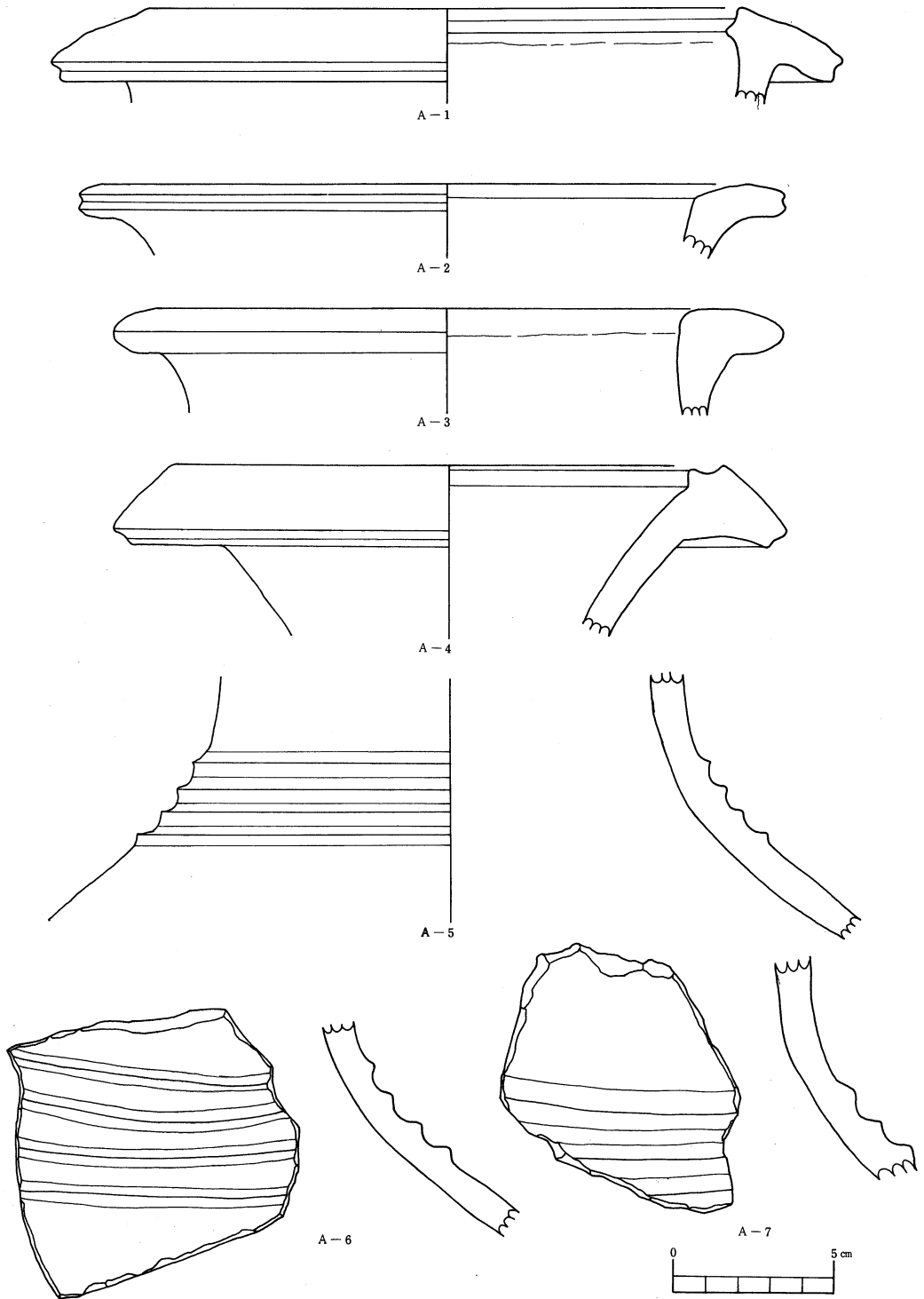
### 土器 第10図、第11図、第12図、図版5、図版6

A地区（蓑輪遺跡）の出土の土器は小破片が多く、図化し得るものはすべて2地点より出土した壺形土器及び甕形土器である。

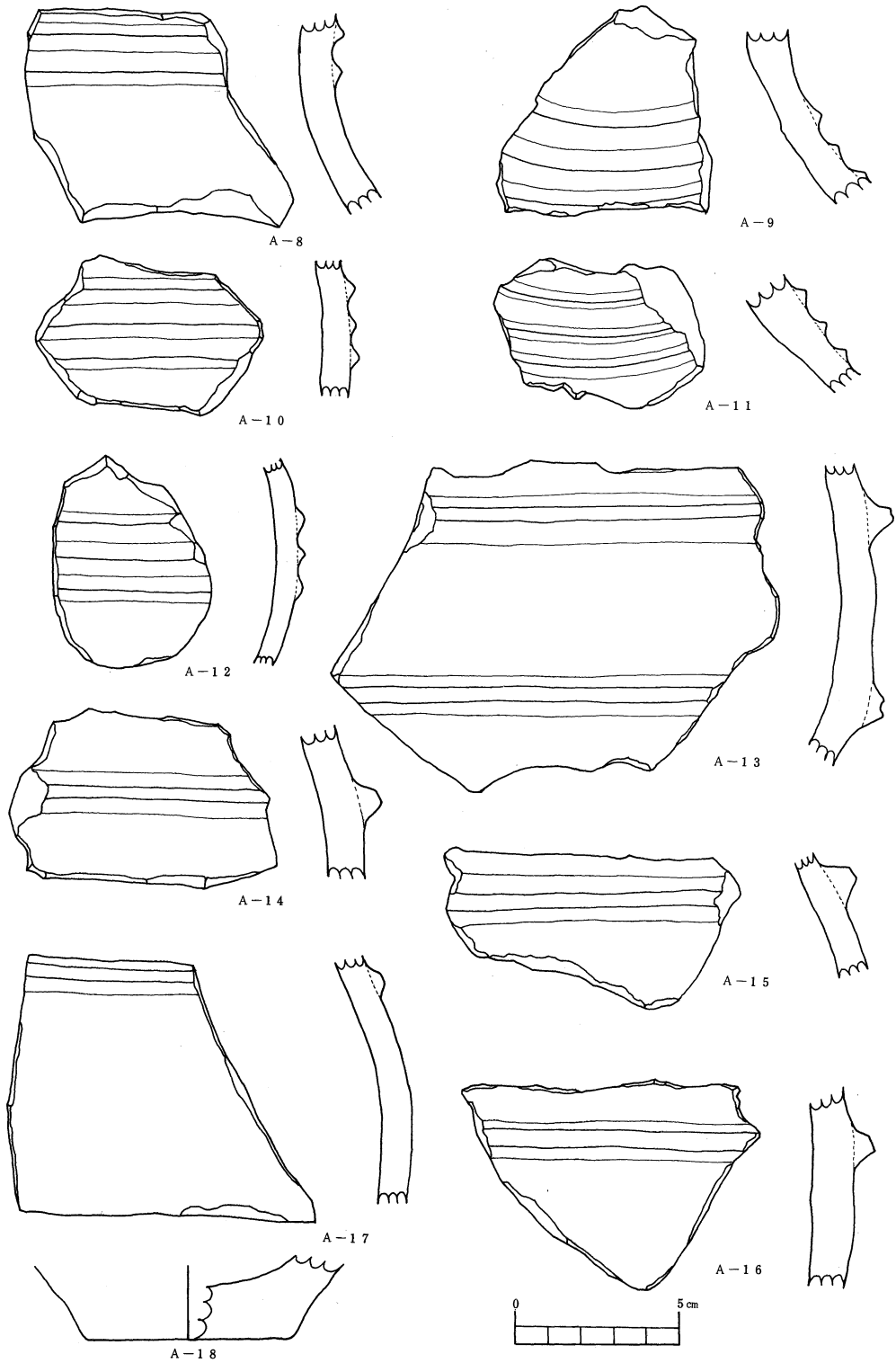
A-1・2・3・4・5・6・7は壺形土器である。これらの土器は、小破片のため全貌は把握することは困難である。また胎土はほとんど同じく、金雲母、石英、長石などの砂粒子を多量に含んでいる。A-1は復元口縁径24.6cmを測る。口縁部外側は垂れ下りながら拡張し、口唇部を作り出している。口縁部内面には1条の削り出し突起を有する。器内外面ともにヘラやハケなどで整形により調整され、色調は灰褐色を呈している。A-2は復元口縁径21.9cmを測る。口縁部上面はやや脹らみながら口唇部を作り出し、口唇端部は浅く窪んでいる。調整は内側でハケ、外側は指頭押圧後ハケにより整形している。色調は茶褐色を呈する。A-3は復元口縁径20.8cmを測る。口縁部上面は平坦面を作り出し、口縁端部外側下方へ傾斜する。調整は内外とも摩滅が見られ不明であり、色調は茶褐色を呈する。A-4は復元口縁径20.9cmを測る。口辺部は立ち上がりながら外反し、口縁部外側は垂れ下りながら広がり、口縁上面は平坦面を呈し、口縁内面には削り出し突起を有する。調整は外面で横位にハケを斜位にヘラ、内面は横位にハケなどで整形される。色調は暗茶褐色を呈する。A-5・6・7・8・9・11は、ともに壺形土器の肩部である。A-5は肩部付近に幅0.5～0.8cm程度の4条の断面三角突帯をもっている。調整は外面で横位のハケなどで整形で、内面は剥脱が激しく不明である。色調は茶褐色を呈する。A-6・7・8・9・11は、小破片のため復元出来ず、ともに壺の肩部で断面三角突帯を有している。色調はA-6・9は茶褐色、A-7・8は淡茶褐色、A-11は茶褐色を呈し、ススの付着が認められる。A-10・12は壺の胴部で3条の断面三角突帯を有する。調整はハケなどで整形され、内面は剥脱し調整方法は不明である。色調は、ともに茶褐色を呈する。

A-13・14・15・16は壺形土器の胴部で、断面が台形状の貼り付け突帯を有する。胎土には金雲母、長石、石英などの砂粒子を含んでいる。調整は外面でA-13はヘラ、A-14・15はハケ、A-16はハケとヘラなどで整形され、内側はすべて剥脱し調整方法は不明である。色調はA-13・16は暗茶褐色、A-14・15は茶褐色を呈する。A-17は頸部直下に断面三角突帯を有する胴部である。調整は内外面ともハケなどで整形され、色調は茶褐色を呈し、外面にススの付着が認められる。A-18は壺形土器の底部で、摩滅のため調整方法は不明である。胎土には石英長石などの砂粒子を多く含み露呈しており、色調は淡茶褐色を呈する。

23・24・25・26は甕形土器である。A-19・20は甕形土器の口縁部で、A-19は復元口縁径28

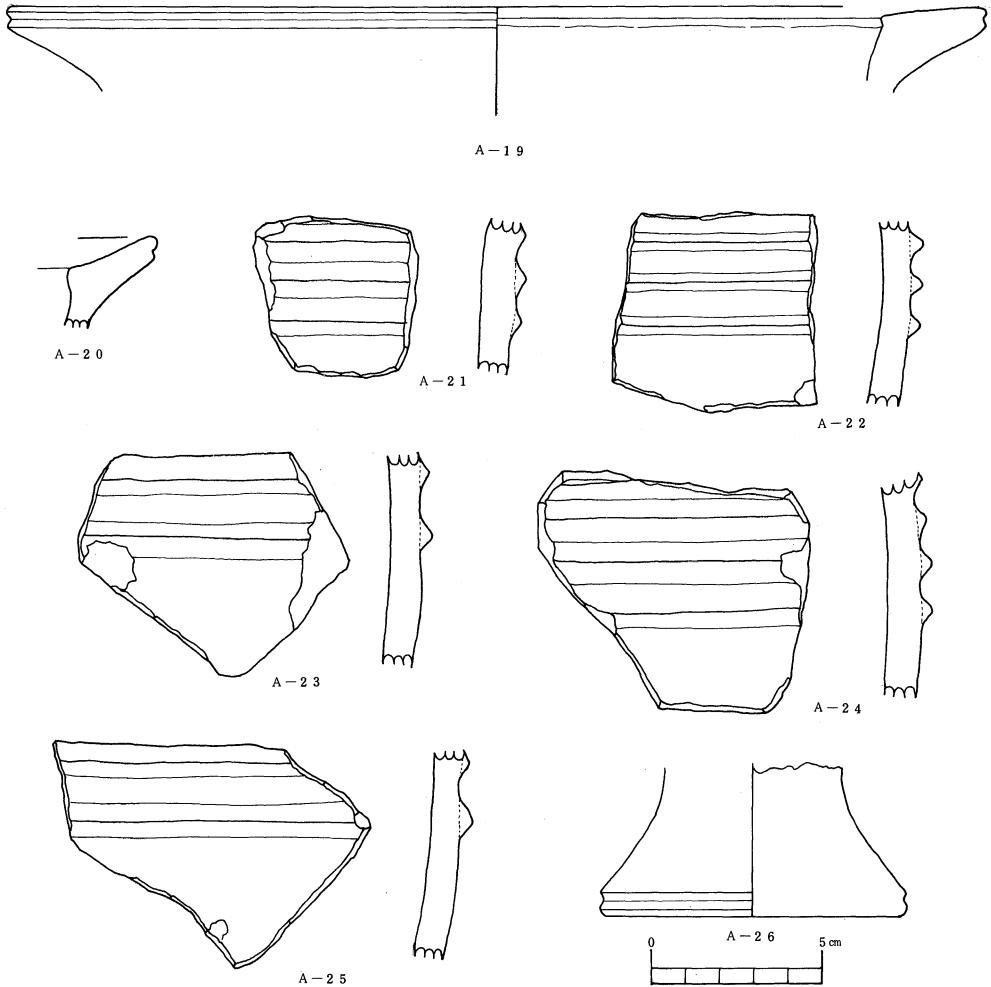


第10図 襄輪遺跡出土弥生式土器実測図①



第11图 裴輪遺跡出土弥生式土器実測图②

7cmを測る。口縁部上面は平坦面を作り出し、口唇端部はやや窪んでいる。調整は内外面とも摩滅のため不明であり。胎土には金雲母、石英、長石などの砂粒子を多く含み露呈している。色調は淡茶褐色を呈する。A-20は口縁部内面はやや突出し、若干窪みながら口縁端部を作り出している。口縁端部は窪みを施している。調整は内外面ともハケなどで整形され、胎土には金雲母・長石、石英などの砂粒子を含む。色調は茶褐色を呈し、外面はススの附着が認められる。A-21・22・23・24・25は甕の胴部で断面三角突帯を有する。ともに胎土には石英、長石、金雲母などの砂粒子を多く含み、調整はハケなどで整形されている。色調はA-21は淡茶褐色、A-22・23・25は茶褐色、A-24は黒茶褐色を呈している。A-26は甕形土器の底部である。調整は部分的に摩滅が見られ、ハケなどで整形による痕跡が認められる。胎土には金雲母、長石などの砂粒子を多く混ぜ、表面にまで露呈している。



第12図 蕨輪遺跡出土弥生式土器実測図③



### 3 縄文時代の遺構・遺物

#### 遺構

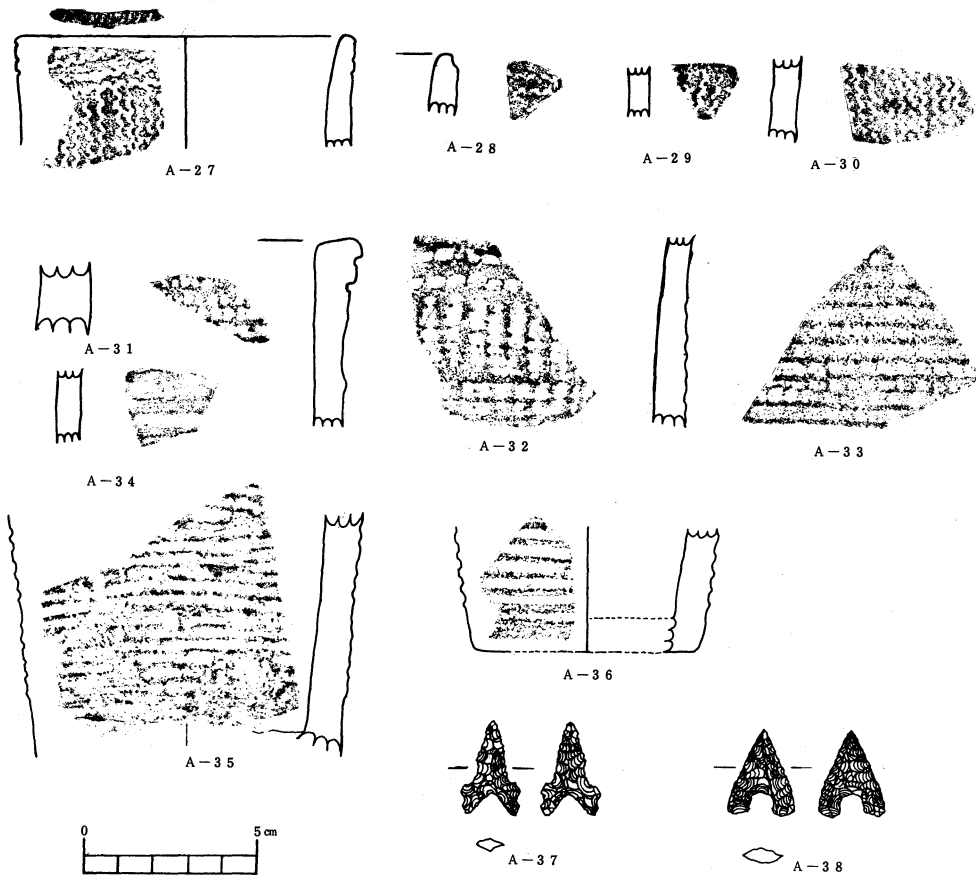
A地区（菱輪遺跡）は25地点-2 トレンチのIV層最下部より集石遺構が確認されたが、その大部分がトレンチ外への広がりか想定されたが、作づけの関係で拡張調査は出来なかった。

#### 遺物

##### 土器 第13図・図版7

縄文式土器はIV層中より約20点出土しているが、小破片が多く図化出来たものは10点である。

A-27は復元口縁径9.8cmを測る。ほぼ直行する口縁部で端部において若干すぼまる。口唇部は平坦でヘラによる刻み目を施す。口縁直下に横位の貝殻刺突文を3条巡らし、その下位に縦位の貝殻刺突文を施すものである。器壁は薄く胎土は石英・長石・角閃石等を含み茶褐色を呈する。焼成は良好で、内面はヘラみがき状の整形が見られる。A-28は直行する口縁部である。口縁直下に横位の貝殻刺突文を3条巡らす。下位は縦位の貝殻刺突文を施す。器壁は薄く胎土は石英・長石等を含み茶褐色を呈する。焼成は良好で内面はヘラみがき状の整形が見られ



第13図 菱輪遺跡出土縄文式土器実測図および拓影、石鏃実測図

る。A—29・30は胴部で、縦位の貝殻刺突文を施す。器壁は薄く、胎土は石英・長石・角閃石等を含み、茶褐色を呈する。焼成は良好で内面はヘラみがき状の整形が見られる。A—31は押し引き状の刺突文を施した胴部である。器壁は厚く胎土は石英・長石・角閃石を含み茶褐色を呈する。焼成は良好である。A—32はほぼ直行する口縁部で、端部において若干、肥厚する。口唇部は平坦であるが刻み目は見られない。口縁直下に横位の貝殻刺突文を2条巡らし、その下に縦位の貝殻刺突文を施す。その下には押し引き文が施される。胎土は石英・長石・角閃石を含み、黒褐色を呈する。焼成は良好で、内面はヘラみがき状の整形が見られる。A—33は押し引き文を施した胴部である。胎土は石英・長石・角閃石などの砂粒子を含み暗茶褐色を呈する。焼成は不良で器面がざらざらしている。B—34は横位の貝殻条痕文を施す胴部である。器壁は薄く胎土は石英・長石を含み淡茶褐色を呈する。焼成は良好で内面はヘラみがき状の整形が見られる。B—35は底部近くで、横位の貝殻条痕文を施す。胎土は石英・長石・角閃石を含み茶褐色を呈する。焼成は良好であるが、器面は剥奪が見られる。A—36は復元底部径6.5cmを測るもので、ややひらき気味に立ちあがる底部である。外面は横位の貝殻条痕文を施す。胎土は石英・長石等を含み淡茶褐色を呈する。焼成は良好で内面はヘラみがき状の整形が見られる。

#### 石器

A地区(養輪遺跡)は、石器として石鏃のみが見られる。

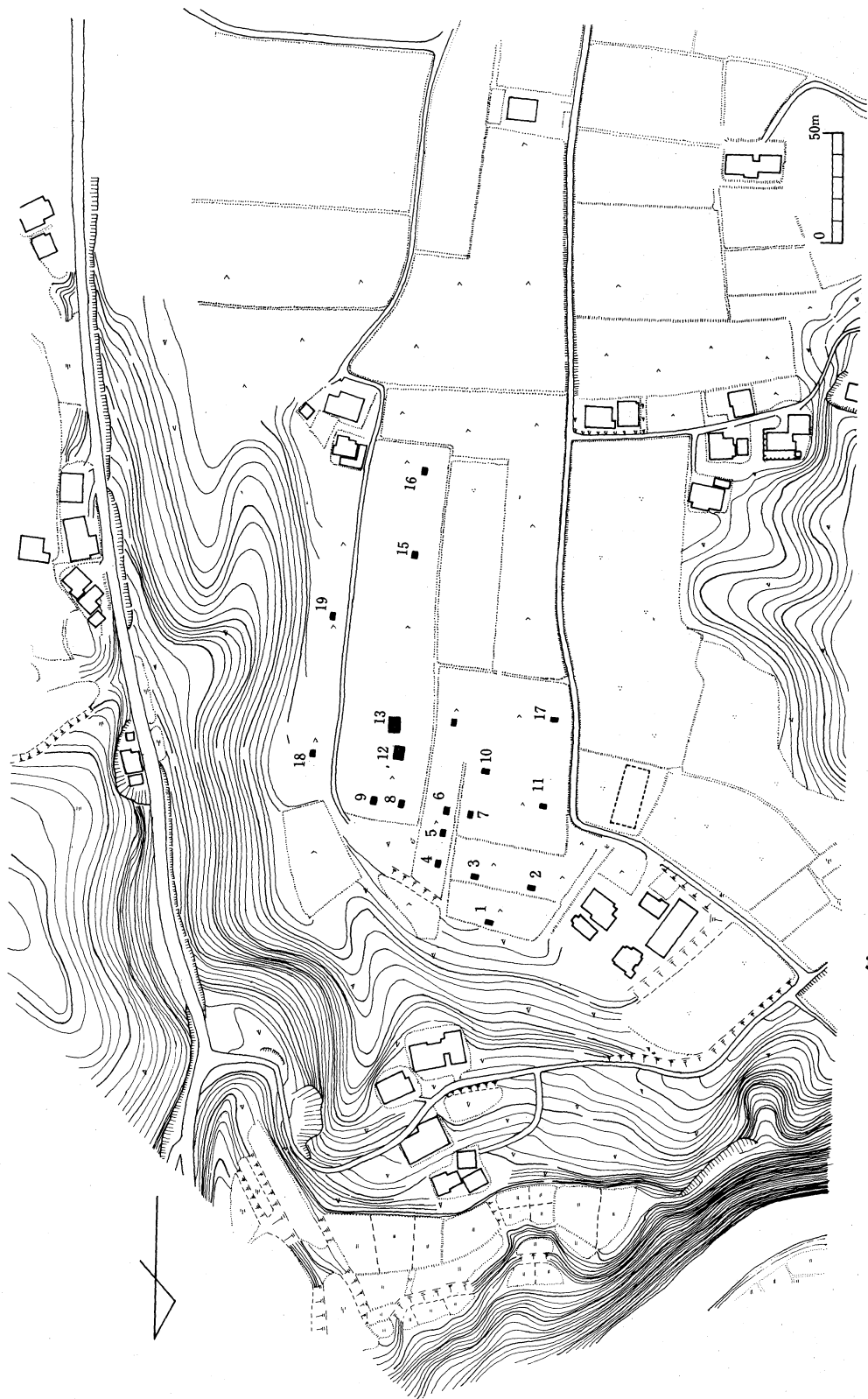
A—32は22地点-2トレンチのⅣ層より出土した。器形は扁平無茎で胴部で一部狭くなり、脚は張り出した凹基式石鏃である。基部は深くV字状の形状を呈し、調整はていねいで相互剥離によって仕上げられ鋸歯あるいはサメ歯状をなしている。最大長2.7cm、最大幅1.7cm、最大厚0.3cmを測る。石材は黒曜石が用いられる。A—33は、9地点-1トレンチのⅣ層より出土した。器形は扁平無径で二等辺三角形を呈し、基部端においては、やや狭くなっている。基部は深くU字状の形状を呈し、調整はていねいに大小の交互剥離により整形されている。最大長2.5cm、長大幅1.9cm、最大厚0.45cmを測る。石材はチャートを用いている。

#### 4 小結

養輪遺跡は、弥生時代及び縄文時代の遺物が発見された。

弥生時代の遺物は壺形・甕形土器で、逆L字状の口縁部を有するもの、断面三角突帯や断面台形状突帯を巡ぐらすもの、底部は中空にならず充実したもので、弥生時代中期に位置するものと思われる。

縄文時代の遺物は、土器と石器が見られる。土器は、貝殻復縁による刺突文・押し引き文・横位の条痕文を施した円筒土器で、吉田式土器に比定され、縄文時代早期に位置するものである。石器は石鏃2本で、黒曜石とチャートを素材としている。吉田式土器は、志布志町において、太越・倉野・倉園B・浜場・樽ノ口・鎌石遺跡(注7)などの遺跡において出土している。



第14図 B-1地区(柳遺跡)地形図およびトレンチ配置図

## 第2節・B-1地区（柳遺跡）の調査

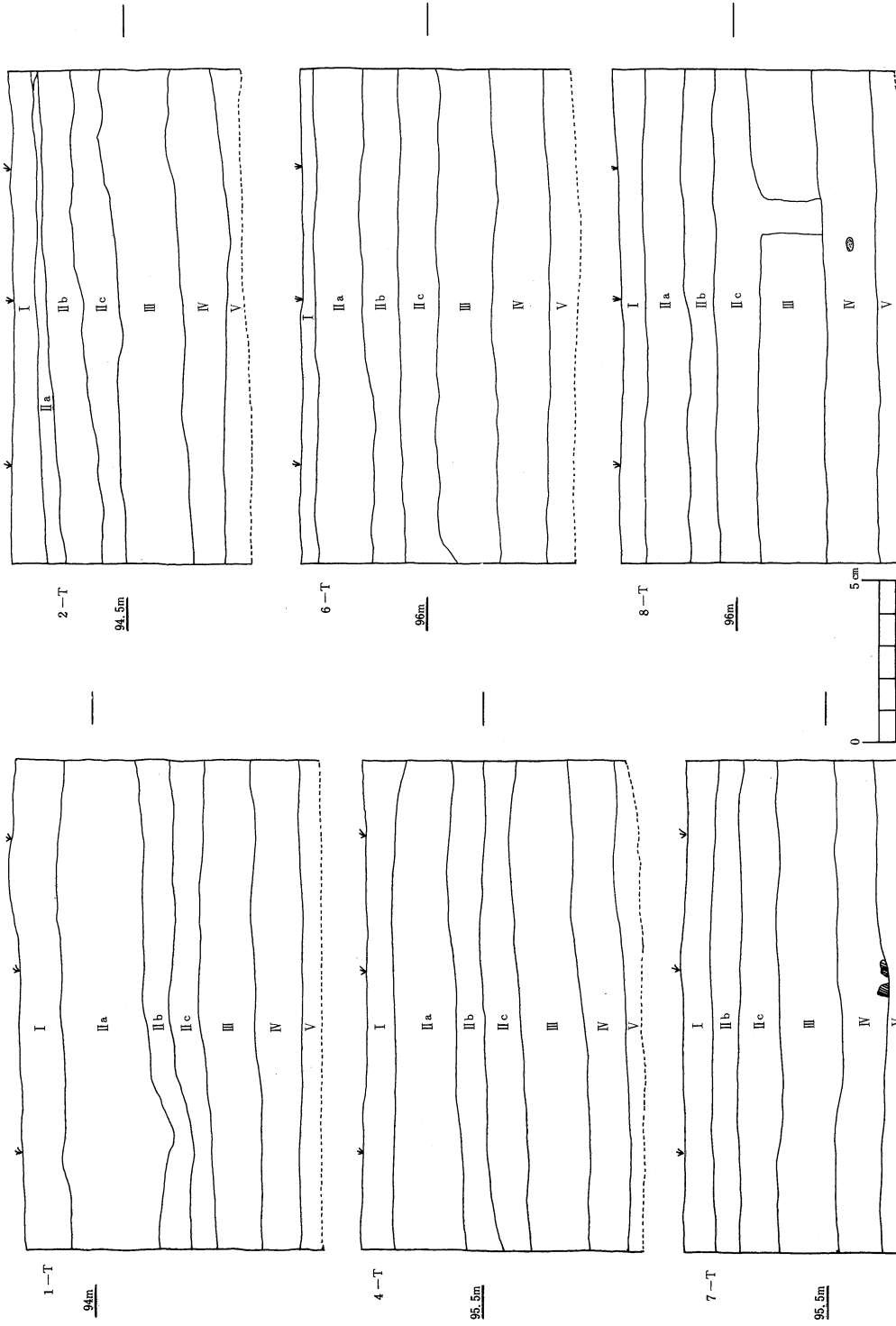
### 1 調査の概要及び層序

柳遺跡の確認調査は、昭和55年1月16日より2月6日まで行なわれた。調査は作づけのなされていない畑地を中心に実施し、2×3mのトレンチを19ヶ所設定した。しかし、12・13トレンチにおいては5×6m・5×7mと拡張した。トレンチの名称は調査した順に1・2～18・19トレンチとした。

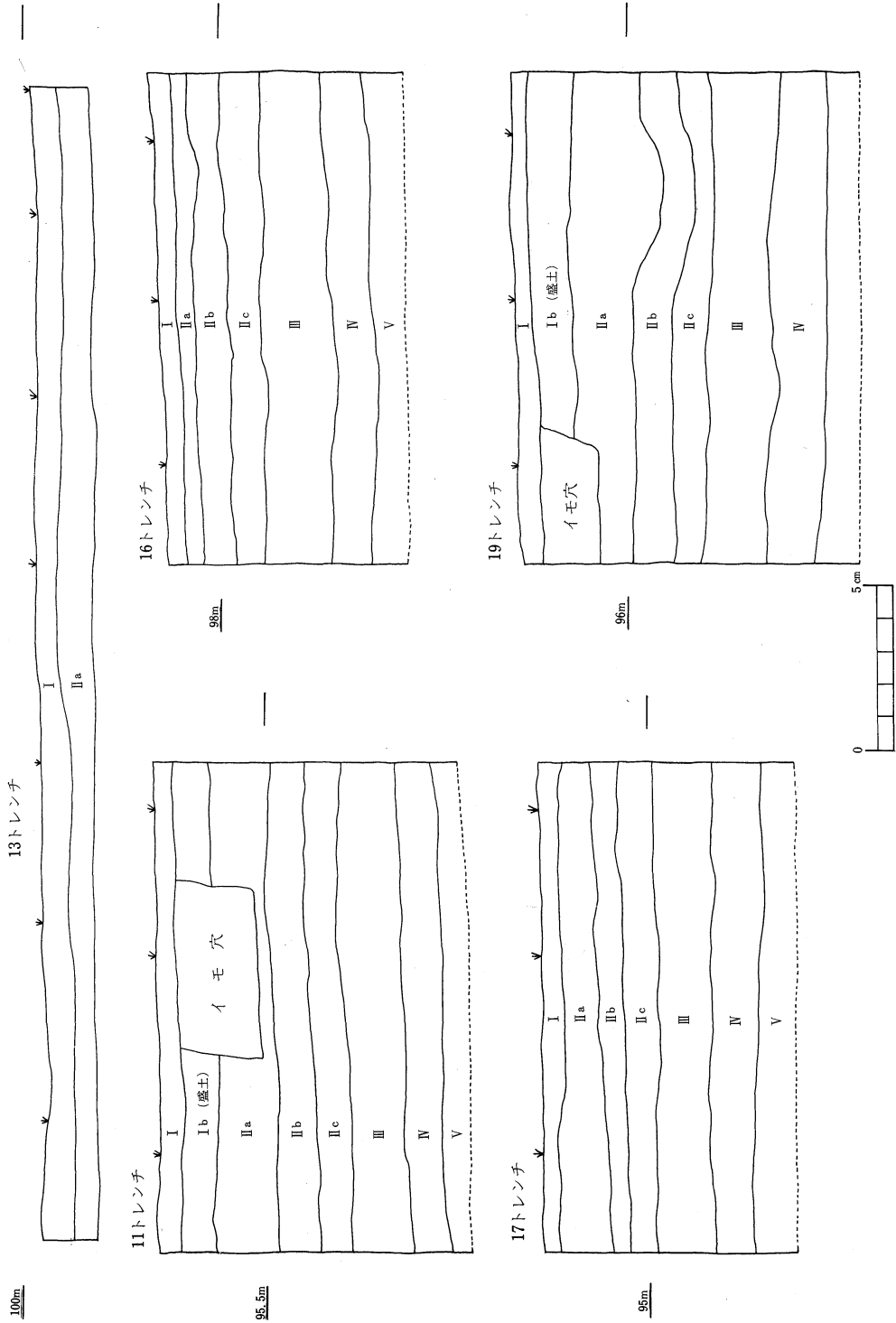
昭和54年4月の分布調査において弥生時代中期の土器片の散布が認められたため、遺物包含層や遺跡の範囲を確認することを重点に調査を行った。又、A地区（菱輪遺跡）において、縄文早期の遺物が出土しているため縄文時代の遺物包含層の確認も合わせて調査することとした。

層位は第1層・灰黒色耕作土、Ⅱa層・黒褐色火山灰土、Ⅱb層・黒褐色火山灰土（白斑パミスを多量に含む）、Ⅱc層・黒褐色火山灰土（白斑パミスを含む）、Ⅲ層・黄橙色火山灰土（アカホヤ）、Ⅳ層・黒色火山灰土、Ⅴ層・黒茶褐色火山灰土と区分される。遺物包含層はⅡa層とⅣ層であり、Ⅱa層より弥生時代中期、Ⅳ層より縄文時代早期の遺構及び遺物がそれぞれ認められる。以下各トレンチごとに概略を述べることにする。

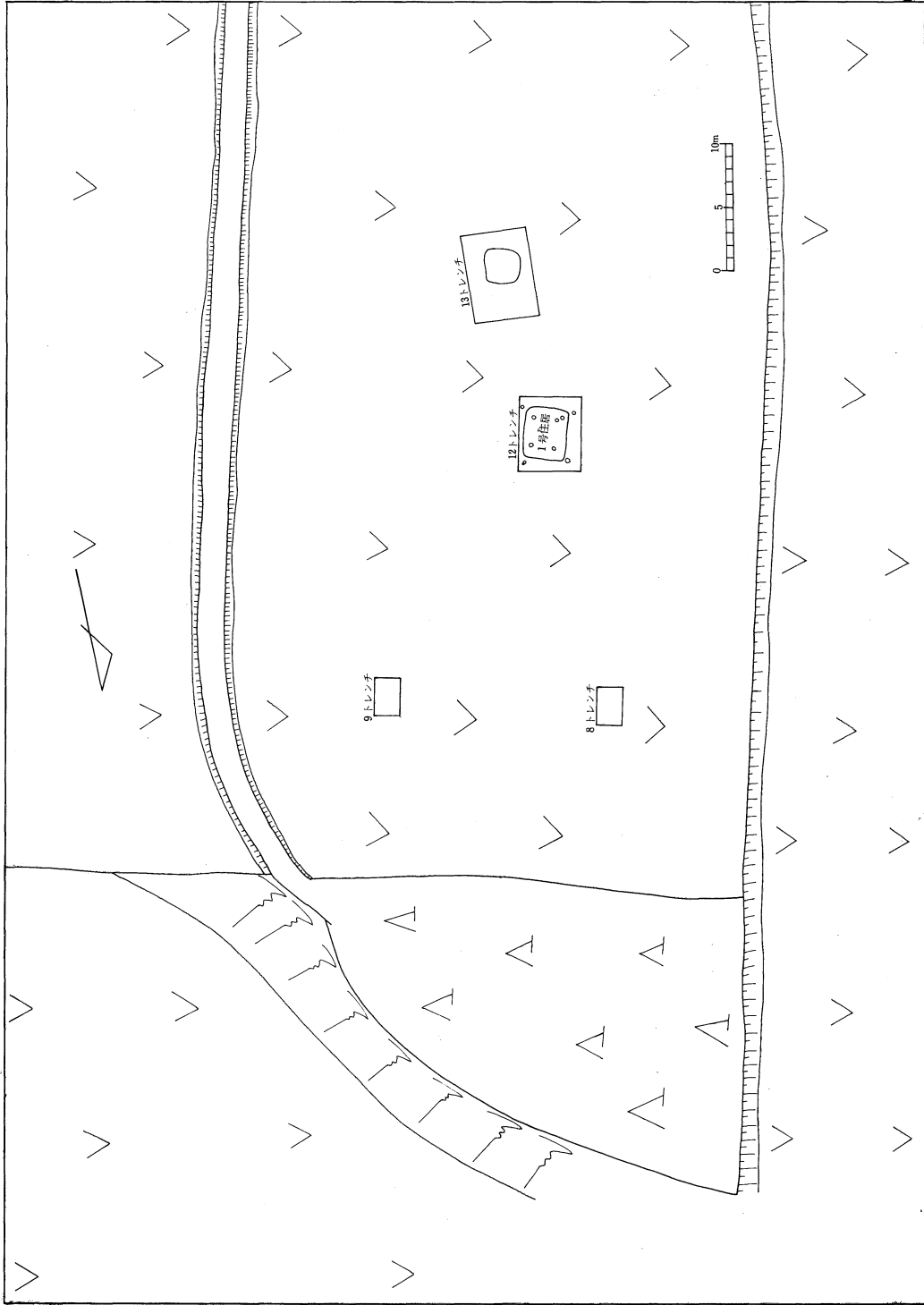
- 1 トレンチ・Ⅳ層及びⅤ層上部より吉田式・石坂式・押型文・捺糸文が出土。
- 2 トレンチ・Ⅳ層より吉田式、石坂式土器が出土。
- 3 トレンチ・Ⅳ層より吉田式、石坂式土器が出土。
- 4 トレンチ・Ⅳ層及びⅤ層上部より吉田式・石坂式土器が出土。
- 5 トレンチ・Ⅳ層より吉田式、石坂式土器が出土。
- 6 トレンチ・Ⅳ層より吉田式、石坂式土器が出土。
- 7 トレンチ・Ⅳ層より吉田式、石坂式、押型文土器が出土。又Ⅳ層下部に集石が検出される。
- 8 トレンチ・Ⅳ層及びⅤ層上部より、吉田式、石坂式、押圧縄文、押型文土器が出土、又、Ⅳ層下部よりⅤ層上部にかけて集石が検出される。
- 9 トレンチ・Ⅳ層より吉田式、石坂式土器が出土。
- 10 トレンチ・Ⅳ層より吉田式、石坂式土器が出土。
- 11 トレンチ・Ⅳ層より吉田式、石坂式土器が出土。
- 12 トレンチ・Ⅱa層より弥生式土器が出土。Ⅱb層上面において住居址が検出される。
- 13 トレンチ・Ⅱa層より弥生式土器が出土。Ⅱb層上面において住居址と思われる遺構が検出される。
- 14 トレンチ・Ⅳ層より押型縄文土器が出土。
- 15 トレンチ・Ⅱa層より弥生式土器が出土。
- 16 トレンチ・Ⅳ層より吉田式、石坂式土器が出土。又、Ⅳ層下部において集石が検出される。
- 17 トレンチ・Ⅳ層より石坂式土器が出土。
- 18 トレンチ・遺物・遺構の検出なされず。
- 19 トレンチ・Ⅳ層より吉田式土器が出土。



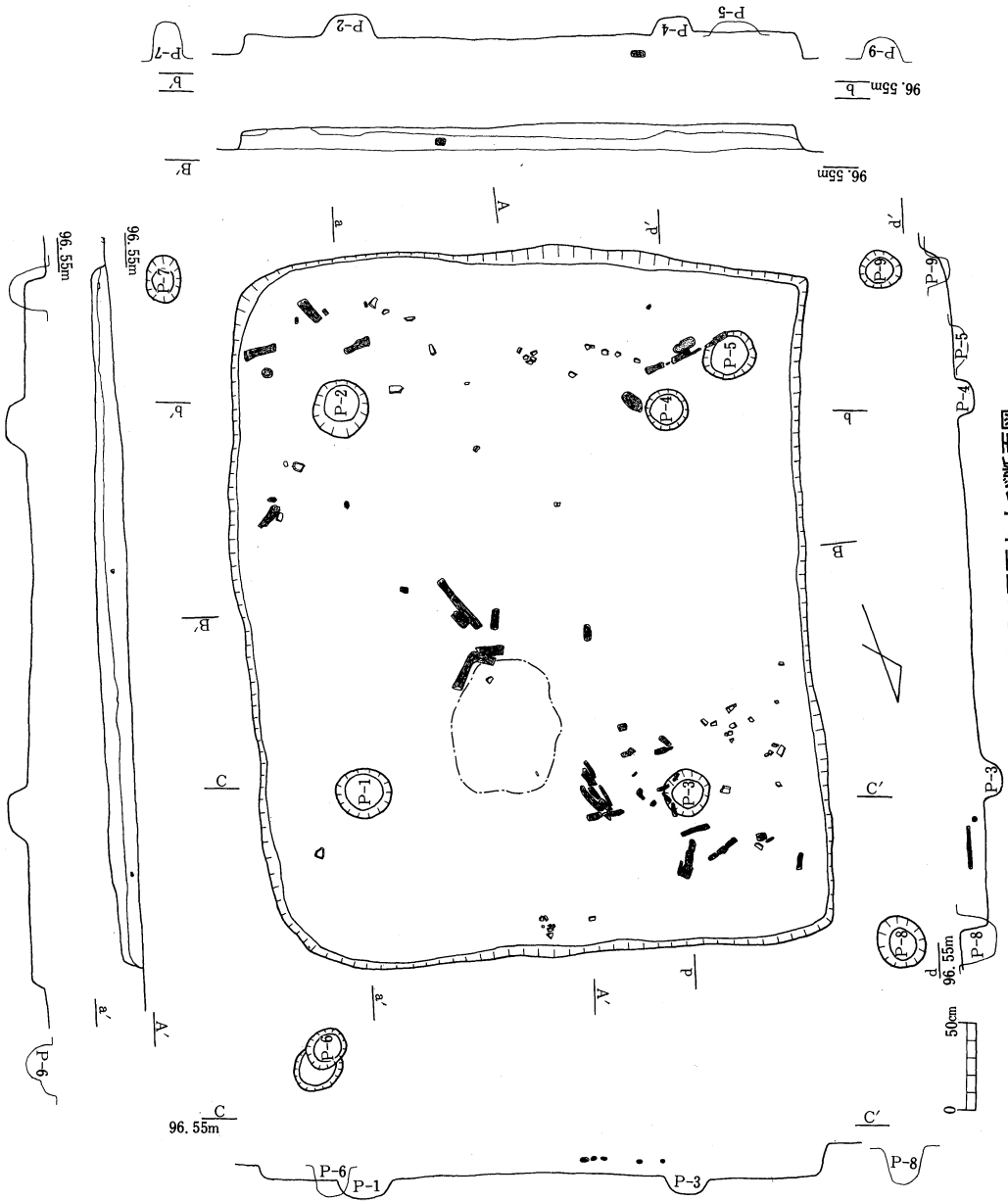
第15图 B-1地区(柳遺跡)土層図①



第16図 B-1地区(柳遺跡)土層図②



第17図 8.9.12.13トレンチおよび周辺地形



第18図 1号住居址平面および断面図



## 2 弥生時代の遺構・遺物

弥生時代の包含層はⅡ a 層であるが、大半が開墾等のため削平され、残存部がきわめて少ない状態であったが、12トレンチ、13トレンチにおいて遺物包含層及び、遺構が検出された。

### 住居址 (第18図、図版8・図版9)

12トレンチのⅡ b 層上面において検出されたもので、 $4 \times 3.3\text{m}$ の長方形プランを呈する堅穴式住居である。この住居址はⅡ a 層からの掘り込みと想定されるが、Ⅱ a 層と埋土が同質なために確認が困難で、Ⅱ b 層上面まで掘り下げないとプランが検出出来ない状態である。そのため壁高の本来の高さは不明である。検出面からの深さは約15~20cmを測る。床面はⅡ b 層の下部であるが、やや固くしまっている。中央部やや北寄りに長軸80cm・短軸65cmの楕円形状に焼土が認められ、炉址と思われる。柱穴は住居址内に5個、それに対応するかつこうで4個の柱穴が住居址の外側にある。住居址内の柱穴の掘り込みはいずれも10cm前後と浅い。住居址内には多量の炭火物が見られるが、そのほとんどが棒状の炭火物で、住居址を構築していた材木の名残りと思われる。出土遺物は弥生式土器片と軽石製品(2)、土製品(1)である。

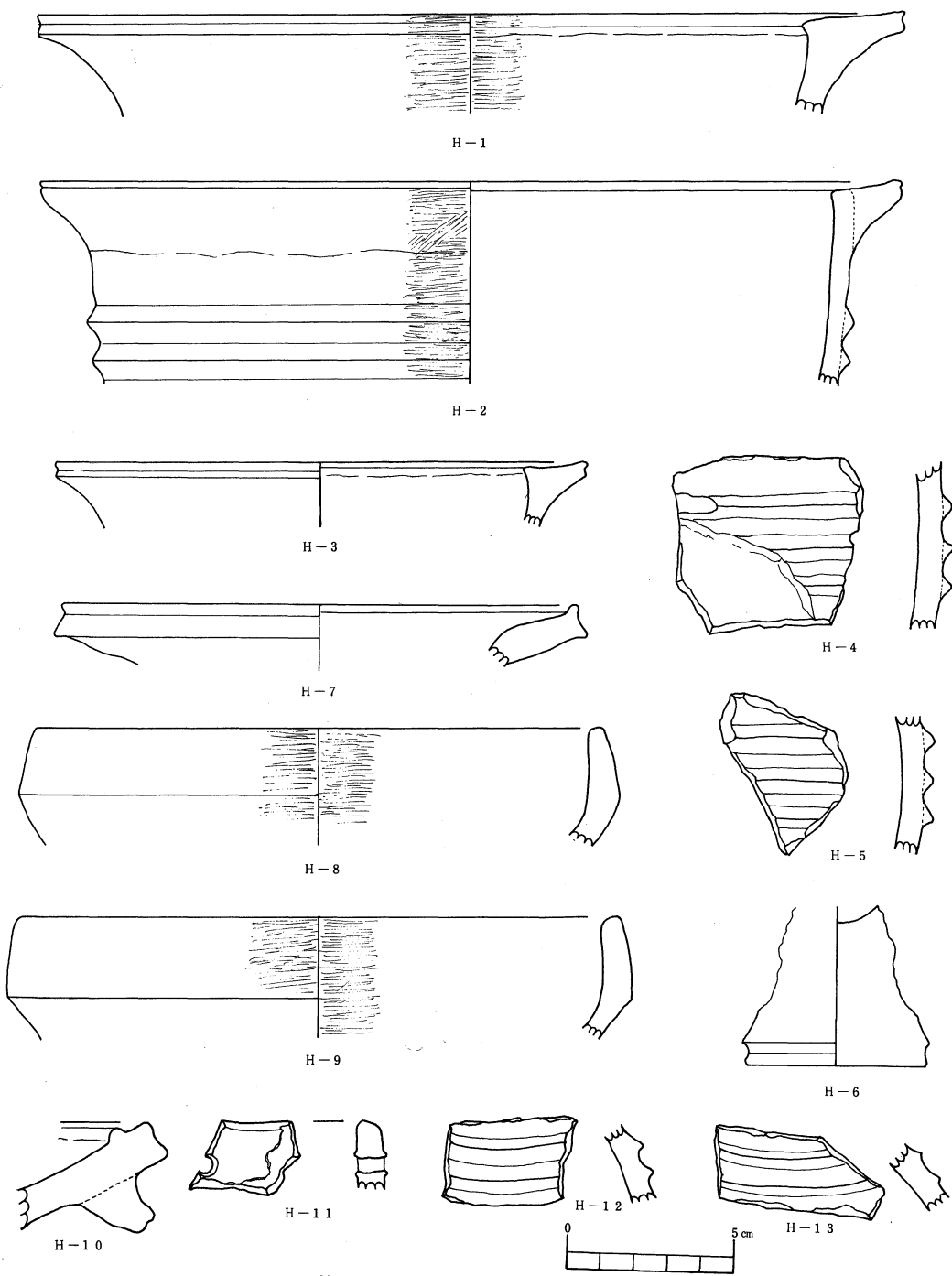
13トレンチにおいてもⅡ b 層上面において、 $2.8 \times 2.7\text{m}$ の略方形のプランが認められた。これも住居址と思われるが、平面プランの確認だけにとどめた。

### 住居址内の出土遺物

弥生時代の出土遺物は少なく、住居址より出土したもの以外は図化しえなかった。第19・20図は住居址より出土した遺物である。

### 土器 (第19図、図版11)

H-1・2・3・4・5・6は甕形土器である。H-1は復元口縁径26cmを測る。逆L字に近い状態で外反する口縁部で口縁端部はくびれを有し、内側にわずかに突出する。器外、内面共にハケによる調整痕が認められる。H-2は復元口縁径25.8cmを測る。逆L字状に外反する口縁部で口縁端部はくびれを有する。口縁部の貼り付けが明瞭に認められる。胴部上位に断面三角形の貼り付け突帯をめぐらす。器外面にはハケによる調整痕が認められる。H-3は復元口縁径15.9cmを測る。逆L字状に外反する口縁部で、口縁端部はくびれを有し、内側にわずかに突出する。H-4・5はいずれも甕形土器の胴部で、断面三角形の貼り付け突帯をめぐらす。H-6は甕形土器で底部径5.5cmを測る。やや小さめの充実した脚台である。H-7は壺形土器の口縁部と思われるもので、外びらきの口縁で端部において内側がやや上方へとたちあがる。H-8・9は内方へ湾曲する口縁部で、袋状の口縁部状を呈する。いずれも器外・内面ともにハケによる調整痕が認められる。H-10は壺形土器の口縁で、外反する口縁部で口縁端部はくびれを有する。口縁端の外側直下には断面が略台形上の貼り付け突帯をめぐらす。内側には小さな突起を持つ。H-11は壺形土器の口縁部と思われるが、口縁部下位に5cmの穿孔を有するものである。H-12・13はいずれも壺形土器の胴部で断面三角形の突帯をめぐらす。



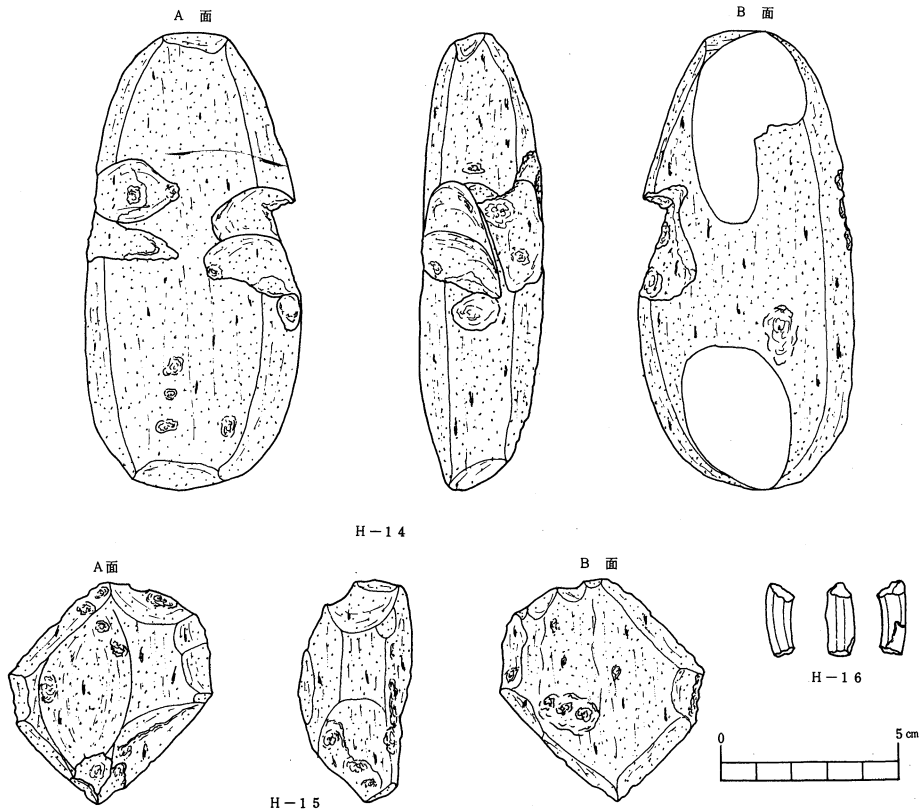
第19图 1号住居址出土土器实测图

軽石製品（第20図・図版11）

軽石製品は2点出土している。H-4は、住居址の南西の隅より出土したもので、長さ12.8cm、幅6cm、厚さ3.4cmを測るもので、ていねいに擦って整形してある。A面には、左側は中位と上位の間に、左側は中位よりやや上方に幅2cmの袢りが見られる。B面には、左側ほぼ中位に幅2.5cmの袢りが見られる。H-5は、住居址の東南の隅に出土したもので長さ6.3最大幅5.7cm、厚さ3.1cmを測る不整形なもので、B面のみが擦って整形してある。A面のやや左寄りに最大幅2.5cm、長さ4.5cmの楕円形状に擦った凹みが見られる。

土製品（第20図・図版11）

土製品は、住居址のほぼ中央の北寄りに出土したものが1点である。両端が欠損しているが現存長は2.2cm、径は上位で0.8cm、下位で0.6cmを測り、やや内側へ湾曲している。焼成はやや不良でひびわれが見られる。土製勾玉の一部と思われる。

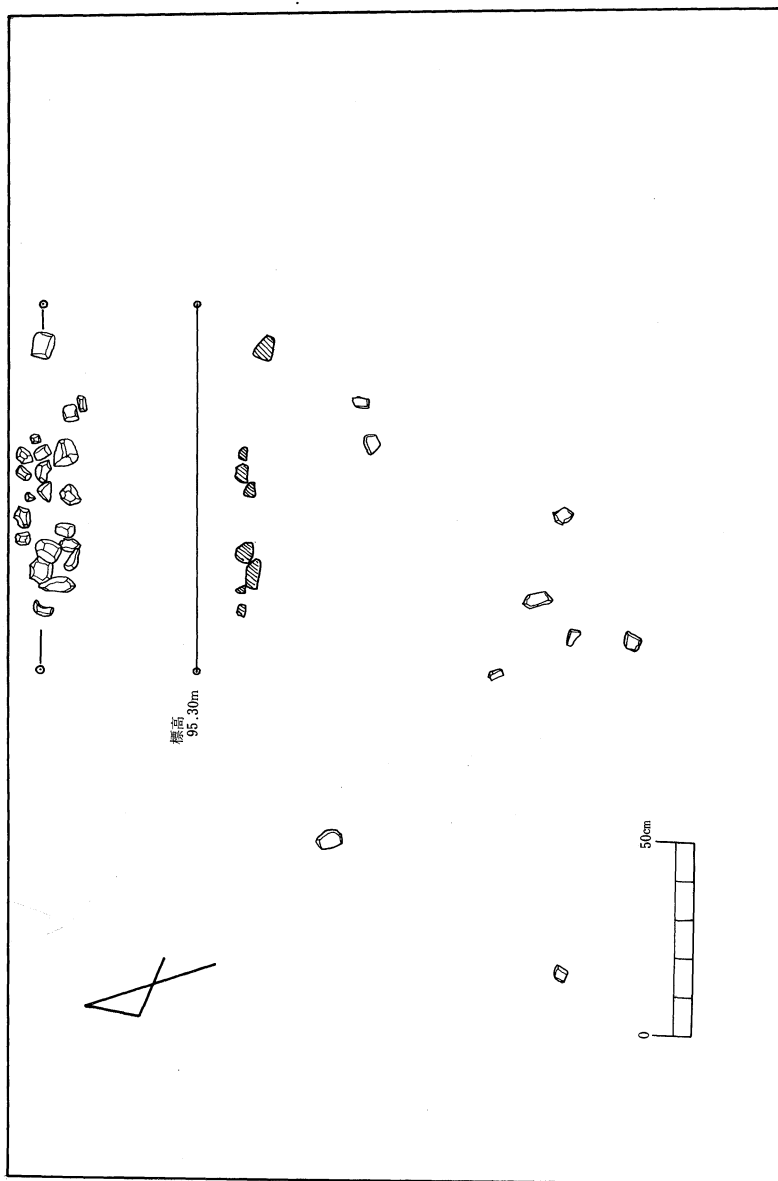


第20図 1号住居址出土軽石製品および土製品実測図

### 3 縄文時代の遺構・遺物

#### 遺構 第21図・第22図・第23図

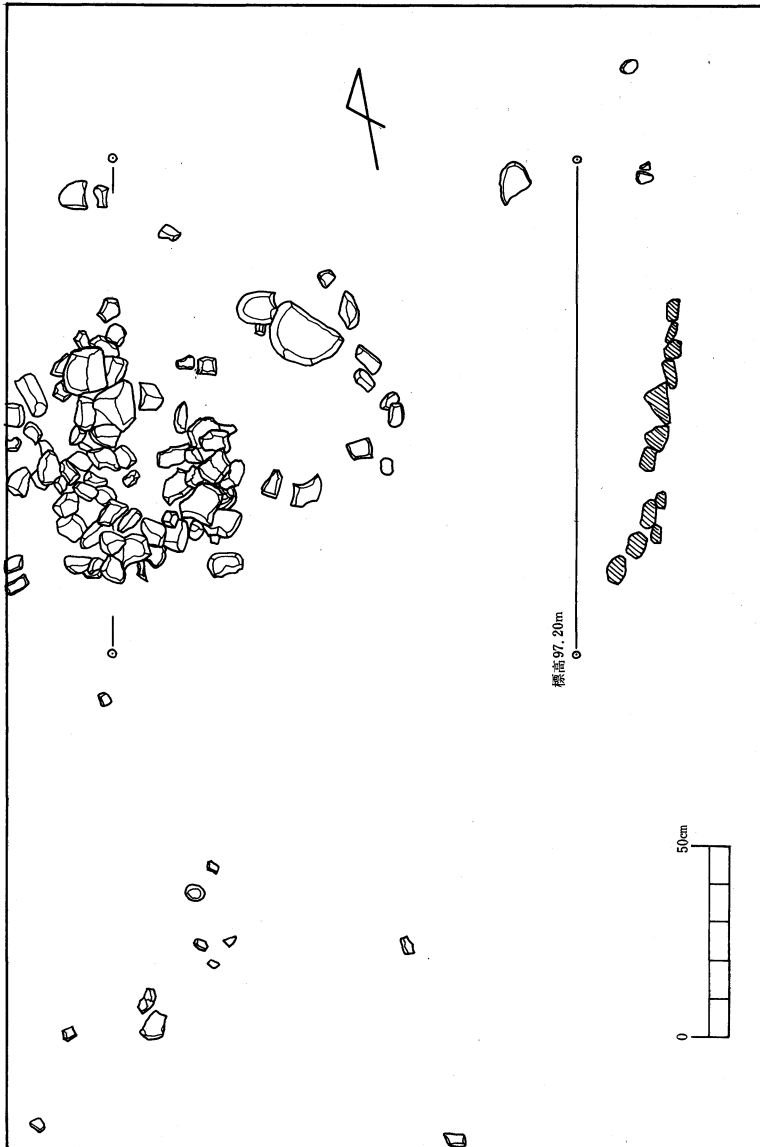
遺構は、第7. 8. 16トレンチのⅣ層下部及びⅤ層上部にかけて集石遺構が認められたのみである。第7トレンチより検出された集石（第21図，図版12-1）は、トレンチの北壁寄りに位置し、その範囲はまだ広がるものと想定される。集石を構成するものは、こぶし大ぐらいの角礫がほとんどで、確認されたものについてみると約20個を数える。範囲は北壁に沿って75cm×20cmであるが、北側トレンチ外へと広がる可能性は十分にあると思われる。集石に伴う落ち込みらしきものは確認されなかった。又、7トレンチからは縄文時代早期の吉田式土器・石坂式土器・押型文土器等が出土している。



式土器・押型文土器等が出土している。

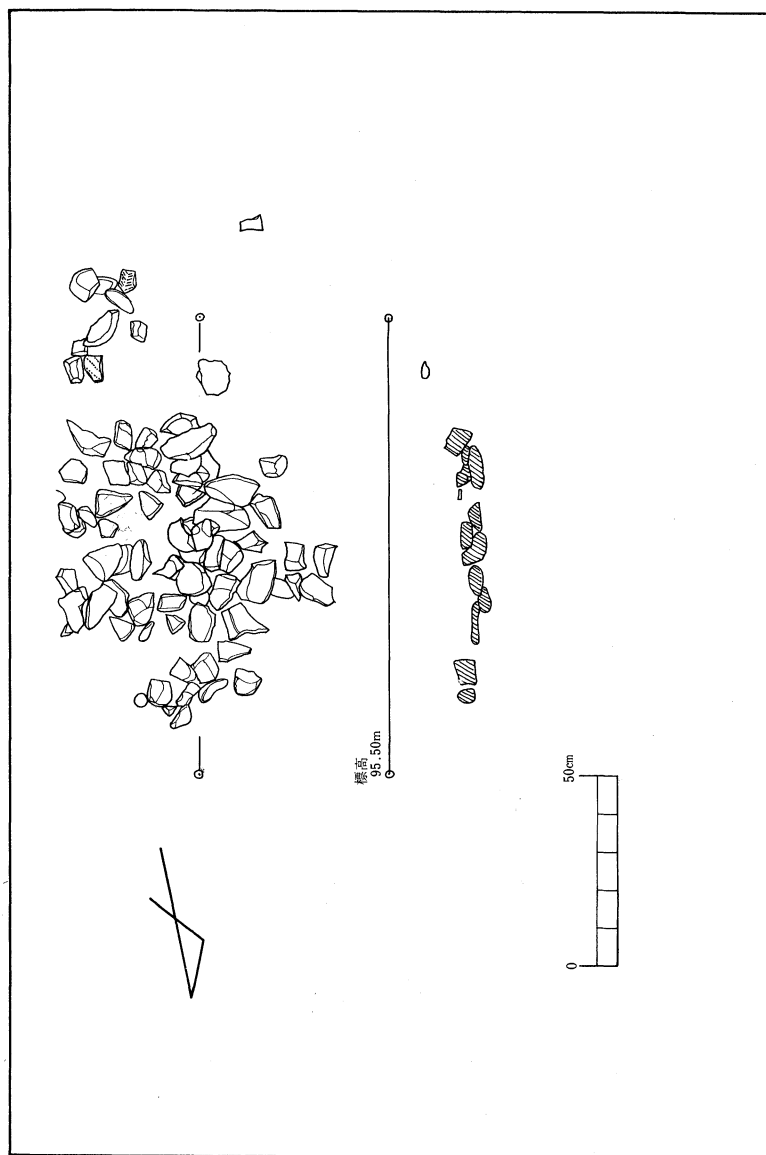
第21図 柳遺跡7トレンチ検出集石遺構

第8トレンチより検出された集石（第22図）は10cm大の角礫が主であるが、20cm大の大きめの礫も混ざっている。範囲は100×85cmの略円形で、礫は大小約80個を数えるが、トレンチの西壁寄りに位置するため全体の規模はつかめない。トレンチ外への広がりも想定される。集石に伴う落ち込みらしき痕跡は認められない。又、第8トレンチからは、縄文時代早期の吉田式土器、石坂式土器、縄文土器、押型文土器が出土している。



第22図 柳遺跡8トレンチ検出集石遺構

第16トレンチより検出された集石（第23図）は、5cm～10cm大の角礫が主である。範囲は110×70cmの楕円形状で、礫は約80個を数える。この集石もトレンチの東壁寄りに位置するため全体の規模はつかめない。トレンチ外への広がりも想定される。集石に伴う落ち込みらしき痕跡は認められない。又、第16トレンチからは、縄文時代早期の吉田式土器・石坂式土器等が出土している。



第23図 柳遺跡16トレンチ検出集石遺跡

## 遺物

### 土器

土器はⅡ a 層より弥生時代中期の土器、Ⅳ層及びⅤ層上位において縄文時代早期の土器が出土している。Ⅱ a 層出土の土器は小片で図化しえなかつた。縄文時代早期の土器についてみると、貝殻文系の吉田式、石坂式に比定出来るもの、押型文系土器、縄文・捺系文系土器の4種に分類される。

#### 吉田式系土器（第24・25・26図，図版13・14）

地文には貝殻復縁による刺突文、横位の押し引き文、規則正しい横位の条痕等を施すもので、口縁部にクサビ状貼付文を有するものもある。底部は平底で外面に縦位の沈線が施される。底部円板の測縁に器壁を貼りつける技法が見られる。全体的に器壁が薄く、内面はへらみがき状の整形が見られ、胎土・焼成共に良好である。

B-1は復元口縁径24.3cmを測る。やや外反する口縁部で、平坦におさめた口唇部には刻み目を施す。口縁直下に横位の刺突文を1条巡らし、その下に斜位の刺突文を交互に施し、クサビ形を形成する。胴部は横位のていねいな押し引き文を施す。B-2は復元口縁径20.8cmを測る。やや外反する口縁部で、平坦におさめた口唇部には刻み目を施す。口唇直下に横位の刺突文を3条巡らす。その下は縦位の刺突文を施すが、約3cm間隔で縦列のクサビ形貼付文を有する。B-3~10は口縁部である。ほとんどが直行するものであるが、外反するもの5・10も見られる。口唇部は平坦で例外なく刻み目を施す。クサビ形貼付文を有するもの3~6、貝殻復縁を押圧気味に刺突しクサビ形を決定するもの9が見られる。B-11~16はクサビ形貼付文を有する胴部である。地文は刺突文11・12、押し引き文13・14・15・16が施される。B-17~21は押し引き文を施す。B-22~36は刺突文を縦位に施す。B-37~39は押し引き文を施す。B-40・43は上位に縦位の刺突文・下位には横位の条痕文を施す。B-41・42は横位の条痕文を施す。B-44は押し引き文であるが下位は間隔が広くなり条痕状を呈する。B-45・47は胴部で横位の条痕文を施す。B-48は復元口縁径19.6cmを測る。若干外反する口縁部で口唇部はややうわむき気味で、端部においてすぼまる。口縁部に貝殻刺突文が4条巡らされ、その下位に横位のていねいな条痕文を施す。B-49~52は横位の条痕文を施した胴部で、B-48と同一個体と思われる。B-53は底部近くで貝殻刺突文を縦位に施す。B-54・55は底部である。外面に縦位の沈線を施す。復元底部径はB-54で14.6cm、B-55で23cmを測る。

#### 石坂式系土器（第27・28・29図，図版14・15・16）

地文には貝殻復縁による条痕文を施すもので、口縁部には斜位及び羽状に貝殻刺突文を施すものが普通である。胎土・焼成は良好で内面もていねいな仕上げがなされる。

B-56はやや内湾する口縁部に突起を有するもので、貝殻刺突文を施す。B-57~63は口縁部で、直行するもの60・62・64・65・66と外反するもの57~59、61・63・67・68とがある。又口唇部に刻み目を施すもの57~59・63・66と施さないもの60~62、62・64・65・68とがある。貝殻刺突文を羽状に施すものがほとんどであるが、B-66は瓜形文状の短い刺突文の下位に横

位に1条の刺突文線を巡らし、その直下から鋸歯状に条痕文を施すものである。B—67は、口縁部に斜位に密な刺突文を施し、口唇部には1条の刺突文線を巡らす。B—69～104は胴部で、条痕文を斜位、縦位、羽状、鋸歯状に施すものである。B—105～113は底部である。105は、復元底部径9.5cmを測り、ほぼ直行に立ちあがる。外面下位は横位、その上は鋸歯状の条痕文を施す。106は復元底部径10.2cmを測り若干外びらきに立ちあがる。107は復元底部径10.8cmを測り、外びらきに立ちあがる。108は復元底部径7.7cmを測り、ほぼ直行に立ちあがる。109は復元底部径15.7cm、110は復元底部径13.5cmを測る。109・110共にややひらき気味に立ちあがり、外面には横位の条痕文が施される。111は復元底部径12cmを測り、直行に立ちあがる。外面は横位の条痕文を施す。112は復元底部径14.5cmを測り、ややひらき気味に立ちあがる。外面下位は横位、その上方鋸歯状に条痕文を施す。113は復元底部径13cmを測り、若干ひらき気味に立ちあがる。外面はクシ状の条痕文が施される。114はクシ状の条痕文を施すものである。

#### 押型文系土器（第30図・図版17）

押型文は11点出土している。山形押型文、楕円押型文が見られる。B—115～118は同一個体と思われる。胎土・焼成は良好であるが、内面が剥奪する部分がある。山形押型文である。B—119・120は山形押型文である。B—121・122は押型文と思われるが、小破片のため原体は明らかでない。B—123～125は楕円押型文である。

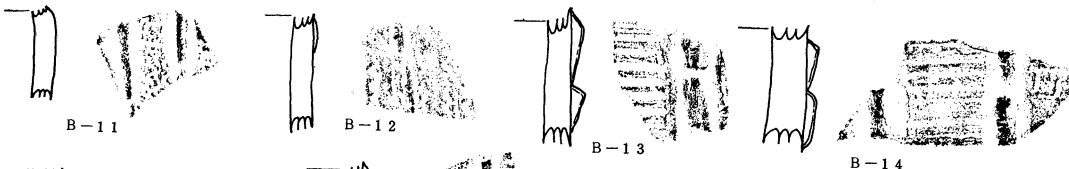
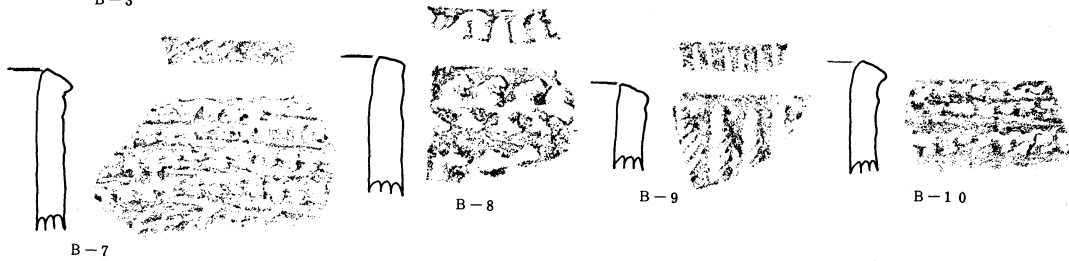
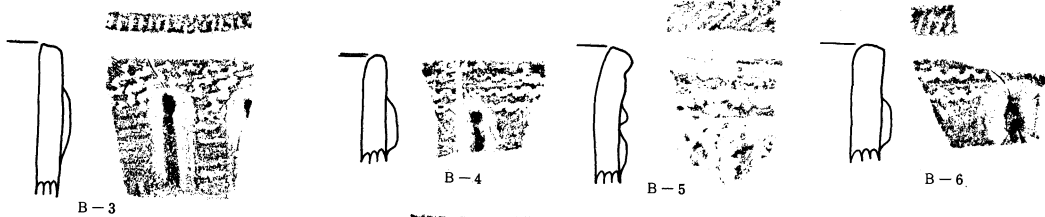
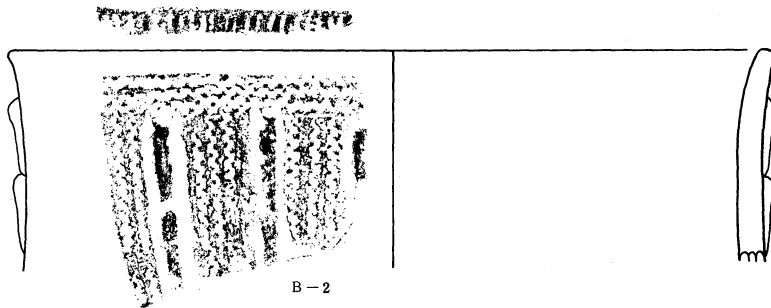
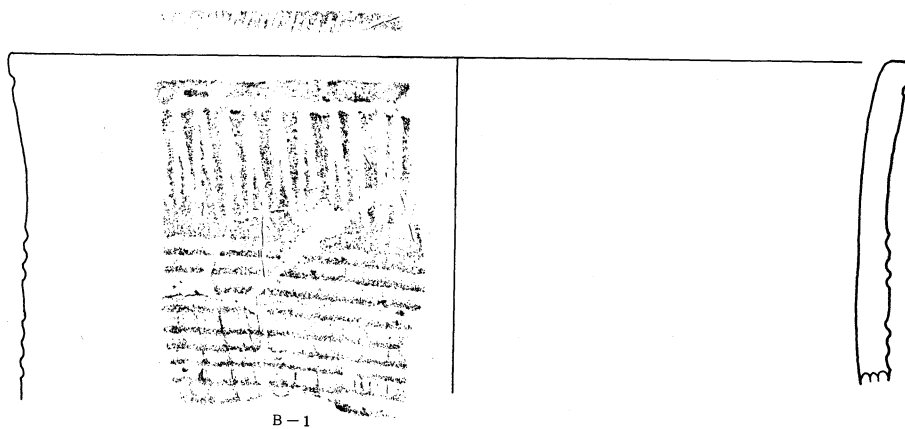
#### 縄文・捺糸文系土器（第30図、図版17）

縄文を施した土器は4点、捺糸文を施したものは1点出土している。B—126は単節縄文である。B—127は単節縄文であるが、押圧縄文と思われる。B—128は口縁部でやや平坦な口唇部を有する。単節縄文を施す。B—129は単節縄文と思われる。B—130は復元底部径10cmを測る。若干上げ底の底部より、ややひらき気味に立ちあがる。外面に捺糸文が認められる。

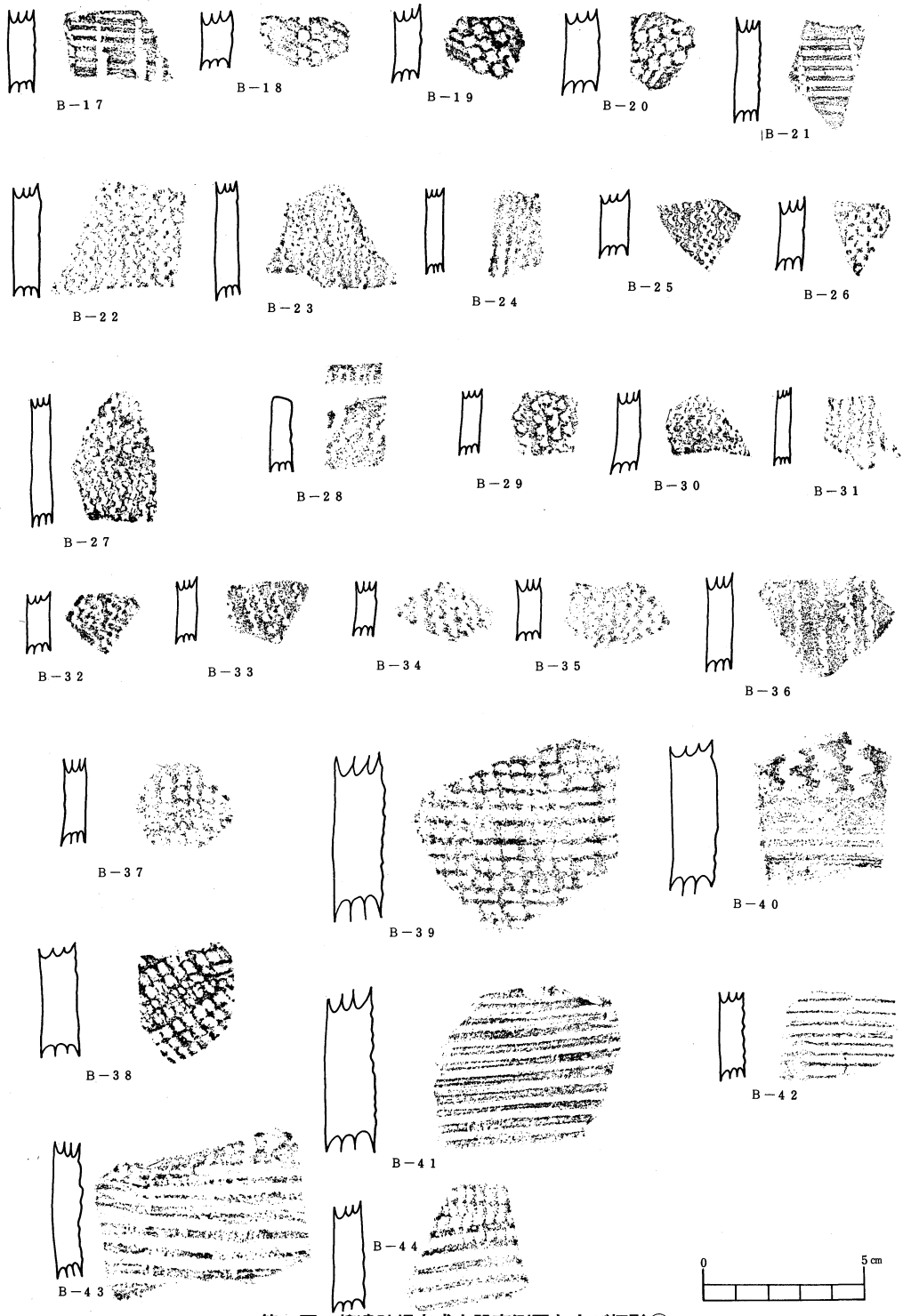
#### 石器（第31図）

B—1（柳遺跡）は、石器として磨石、敲石の4点の出土がある。B—13は11トレンチのⅡa層より出土した。全長11.6cm、最大幅4.0cm、最大厚2.0cm、重さ160gを測り、硬質の砂岩製で棒状の楕円礫を使用したもので側面と両面が特に磨かれ、上・下端は打痕が残されている。B—132は3トレンチのⅣ層より出土した。長径11.5cm、短径8cm、最大厚4.8cm、重さ655gを計り、硬質砂岩製の楕円礫を使用したもので両側面及び両面ともに磨かれている。B—133は16トレンチのⅣ層より出土した。現存長径11.8cm、現存短径5.9cm、現存最大厚4.1cmの砂岩製の楕円礫を使用したもので、半砕されている。片面のほぼ中央付近に一ヶ所に浅い窪みを残し、明瞭でないが打痕を残し、側端は楕所に打痕が認められるが剥離痕は磨滅がかなり見られるために不明である。B—134は1トレンチのⅣ層より出土したものである。現存長径8.6cm、現存短径4.2cm、重さ200gを測り、砂岩製の楕円礫を使用したもので半砕されている。器面全体に研磨は見られるが、風化のため痕跡は不明な部分も見られる。

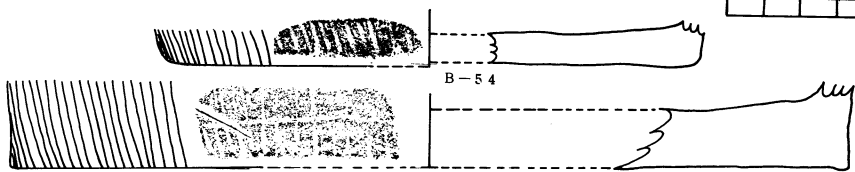
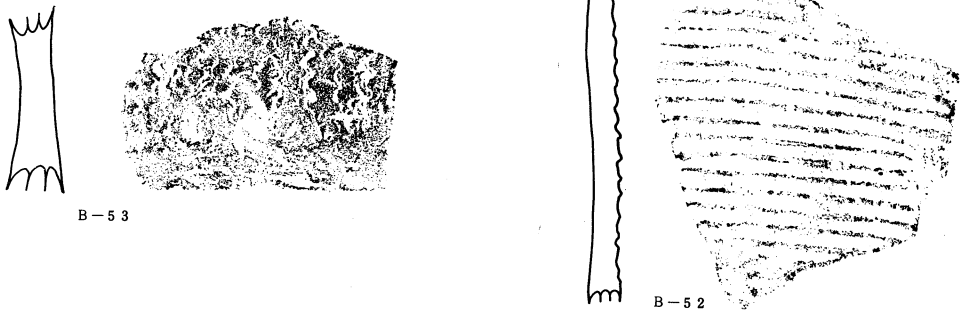
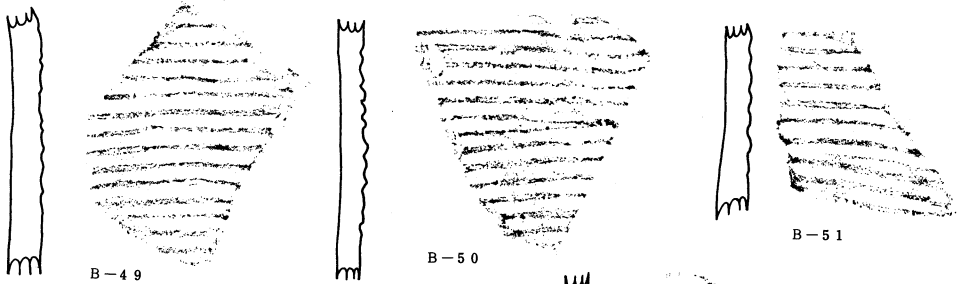
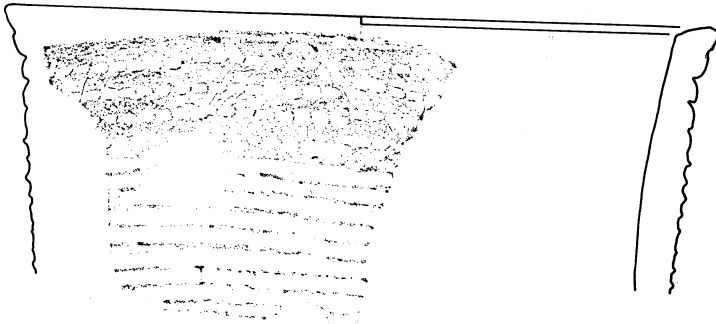
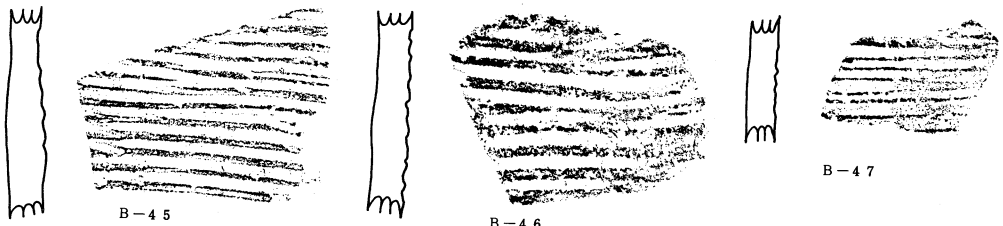




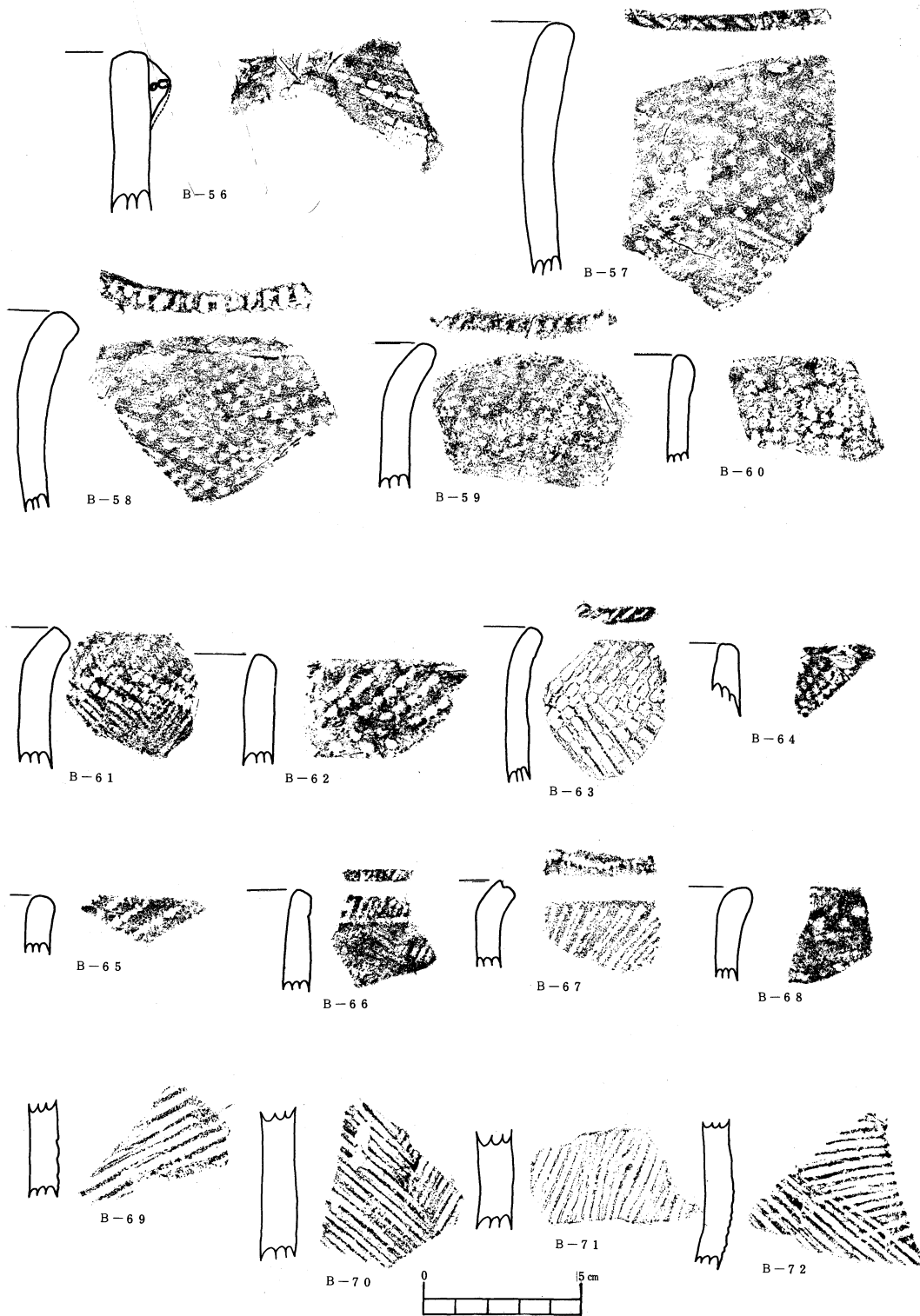
第24図 柳遺跡縄文式土器実測図および拓影①



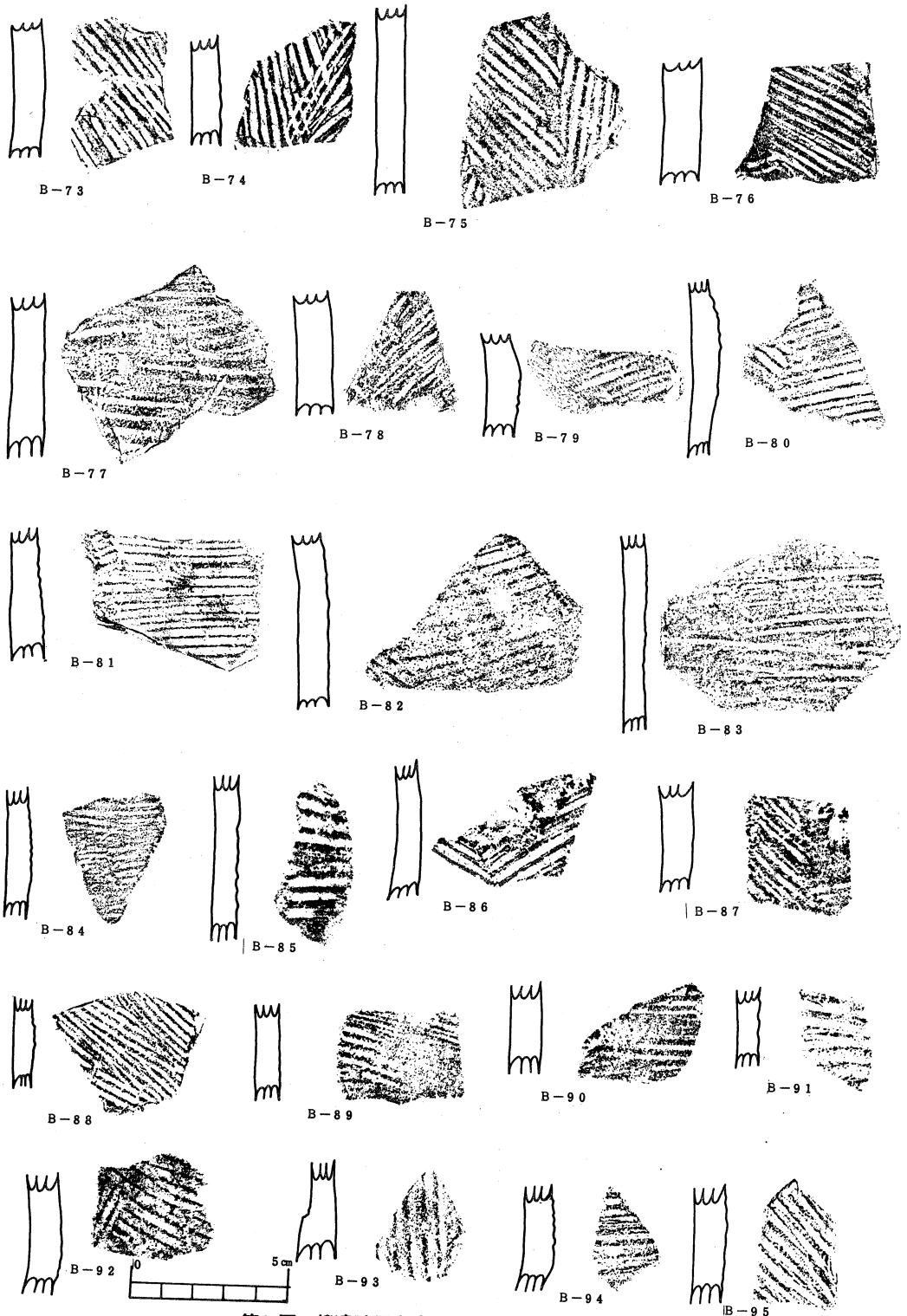
第25図 柳遺跡縄文式土器実測図および拓影②



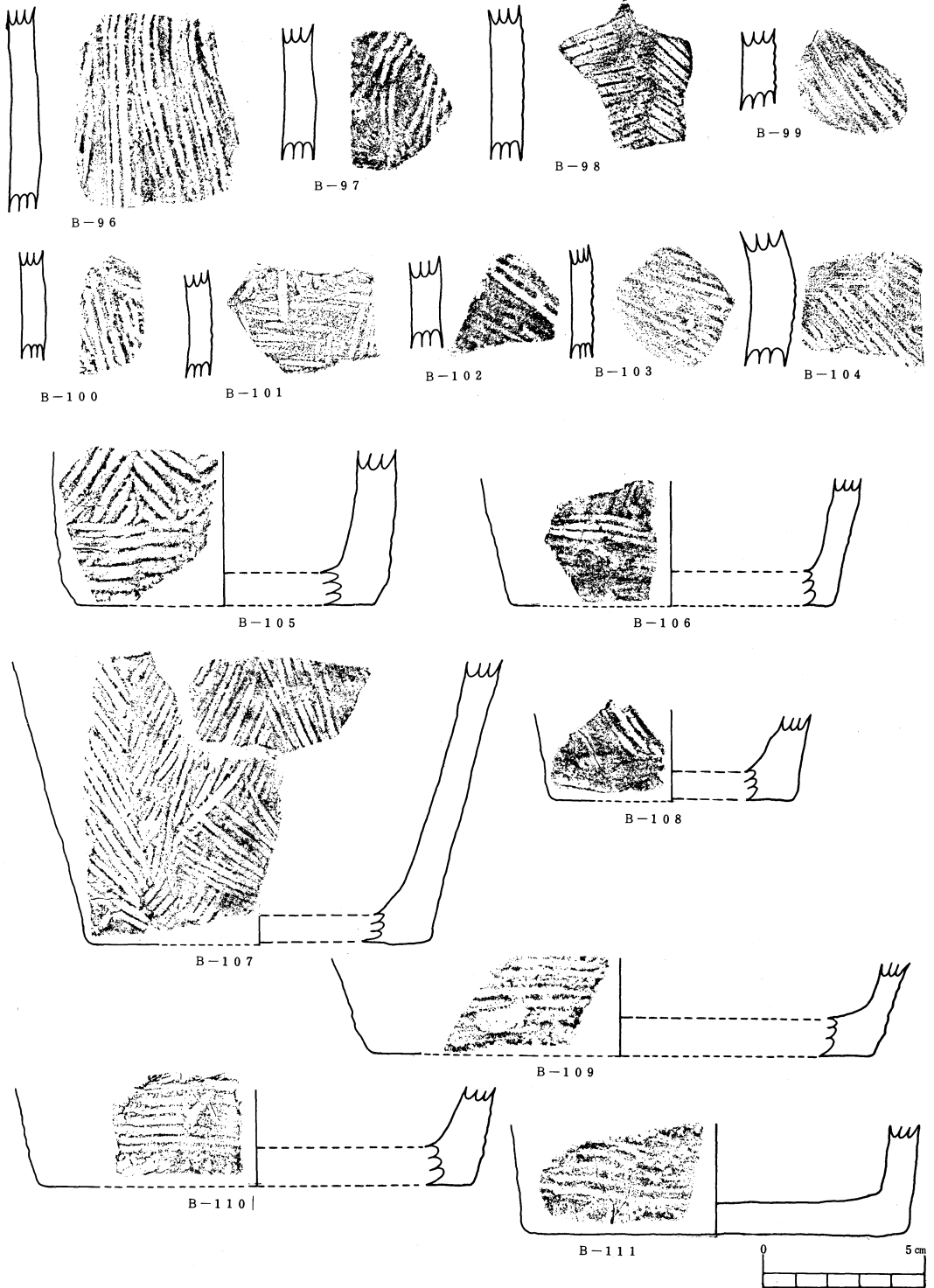
第26図 柳遺跡縄文式土器実測図および拓影③



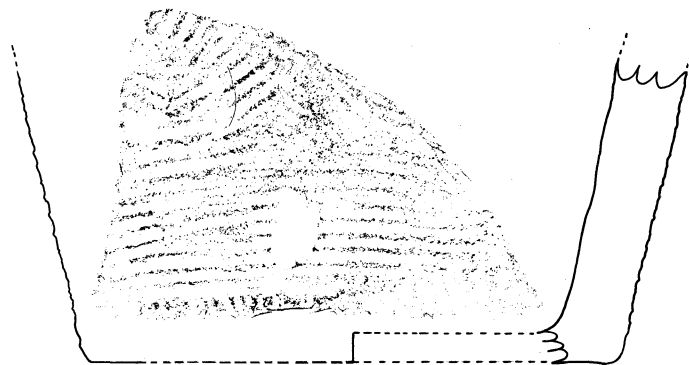
第27図 柳遺跡縄文式土器実測図および拓影④



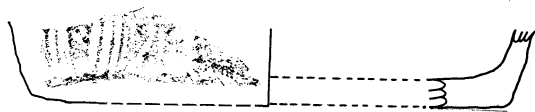
第28図 柳道跡縄文式土器実測図および拓影⑤



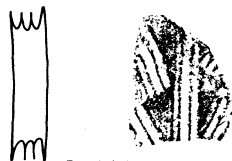
第29図 柳遺跡縄文式土器実測図および拓影⑥



B-112



B-113



B-114



B-115



B-116



B-117



B-118



B-119



B-123



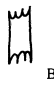
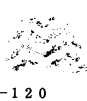
B-124



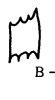
B-125



B-120



B-121



B-122



B-126



B-127



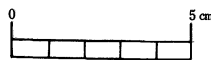
B-128



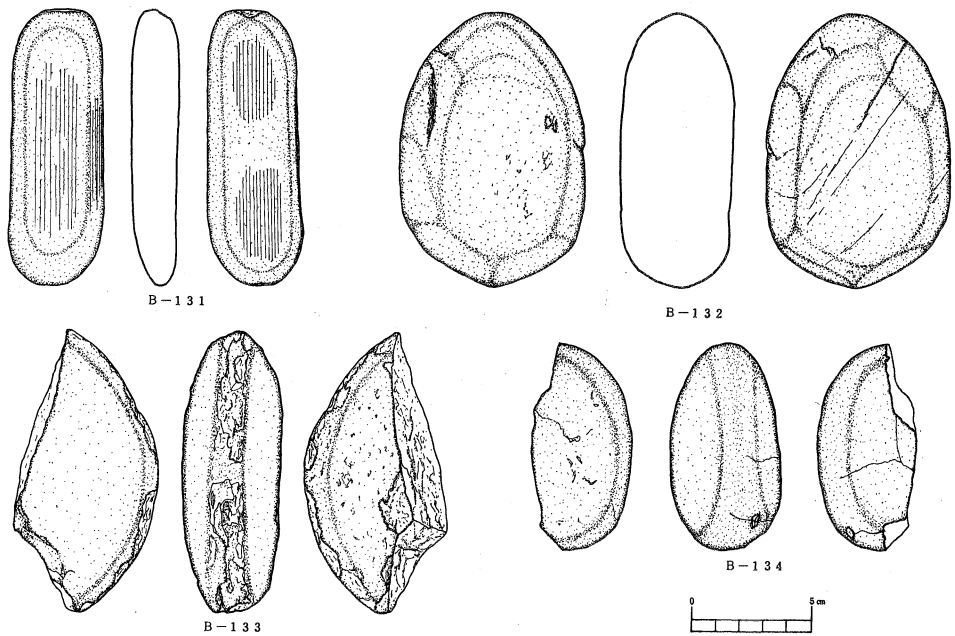
B-129



B-130



第30図 柳遺跡縄文式土器実測図および拓影⑦



第31図 柳遺跡出土石器

#### 4 小結

柳遺跡からは弥生時代の住居址、遺物、縄文時代の集石。遺物が発見された。

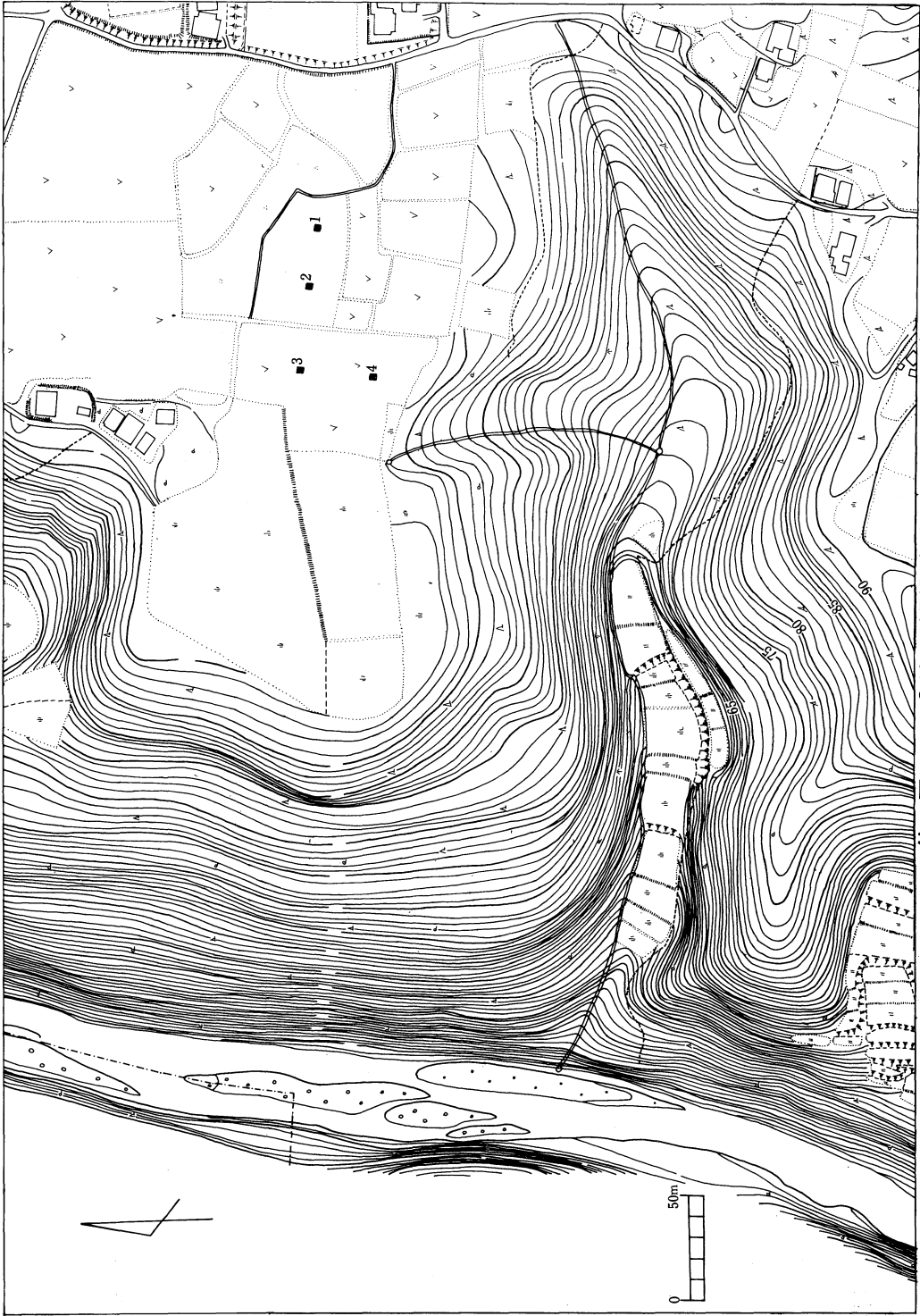
住居址は $4 \times 3.3\text{cm}$ の長方形プランで柱穴が内、外に9個ある。住居址を構築していた材木と思われる棒状の炭火物が多く認められた。住居址からの出土品は、軽石製品(2)、土製品、土器である。軽石製品は石棒状を呈するものが見られる。土製品は勾玉と思われる。大根占町山ノ口遺跡出土の軽石製品、軽石製勾玉、高山町・塚崎(西原)遺跡出土の土製勾玉に類似している。土器は口縁部が逆L字状を呈し、断面三角穴帯を巡らす。底部は中空にならず充実したもので弥生時代中期に位置すると思われる。

縄文時代の遺構は集石遺構が3基検出されたが、いずれもトレンチ調査によるもので、全体の範囲は確認できなかった。集石を構成する礫は、俗にアタゴ石と呼ばれているもので、赤色を呈し、ややもろいため、石自体の特徴なのか、火を受けたものか判断が困難である。又炭化物等は検出されなかった。

縄文時代の土器は、貝殻復縁による刺突文、押し引き文、横位の条痕文を施した円筒土器で吉田式土器に比定されるもの。口縁部に貝殻復縁で斜位及び羽状に刺突文を施し、胴部は貝殻条痕文を斜位、縦位、羽状に施した円筒土器で石坂式土器に比定されるもの、単節縄文を施したもの、押型文(山形押し型文、楕円押し型文)を施したもの等が見られる。いずれも縄文時代早期に位置するものと思われる。

石器は弥生期に1点、縄文期に3点出土している。すり石・敲き石状を呈している。



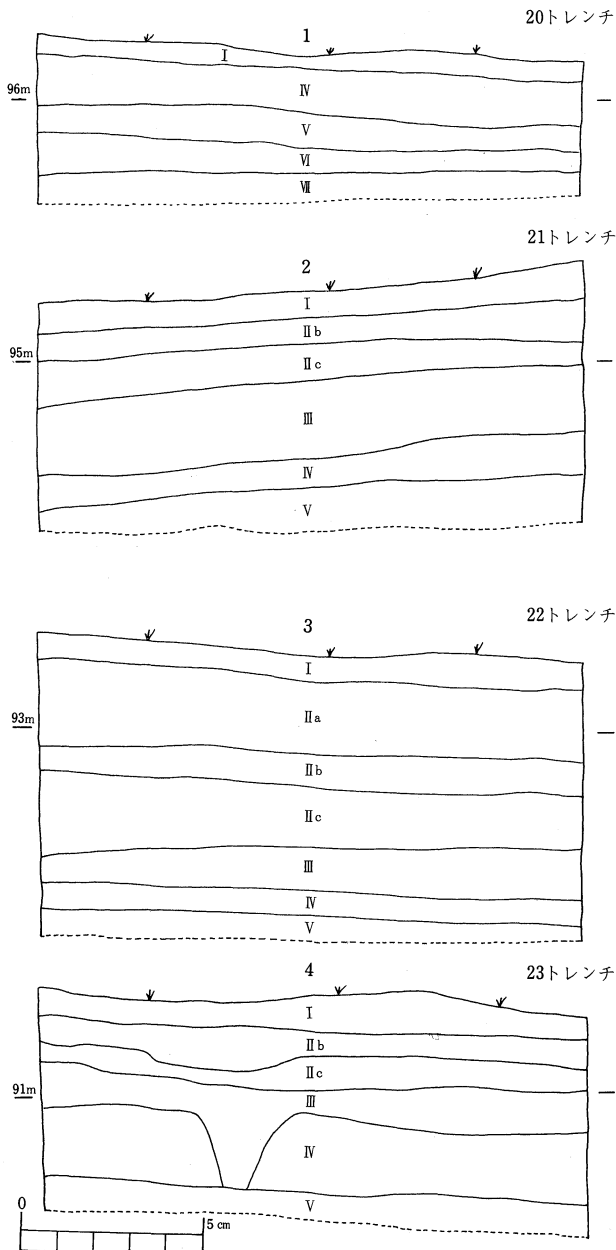


第32図 B-2地区地形図およびトレンチ配置図

### 第3節 B-2地区の調査

#### 1 概要及び層序

B-2地区の確認調査は昭和55年1月31日より2月5日まで行なわれた。昭和54年4月の分布調査に基づいて、遺物包含層と遺跡の範囲を目的としてトレンチを設定した。北側の畑地はほとんど高低差がなく、ホ場整備事業の計画から外されることが予定される為、遺物散布の見



第33図 B-2地区土層図

られた台地中央部で標高のいちばん高い所及び南側緩傾斜地の畑地に、2×3mのトレンチを2ヶ所ずつ設定した。トレンチの名称は調査を実施した順に、1・2・3トレンチとした。層位はI層・灰黒色耕作土・II層・黒褐色火山灰土（パミスの含有量により3層に細分）。III層・黄橙色火山灰土、IV層・黒色火山灰土、V層、黒茶褐色火山灰土 VI層・黄白色パミスであるが、1トレンチはIII層以上が削平され、2・4トレンチもIIa層が削平されていた。

B-2地区の調査トレンチではI層より弥生式土器の小片が出土したのみである。

#### 2 小結

B-2地区は昭和54年4月の分布調査においては弥生式土器片が散布していたが、今回の調査については、削平を受けていたり、土器片が多く散布していた北側の畑地を除外したため、遺構、遺物の検出はなかった。

- 注 1 志布志役場 「片野洞穴遺跡」志布志町誌  
上巻 (1969)
- 注 2 鹿児島県考古学会 「山ノ上遺跡発掘報告」  
鹿児島考古第5号 (1971)
- 注 3 鹿児島県考古学会 「小瀬遺跡発掘報告」  
鹿児島考古第5号 (1971)
- 注 4 志布志町教育委員会 「野久尾遺跡」埋蔵文  
化財発掘調査報告書 (1979)
- 注 5 志布志町教育委員会 「別府(石踊)遺跡」  
県営特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化  
財発掘報告書 (1979)
- 注 6 志布志町教育委員会 「宮ノ前発掘報告書」  
(1975)
- 注 7 鹿児島県教育委員会 「鹿児島県遺跡地図」  
(1973)

## あとがき

弓場ケ尾地区（蓑輪・柳遺跡）の遺跡確認調査報告書もようやく刊行にこぎつけた。確認調査は二次に渡り実施し、弥生時代と縄文時代と2時期（文化）であった。弥生時代は住居址の確認、縄文時代は早期の遺跡の範囲や遺物・遺構などの確認がなされた。遺物の出土量はそれほど多くはなかったが、好資料と成果を得たと同時に、今後に残す問題も多かったように考える。

最後に本調査にあたって、発掘調査にたずさわっていただいた地元の作業員の方々をはじめ、発掘調査後の整理作業において多くの人々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

### 志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書

弓 場 ケ 尾 地 区

蓑 輪 遺 跡

柳 遺 跡

発行日 昭和55年3月

発行 志布志町教育委員会 899-71 曾於郡志布志町

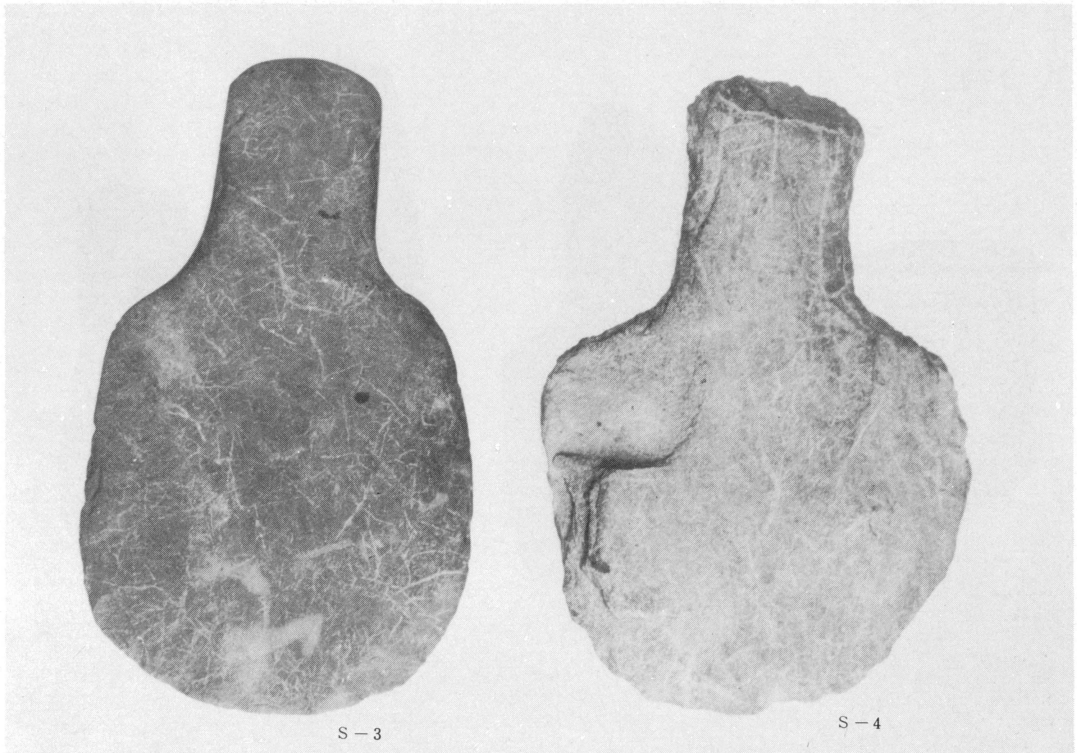
印刷所 綜合印刷 鹿児島県鹿屋市上谷4

版 圖



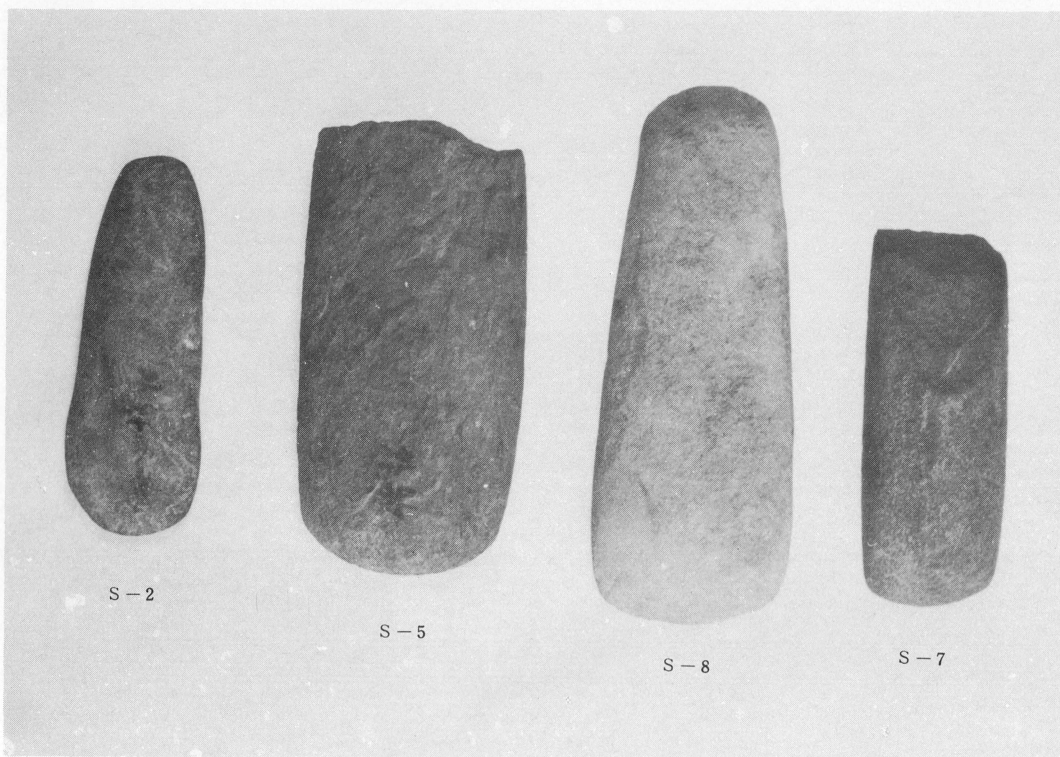


① 毛穴野遺跡出土 櫛目文土器

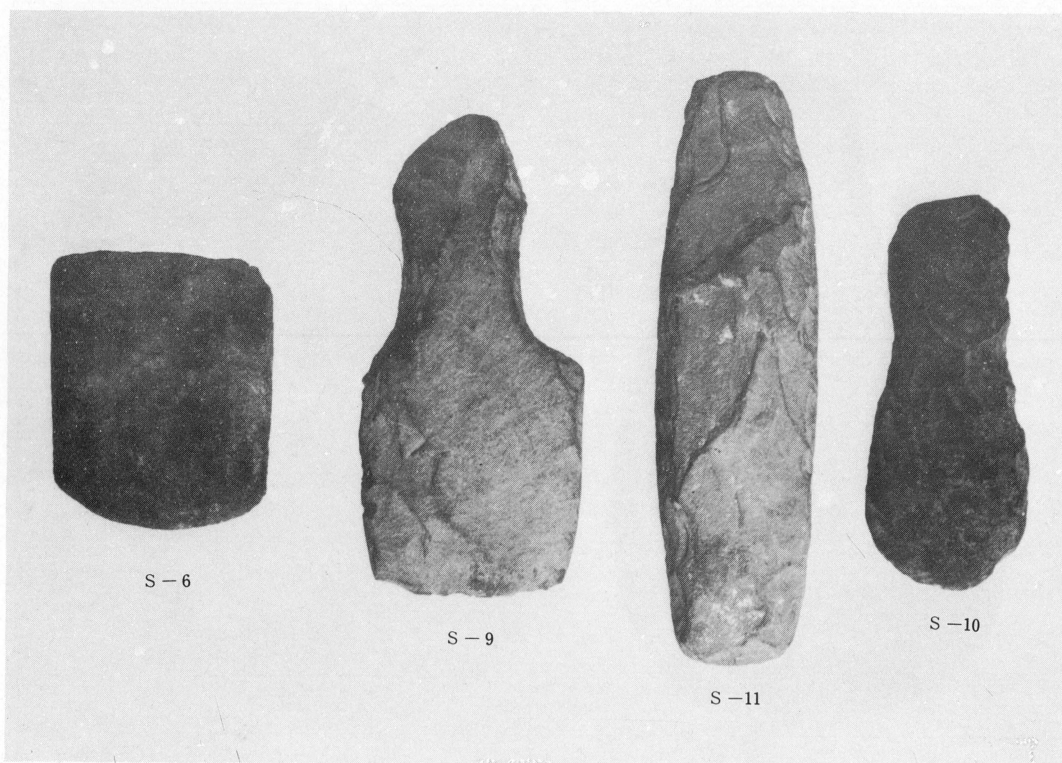


② 外ノ牧出土石器

図版 2



① 志布志町内出土石器



② 志布志町内出土石器

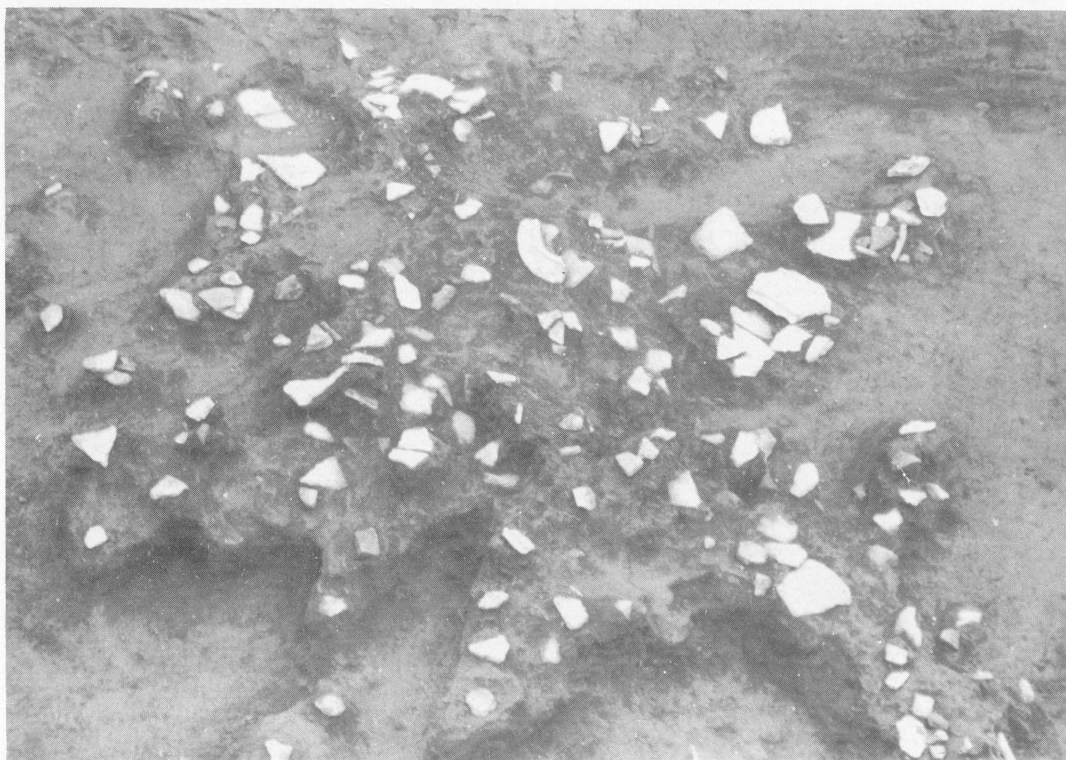




① 蕨輪遺跡第1.2地点近景



② 蕨輪遺跡第7.8.9地点遠景



① 襄輪遺跡第2地点弥生式土器出土状態



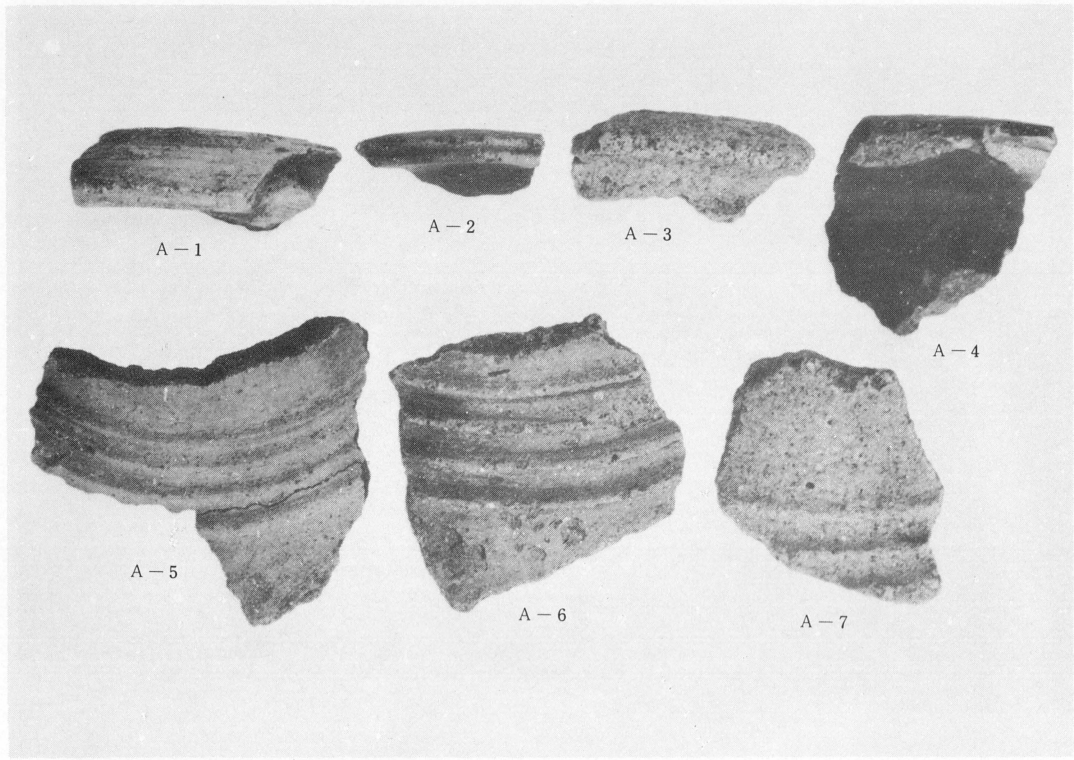
② 襄輪遺跡第2地点弥生式土器出土状態



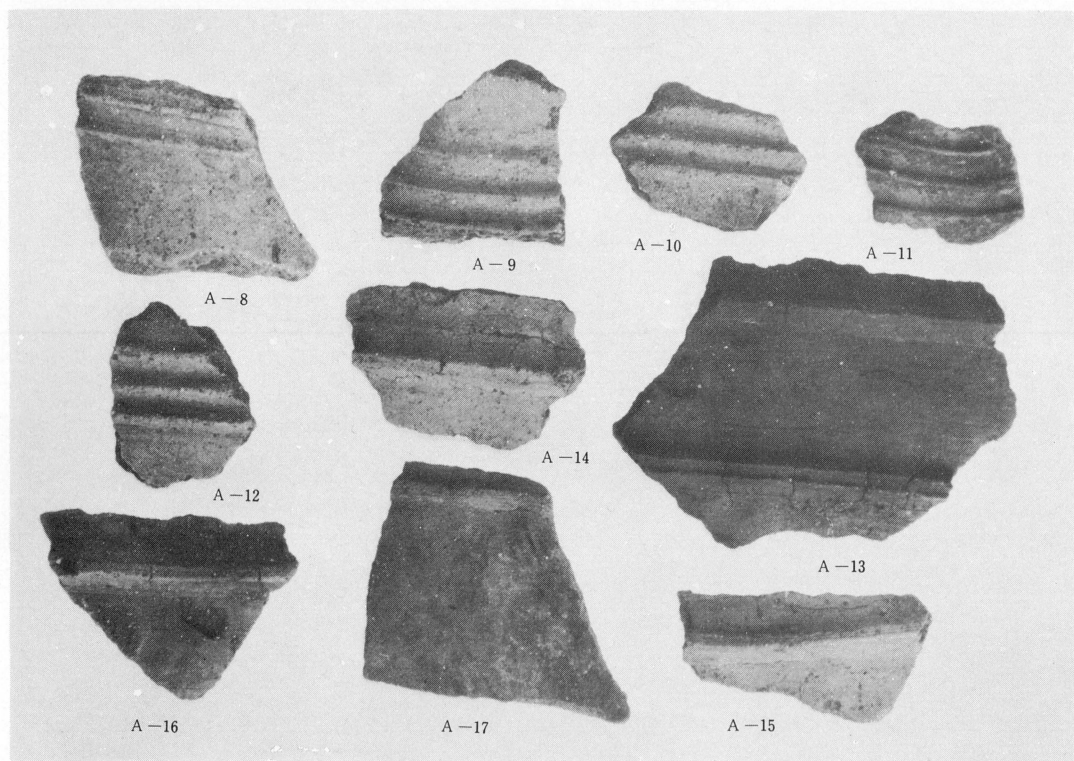
① 蕨輪遺跡8-4トレンチ縄文式土器出土状態



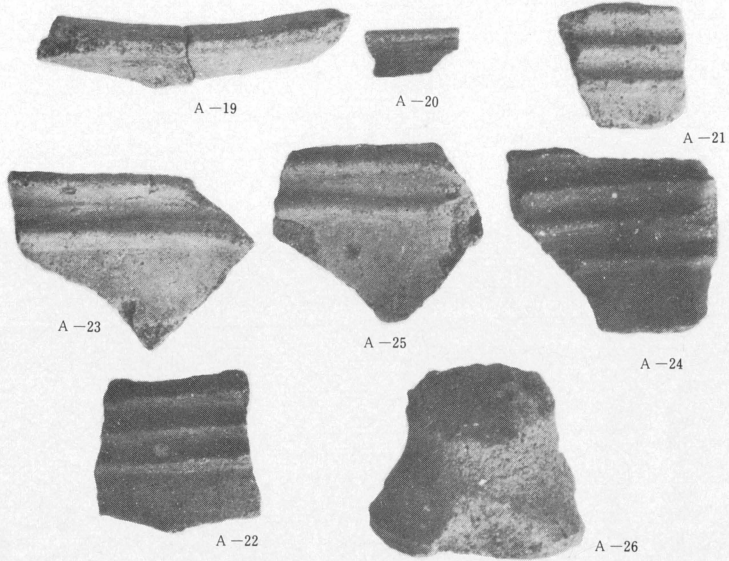
② 蕨輪遺跡8-5トレンチ縄文式土器出土状態



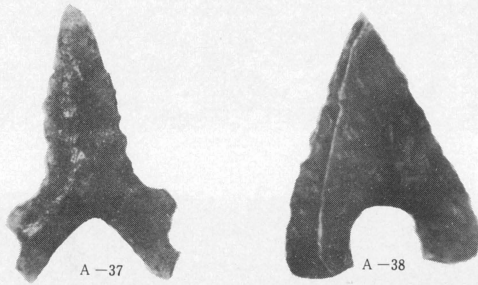
① 養輪遺跡2トレンチ出土弥生式土器



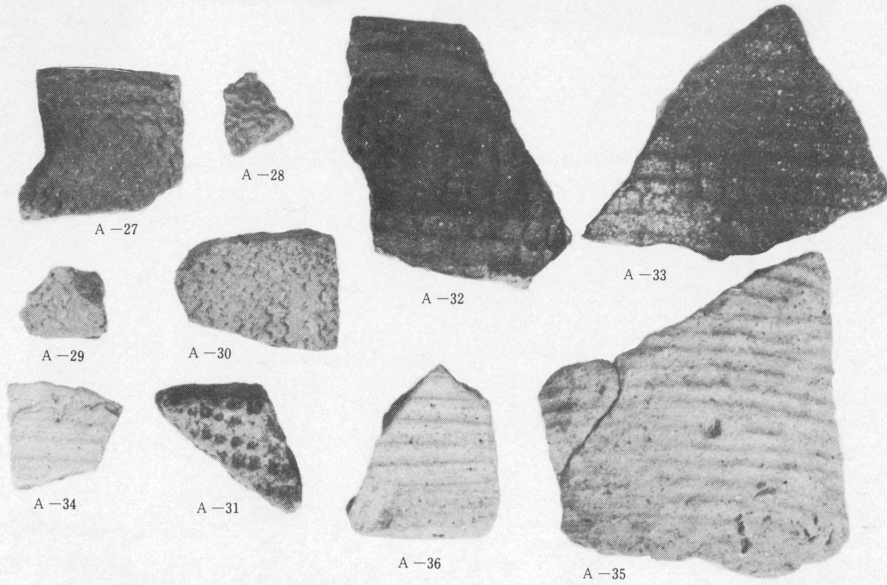
② 養輪遺跡2トレンチ出土弥生式土器



① 蕤輪遺跡2トレンチ出土弥生式土器



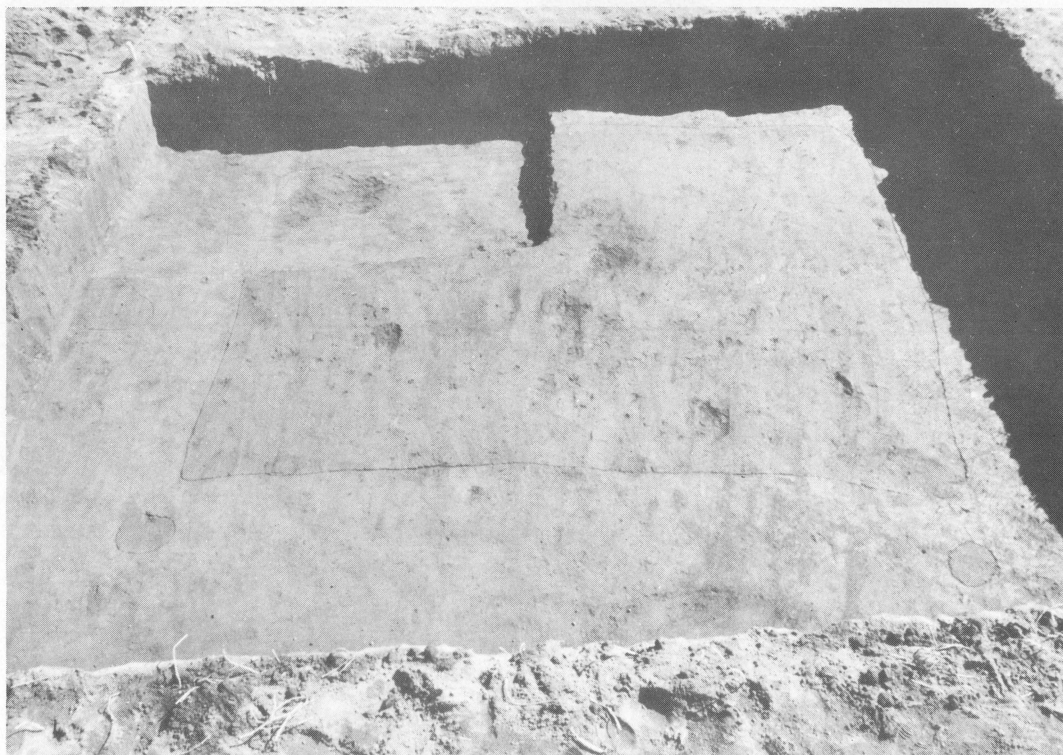
② 蕤輪遺跡出土石鏃



③ 蕤輪遺跡出土縄文式土器



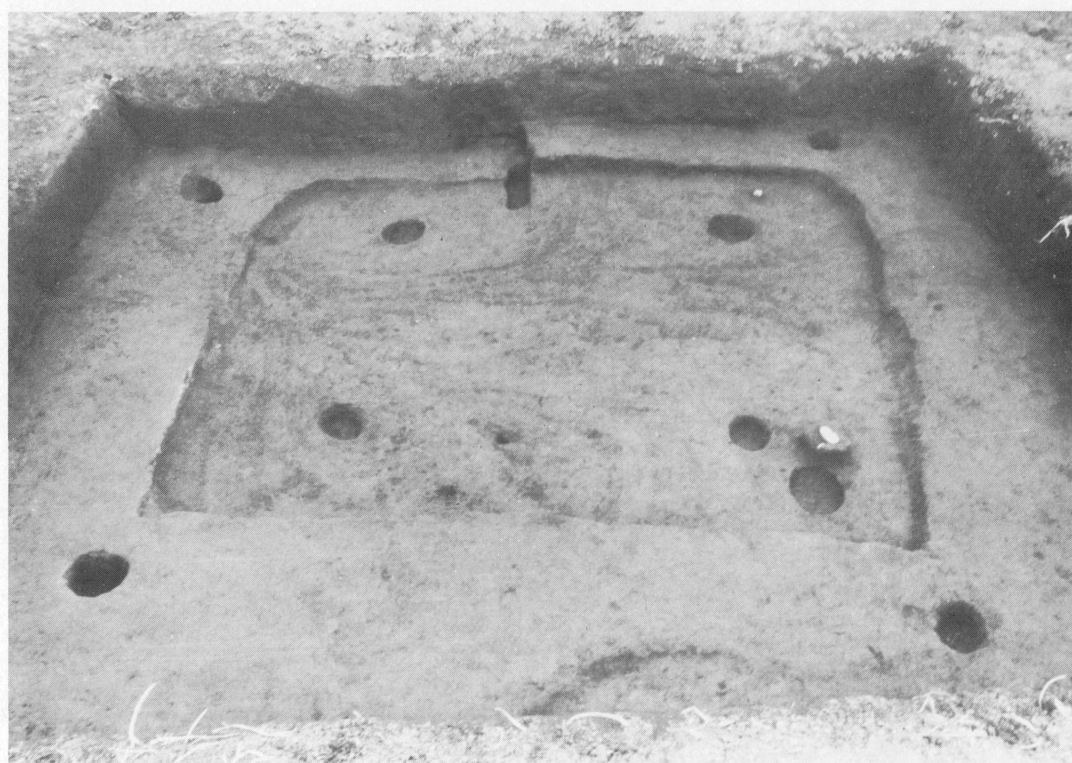
① 柳遺跡遠景（松山町尾野見台地より）



② 柳遺跡12トレンチ検出住居址



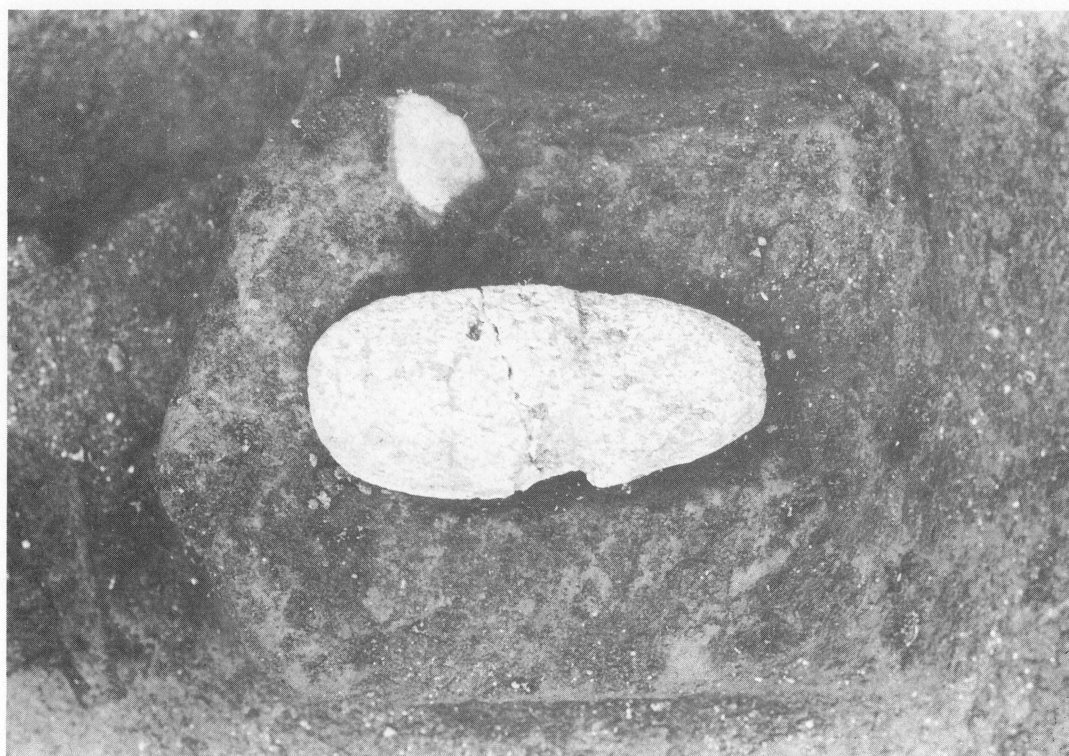
① 柳遺跡12トレンチ住居址（炭化物、遺物出土状態）



② 柳遺跡12トレンチ住居址柱穴検出状態

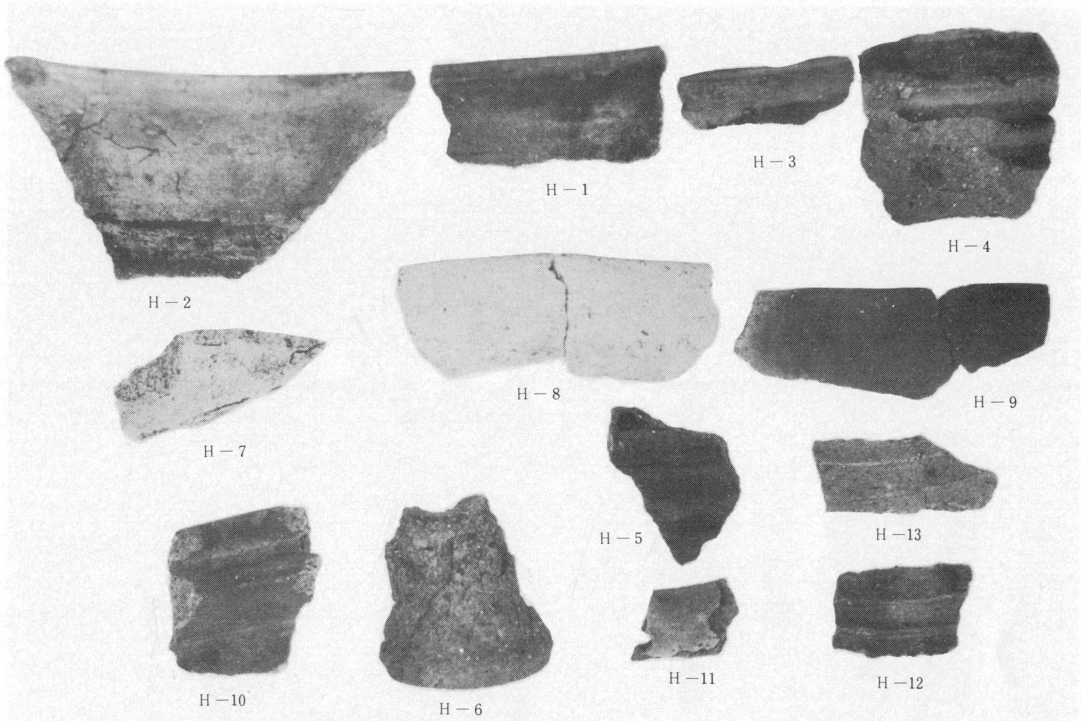


① 柳遺跡12トレンチ住居址炭化物出土状態

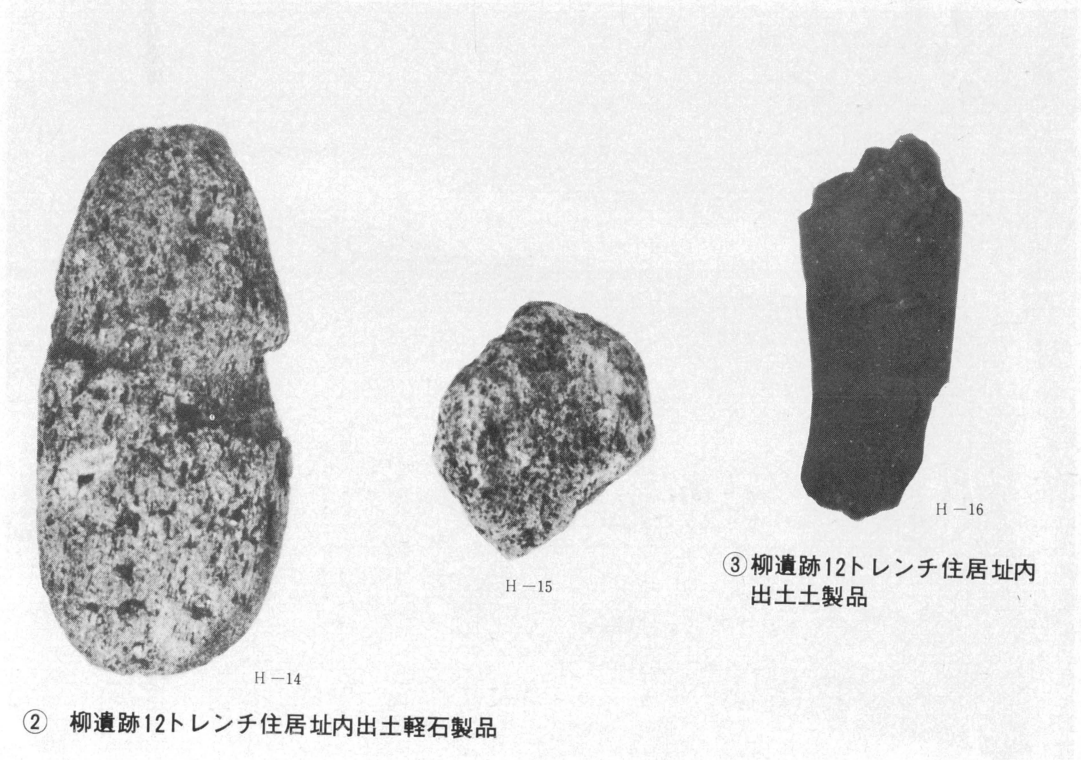


② 柳遺跡12トレンチ住居址軽石製品出土状態





① 柳遺跡12トレンチ住居址内出土土器



③ 柳遺跡12トレンチ住居址内出土土製品

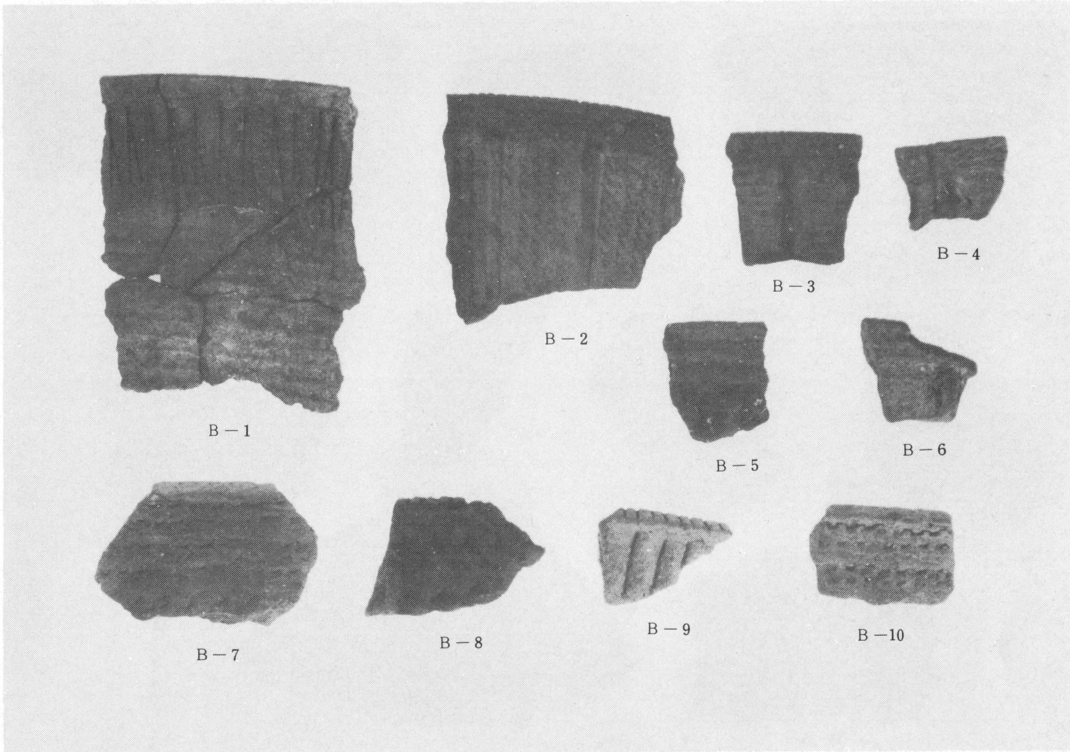
② 柳遺跡12トレンチ住居址内出土軽石製品



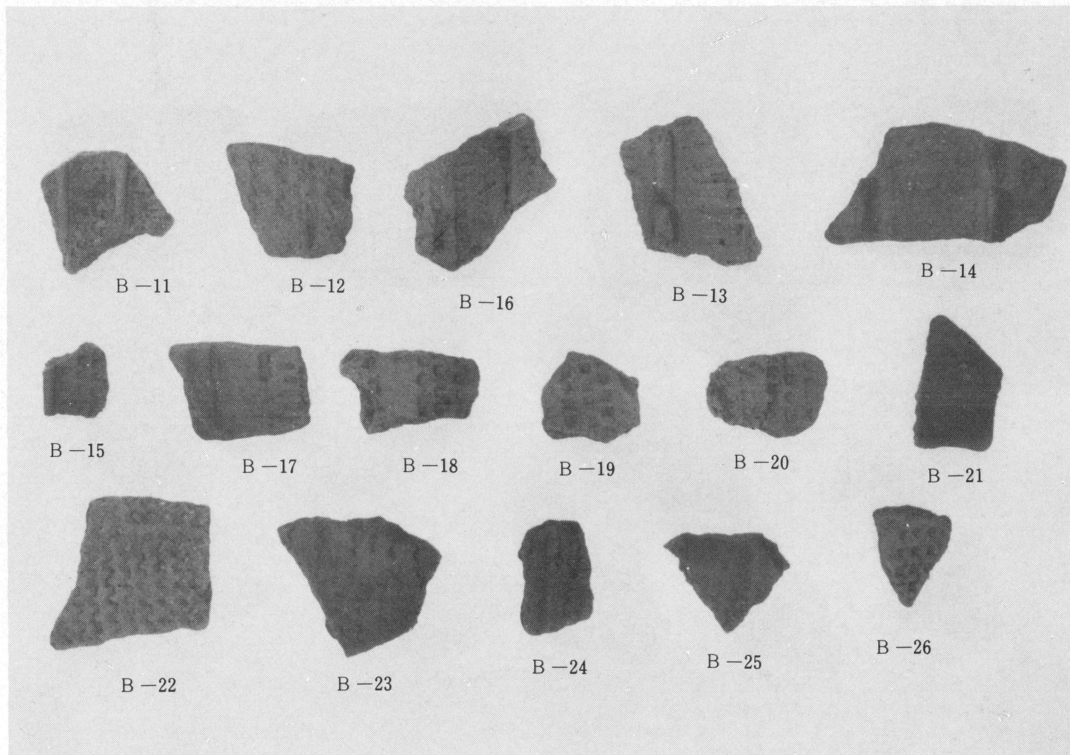
① 柳遺跡7トレンチ検出集石



② 柳遺跡10トレンチ縄文式土器出土状態

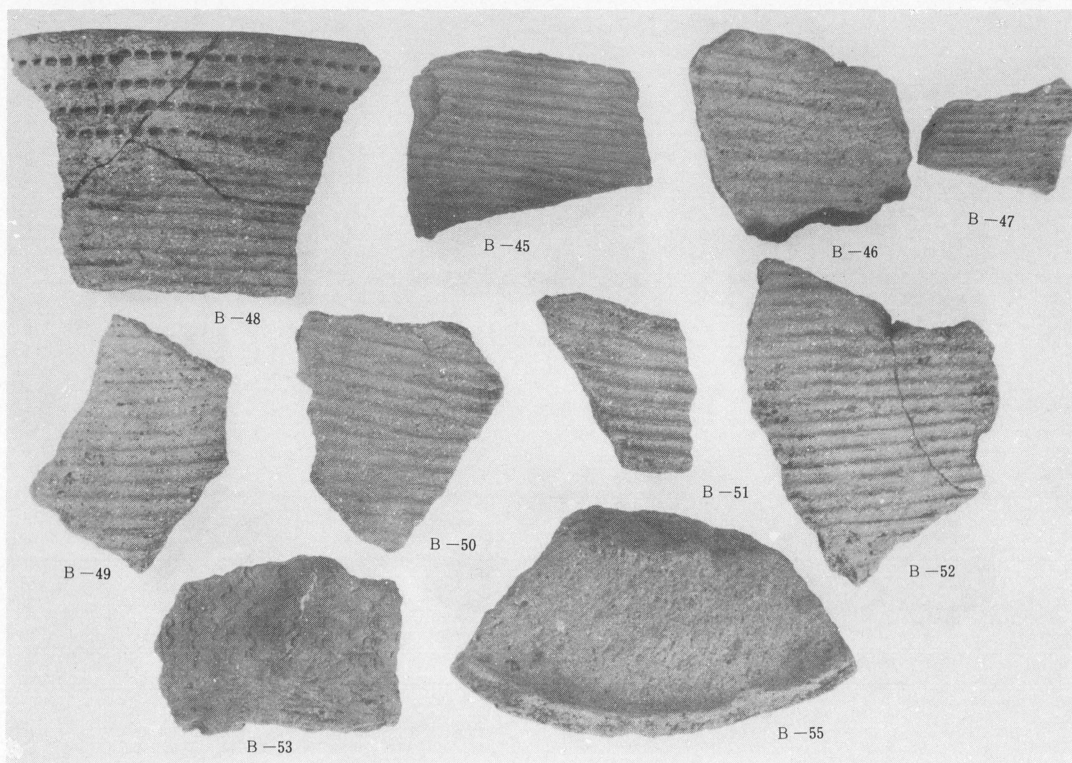


① 柳遺跡出土縄文式土器 (吉田式)

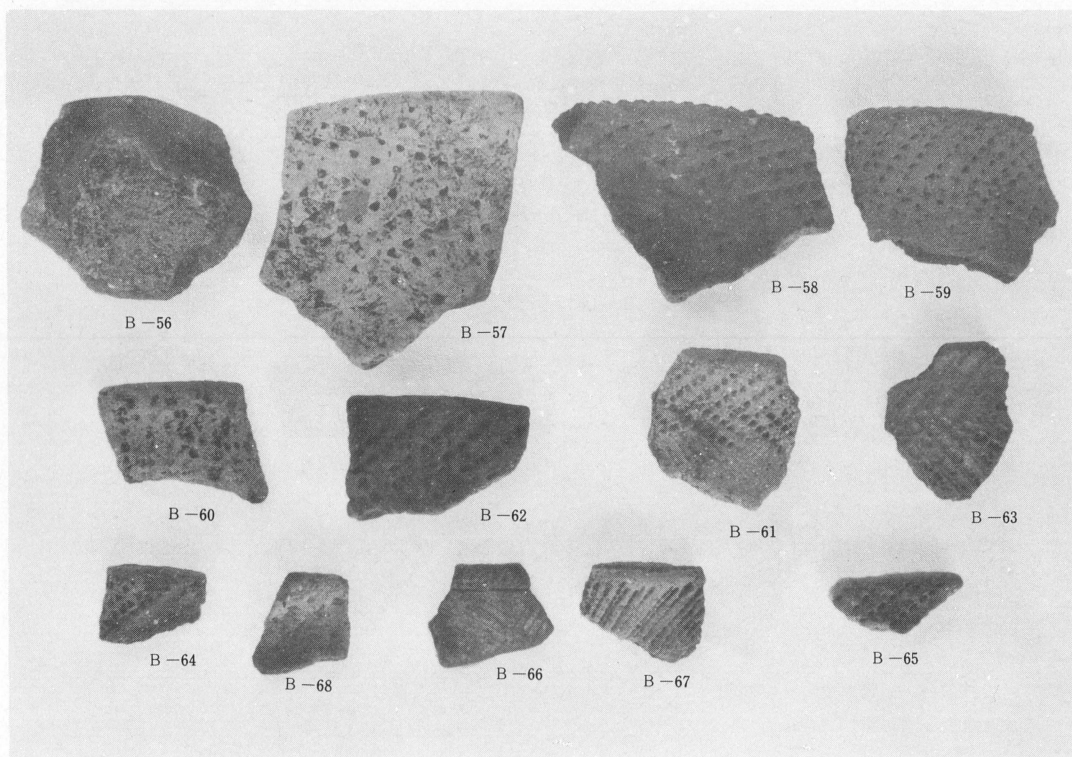


② 柳遺跡出土縄文式土器 (吉田式)

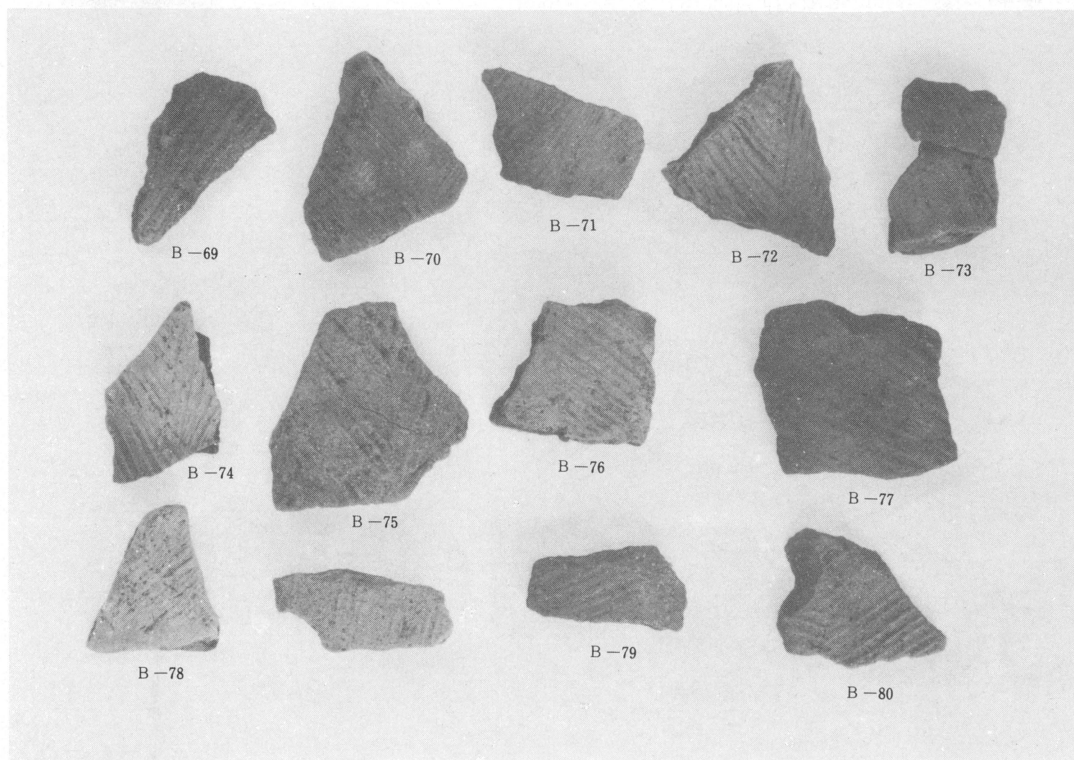
図版 14



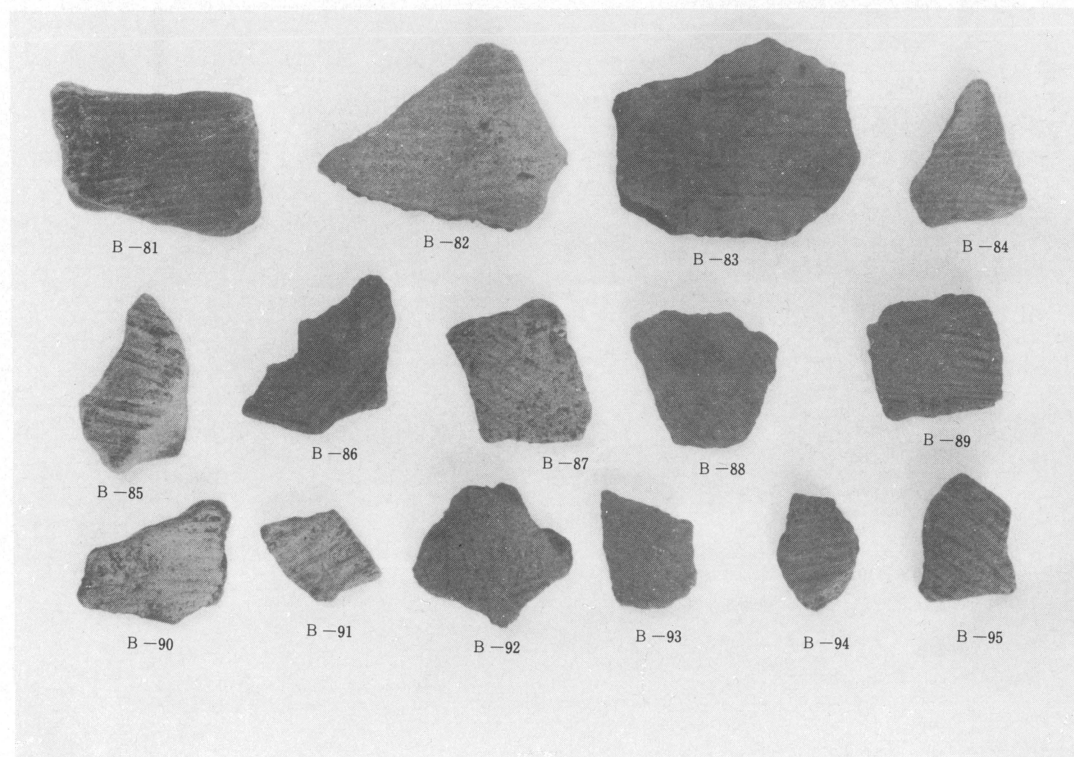
① 柳遺跡出土縄文式土器 (吉田式)



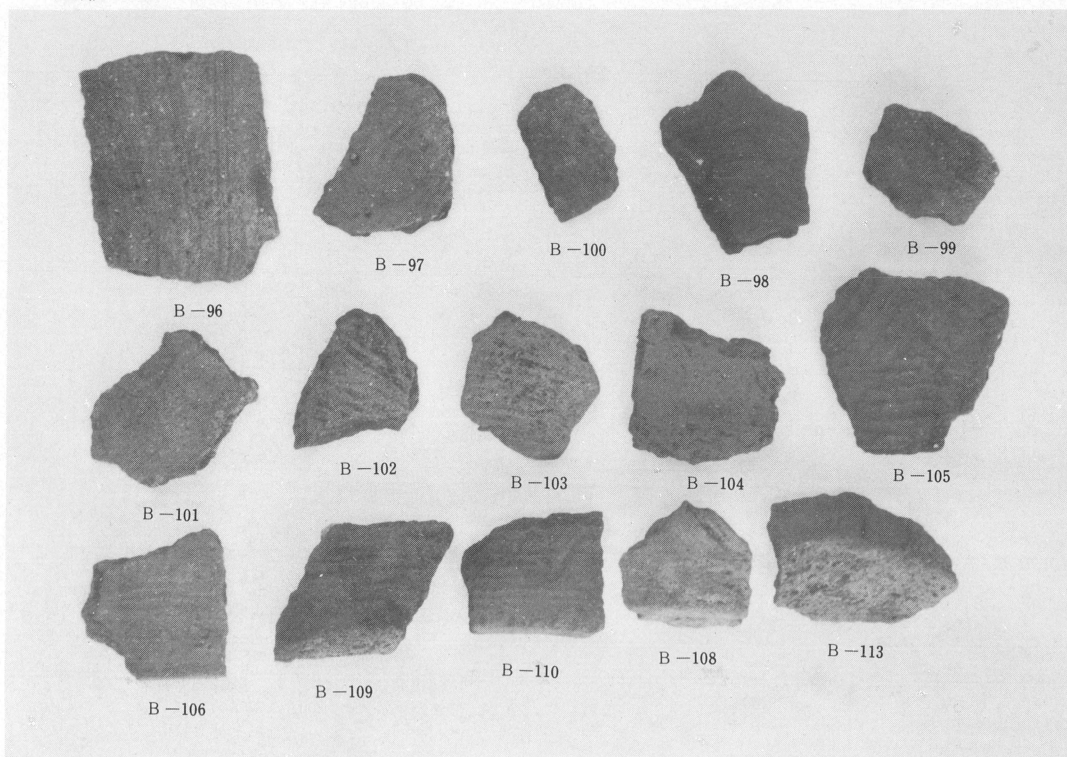
② 柳遺跡出土縄文式土器 (石坂式)



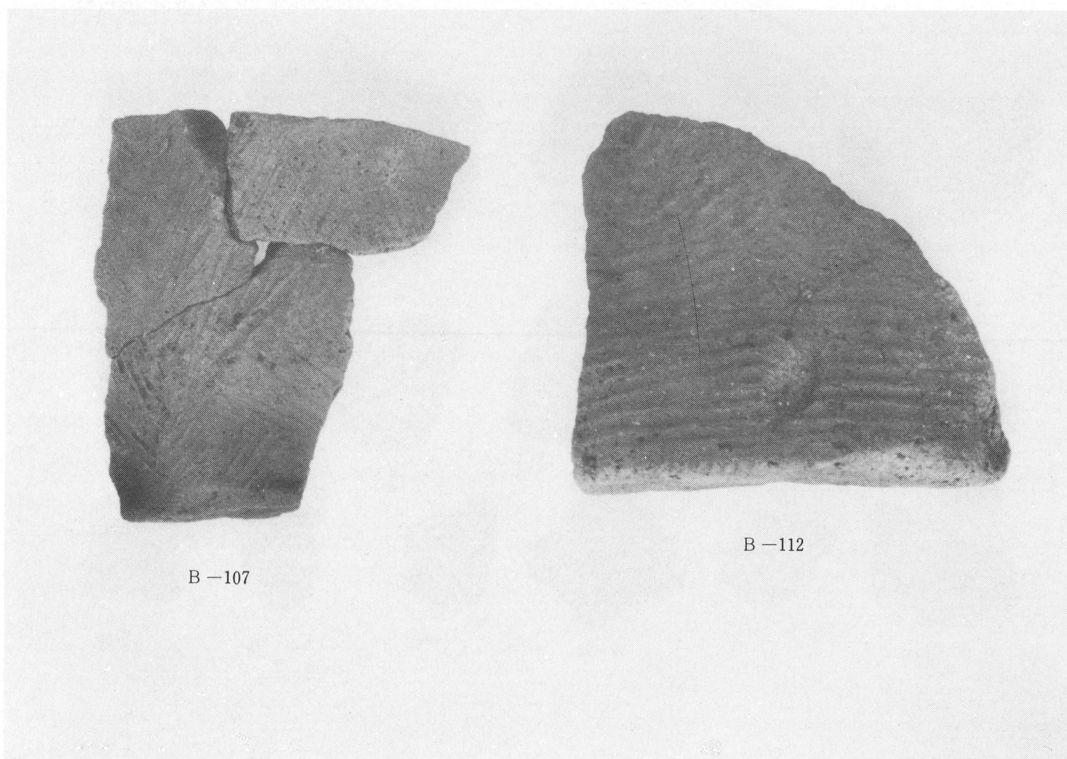
① 柳遺跡出土縄文式土器 (石坂式)



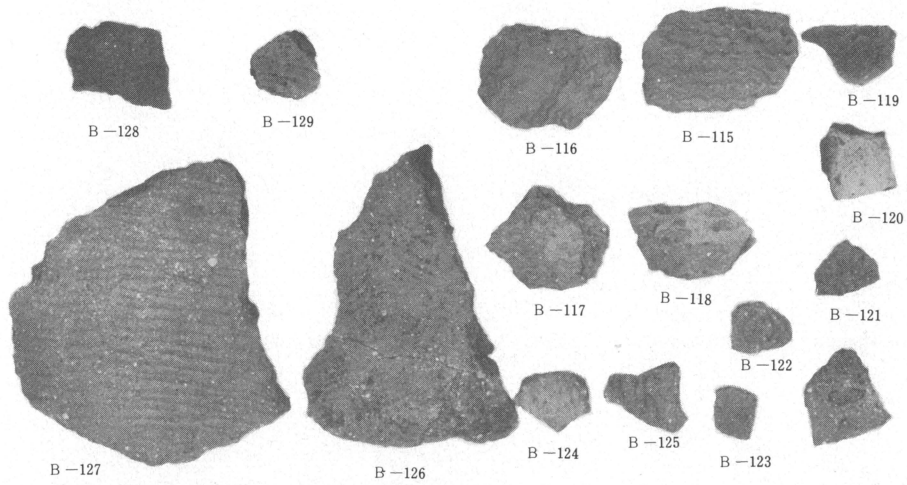
② 柳遺跡出土縄文式土器 (石坂式)



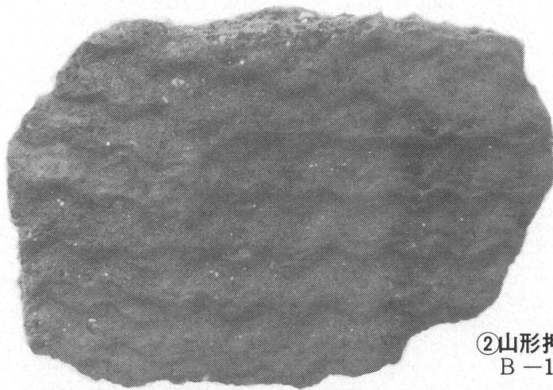
① 柳遺跡出土縄文式土器 (石坂式)



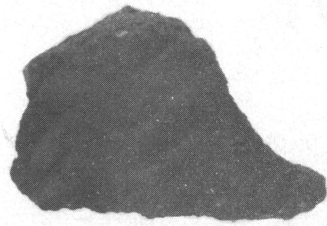
② 柳遺跡出土縄文式土器 (石坂式)



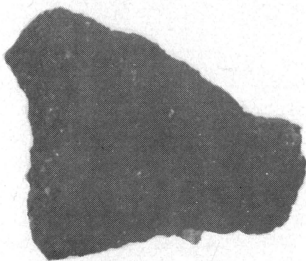
① 柳遺跡出土縄文式土器 (押型文、押圧縄文)



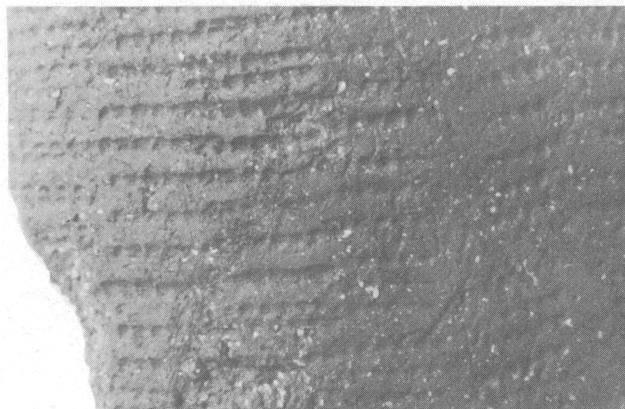
② 山形押型文土器  
B-115の拡大



③ 山形押型文土器  
B-119の拡大



④ 楕円押型文土器  
B-125の拡大



⑤ 押圧縄文土器 B-127の拡大